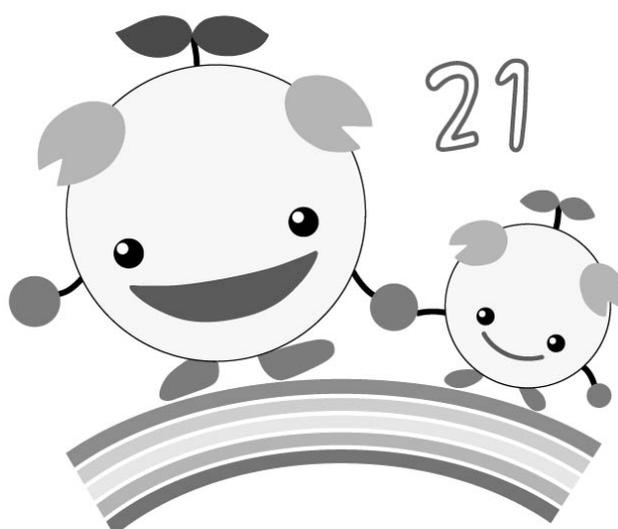


平成16年度

保健活動のまとめ



健康おおぐち21シンボルマーク

大口町保健センター

大口町健康の町宣言

健康は、まちの財産であり、しあわせの源であります。

心身ともに健康であることは、町民すべての願いであり、活力あるまちづくりのうえで、最も大切なことでもあります。

私たち大口町民は、一人ひとりが健康でしあわせな、明るい活力ある大口町を築くため、ここに「健康の町」を宣言します。

- 1 スポーツやレクリエーションをとおして、健康なところとからだをつくれます。
- 2 町民一人ひとりが調和のある、健康で豊かな家庭をつくれます。
- 3 健康づくりを地域にひろめ、健康で豊かなまちをつくれます。

目 次

1 大口市の概要

1	町の位置及び紹介.....	1
2	大口市医療機関等分布図.....	2
3	人口.....	2
4	人口動態統計年次推移.....	5
5	選択死因別死亡数年次推移.....	5
6	大口市組織図.....	7
7	保健センターの概要.....	8
8	保健活動の変遷.....	10

2 母子保健活動

1	母子保健事業の取り組み.....	18
2	母子健康手帳の交付・妊婦相談.....	20
3	妊婦・乳児健康診査.....	21
4	母親教室.....	22
5	パパママ教室.....	23
6	フレッシュママの会.....	24
7	低体重児の状況.....	24
8	乳幼児健康診査.....	25
9	子育て相談室.....	30
10	家庭訪問.....	32
11	たんぼぼ教室.....	33
12	ちゅーりっぷの会.....	34
13	離乳食教室.....	35
14	子育て支援.....	37

3 成人保健活動

1	成人保健の取り組み.....	40
2	健康手帳の交付.....	42
3	基本健康診査.....	43
4	各種がん検診.....	46
5	わかば健診.....	53
6	骨密度測定.....	55
7	健康教育.....	56
8	健康相談.....	72
9	機能訓練.....	76
10	保健師活動報告.....	78
11	家庭訪問.....	79

4 歯科保健活動

1	歯科保健事業の取り組み.....	81
2	妊婦歯科健康診査.....	82
3	幼児期歯科健康診査.....	83
4	歯周病予防教室.....	85
5	歯の健康センター.....	87
6	8020・9018運動.....	87

5 健康推進事業

1	健康まつり.....	88
2	健康推進員活動.....	89
3	「健康おおくち21」計画推進.....	96

6 感染症予防事業

1	予防接種.....	114
2	結核予防.....	119

7 救急医療

1	救急医療の取り組み.....	121
2	第一次救急医療.....	121
3	第二次救急医療.....	121

8 訪問看護ステーション

1	訪問看護の取り組み.....	122
2	訪問看護実施状況.....	123
3	経年的実施状況.....	125

9 調査・研究等

1	学生実習指導.....	126
2	研究・発表等.....	126

1 大口町の概要

1 町の位置及び紹介



大口町は、愛知県の西北部にあり、犬山扇状地の東南部に位置しています。東西約3.6キロメートル、南北約6.1キロメートル、総面積13.58平方キロメートルです。北は扶桑町、北東は犬山市、北西から西は江南市、南から南東は小牧市に接しています。

名古屋市より直線距離にしてわずか18キロメートルの近郊地域に位置していますが、五条川をはじめとした恵まれた自然や田園地帯が広がることから、良好な環境を有する住宅地としての魅力が高まっています。

町中央部を国道41号線が南北に走るとともに、周辺には東名高速道路、名神高速道路、中央自動車道、名古屋都市高速道路がネットワークを形成しています。また、近隣には県営名古屋空港があるなど国内外の地域や国々との交流条件が充実しています。

2 大口町医療機関等分布図



3 人口

(1) 地区別世帯数 (単位: 世帯)

地区	区分	世帯
秋田		682
豊田		563
大屋敷		481
外坪		236
河北		363
余野		1,478
上小口		616
中小口		663
下小口		1,337
垣田		397
さつきヶ丘		300
合計		7,116

(2) 地区別人口

(単位: 人)

地区	区分	人口		
		総数	男	女
秋田		2,202	1,111	1,091
豊田		1,997	985	1,012
大屋敷		1,412	695	717
外坪		821	405	416
河北		1,259	616	643
余野		4,283	2,207	2,076
上小口		1,752	950	802
中小口		2,052	1,041	1,011
下小口		3,567	1,852	1,715
垣田		1,058	475	583
さつきヶ丘		851	419	432
合計		21,254	10,756	10,498

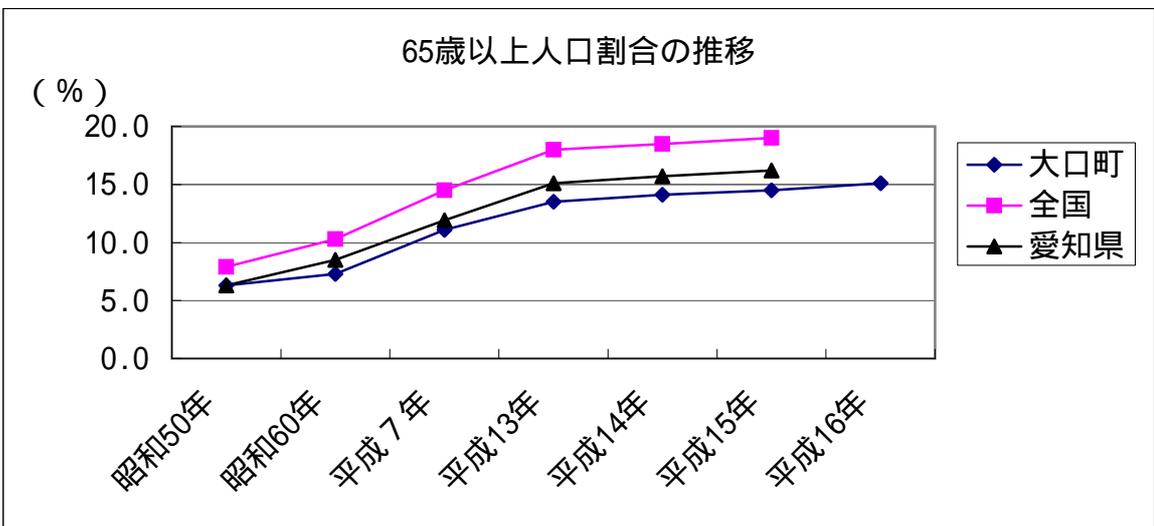
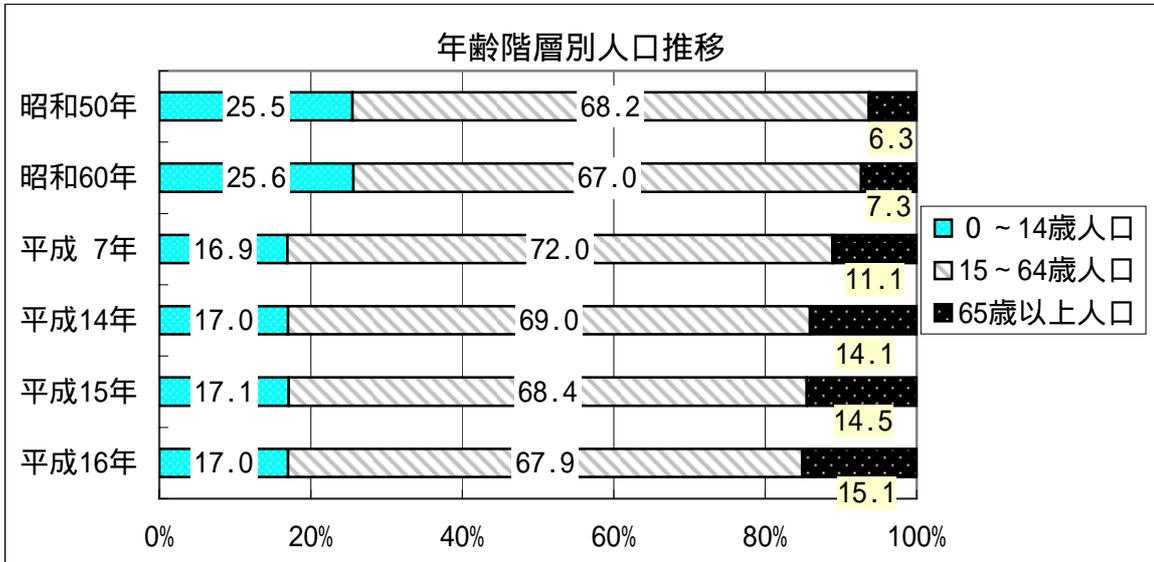
(平成16年10月1日現在 住民基本台帳より)

(3) 年齢階層別人口の推移

(単位 上段：人 下段：%)

		昭和50年	昭和60年	平成 7年	平成14年	平成15年	平成16年
総 人 口		15,894	16,195	19,031	21,087	21,209	21,254
年 齢 階 層 区 分	0～14歳人口	4,052	4,153	3,223	3,576	3,617	3,613
	比 率	25.5	25.6	16.9	17.0	17.1%	17.0%
	15～64歳人口	10,840	10,852	13,702	14,544	14,511	14,440
	比 率	68.2	67.0	72.0	69.0	68.4%	67.9%
	65歳以上人口	1,002	1,190	2,106	2,967	3,081	3,201
	比 率	6.3	7.3	11.1	14.1	14.5%	15.1%
	40歳以上人口	4,466	5,216	8,648	9,690	9,848	10,004
	比 率	28.1	32.2	45.4	46.0	46%	47%
75歳以上	308	421	873	1,170	1,250	1,301	
比 率	1.9	2.6	4.6	5.5	5.9%	6.1%	
全 国	65歳以上人口比率	7.9	10.3	14.5	18.5	19	-
愛知県	65歳以上人口比率	6.3	8.5	11.9	15.7	16.2	-

資料：全国・愛知県は、国勢調査より



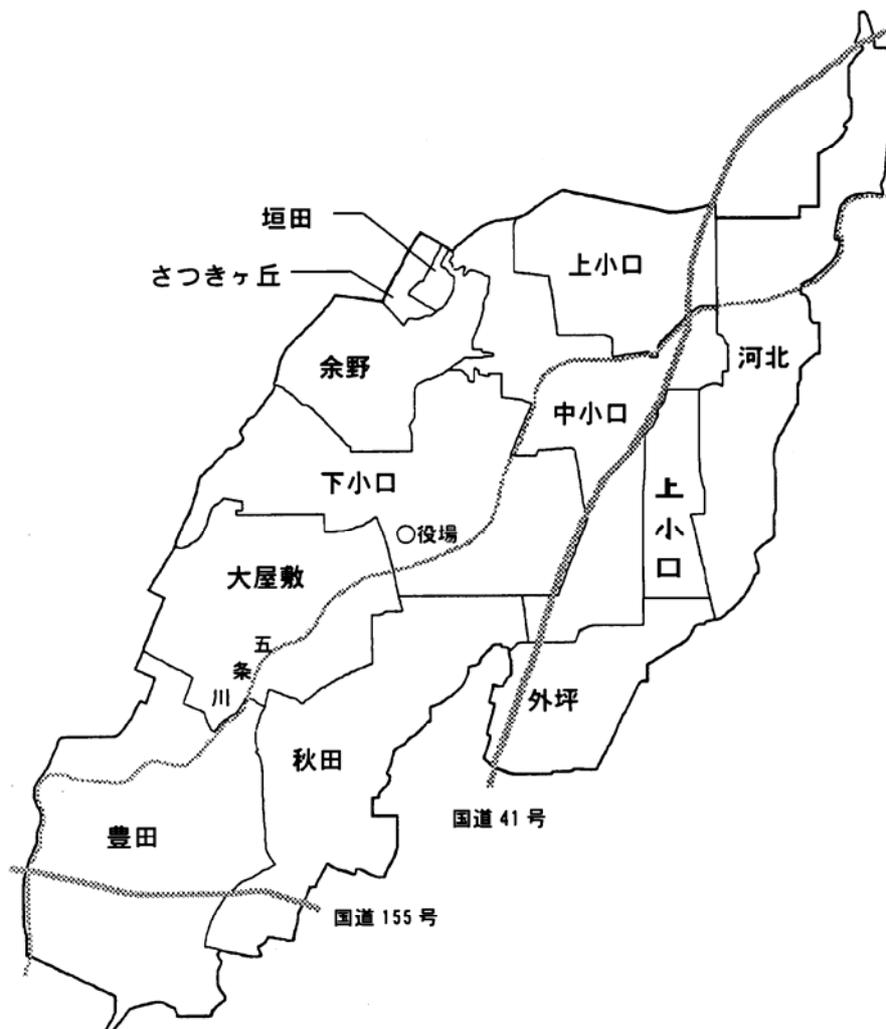
(4) 地区別高齢化率

(上段：人 下段：%)

地 区	秋田	豊田	大屋敷	外坪	河北	余野
人 口	2,202	1,997	1,412	821	1,259	4,283
65歳以上人口	301	367	295	171	230	425
比 率	13.7	18.4	20.9	20.8	18.3	9.9
地 区	上小口	中小口	下小口	垣田	さつきヶ丘	合計
人 口	1,752	2,052	3,567	1,058	851	21,254
65歳以上人口	237	297	571	140	167	3,201
比 率	13.5	14.5	16.0	13.2	19.6	15.1

(平成16年10月1日現在 住民基本台帳より)

行政区域図



4 人口動態統計年次推移

(単位：人 率：1,000対)

種別 年	人口	出生				死亡				自然増加		乳児死亡(再掲)				新生児死亡		周産期死亡		死産		婚姻		離婚	
		総数	男	女	率	総数	男	女	率	実数	率	総数	男	女	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
昭和 55	16,195	226	120	106	14.0	100	53	47	6.2	126	7.8	3	2	1	13.3	-	-	3	13.3	7	30.0	98	6.1	16	1.0
60	17,247	199	111	88	11.5	86	42	44	5.0	113	6.6	-	-	-	-	-	-	-	-	9	43.3	88	5.1	14	0.8
平成 元	17,184	162	97	65	9.4	85	48	37	4.9	77	4.5	1	-	1	6.2	1	6.2	-	-	8	47.1	83	4.8	20	1.2
6	18,822	233	127	106	12.4	103	58	45	5.5	130	6.9	-	-	-	-	-	-	-	-	2	8.5	131	7.0	23	1.2
11	20,441	259	136	123	12.7	125	67	58	6.1	134	6.6	1	-	1	3.9	1	3.9	4	5.1	6	22.6	152	7.4	29	1.4
12	20,633	271	135	136	13.1	139	65	74	6.7	132	6.4	-	-	-	-	-	-	-	-	9	32.1	167	8.1	37	1.8
13	20,911	264	130	134	12.6	136	67	69	6.5	128	6.1	-	-	-	-	-	-	-	-	6	22.2	185	8.8	37	1.8
14	21,170	279	152	127	13.2	117	61	56	5.5	162	7.7	1	-	1	3.6	1	3.6	2	7.1	4	14.1	145	6.8	44	2.1
15	21,275	254	134	120	11.9	141	80	61	6.6	113	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3.9	145	6.8	37	1.7
16	21,254	250	140	110	11.8	138	73	65	6.5	112	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	4	16.0	125	5.9	44	2.1
愛知県 H15	7,028,000	70,238	35,989	34,249	10.0	48,474	26,640	21,834	6.9	21,764	3.1	190	104	86	2.7	97	1.4	348	4.9	1,957	27.1	44,964	6.4	14,934	2.1
全国 H15	126,139,000	1,123,828	576,847	546,981	8.9	1,015,034	551,809	463,225	8.0	108,794	0.9	3,363	1,786	1,577	3.0	1,879	1.7	5,939	5.3	35,333	30.5	740,220	5.9	283,906	2.3

人口は、大口町及び愛知県が愛知県企画振興部統計課発表の総人口、全国が厚生労働省大臣官房統計情報部試算の日本人人口で各年10月1日現在である。平成16年の数値は、大口町は概数である。

< 率算出式 >

$$\text{出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率} = \frac{\text{出生} \cdot \text{死亡} \cdot \text{自然増加} \cdot \text{婚姻} \cdot \text{離婚数}}{\text{人口}} \times 1,000$$

$$\text{死産率} = \frac{\text{死産数}}{\text{出産(出生+死産)数}} \times 1,000$$

$$\text{乳児死亡・新生児死亡率} = \frac{\text{乳児死亡} \cdot \text{新生児死亡}}{\text{出生数}} \times 1,000$$

$$\text{周産期死亡率} = \frac{\text{周産期死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000$$

(平成6年以前)

$$\text{周産期死亡率} = \frac{\text{周産期死亡数}}{\text{出生数} + \text{妊娠満2週以後の死産数}} \times 1,000$$

(平成7年以降)

$$\text{死因別死亡率} = \frac{\text{死因別死亡数}}{\text{人口}} \times 100,000$$

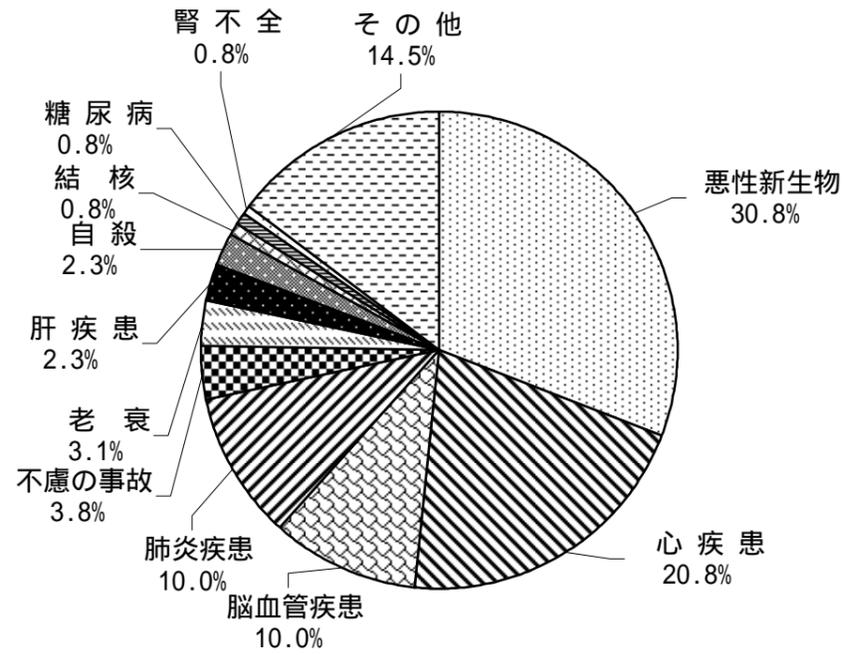
5 選択死因別死亡数・率(人口10万対)年次推移

(単位：人)

死因 年	総数		結核		悪性新生物		糖尿病		高血圧		心疾患		脳血管疾患		大動脈瘤及び解離		肺炎疾患		慢性閉塞性肺疾患		喘息		肝疾患		腎不全		老衰		不慮の事故		自殺		その他	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率		
平成 7年	119	5.3	1	5.3	37	194.5	2	10.5	2	10.5	14	73.6	16	84.1	-	-	12	63.1	1	5.3	-	-	1	5.3	2	10.5	4	21.0	7	36.8	3	15.8	17	89.3
10年	105	-	-	-	34	167.5	3	14.8	-	-	11	54.2	11	54.2	-	-	18	88.7	1	4.9	-	-	-	-	2	9.9	2	9.9	3	14.8	2	9.9	18	88.7
12年	139	-	-	-	38	184.2	1	4.8	1	4.8	15	72.7	23	111.5	1	4.8	24	116.3	-	-	1	4.8	2	9.7	1	4.8	7	33.9	7	33.9	4	19.4	14	67.9
13年	136	-	-	-	34	162.6	1	4.8	1	4.8	28	133.9	23	110.0	3	14.4	12	57.4	1	4.8	-	-	1	4.8	2	9.6	2	9.6	10	47.8	5	23.9	13	62.2
14年	117	-	-	-	32	151.2	2	9.4	1	4.7	16	75.6	11	52.0	2	9.4	13	61.4	2	4.8	-	-	2	9.4	3	14.2	4	18.9	6	28.3	2	9.4	21	99.2
15年	141	-	-	-	44	206.8	2	9.4	-	-	21	98.7	25	117.5	-	-	12	56.4	1	4.7	-	-	2	9.4	2	9.4	4	18.8	7	32.9	4	18.8	17	79.9
16年	138	1	4.7	4.7	43	202.3	1	4.7	-	-	27	131.7	15	70.6	-	-	13	61.2	-	-	-	-	3	14.1	2	9.4	4	18.8	5	23.5	3	14.1	20	94.1
愛知県 H15	48,476	136	1.9	1.9	14,931	212.5	547	7.8	194	2.8	8,056	114.6	5,952	84.7	489	7.0	4,190	59.6	562	8.0	142	2.0	663	9.4	833	11.9	1,198	17.0	2,103	29.9	1,566	22.3	6,914	98.4
全国 H15	1,015,034	2,336	1.9	1.9	309,465	245.3	12,865	10.2	5,593	4.4	159,406	126.4	132,044	104.7	9,814	7.8	94,900	75.2	13,617	10.8	3,701	2.9	15,729	12.5	18,797	14.9	23,446	18.6	38,688	30.7	32,082	25.4	142,551	113.0

人口は各年10月1日現在のもの。平成16年の数値は、大口町は概数である。

(1) 選択死因別死亡割合 (平成16年)

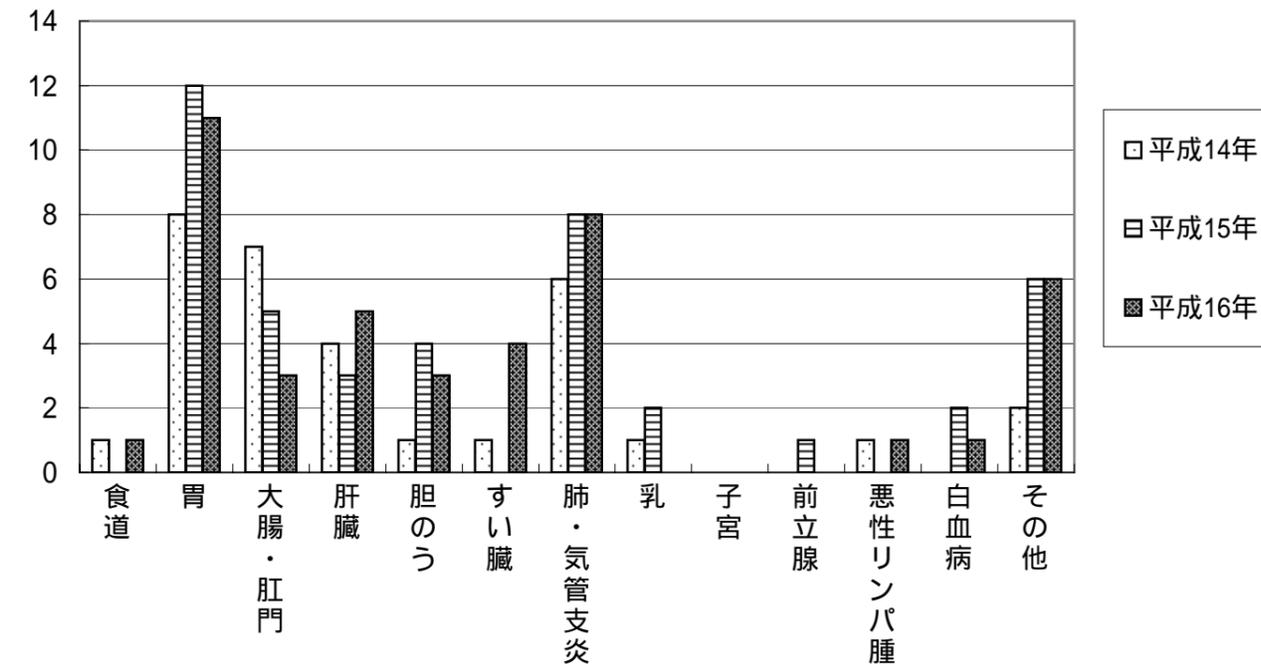


(3) 年齢別死亡数・死亡原因 (平成16年)

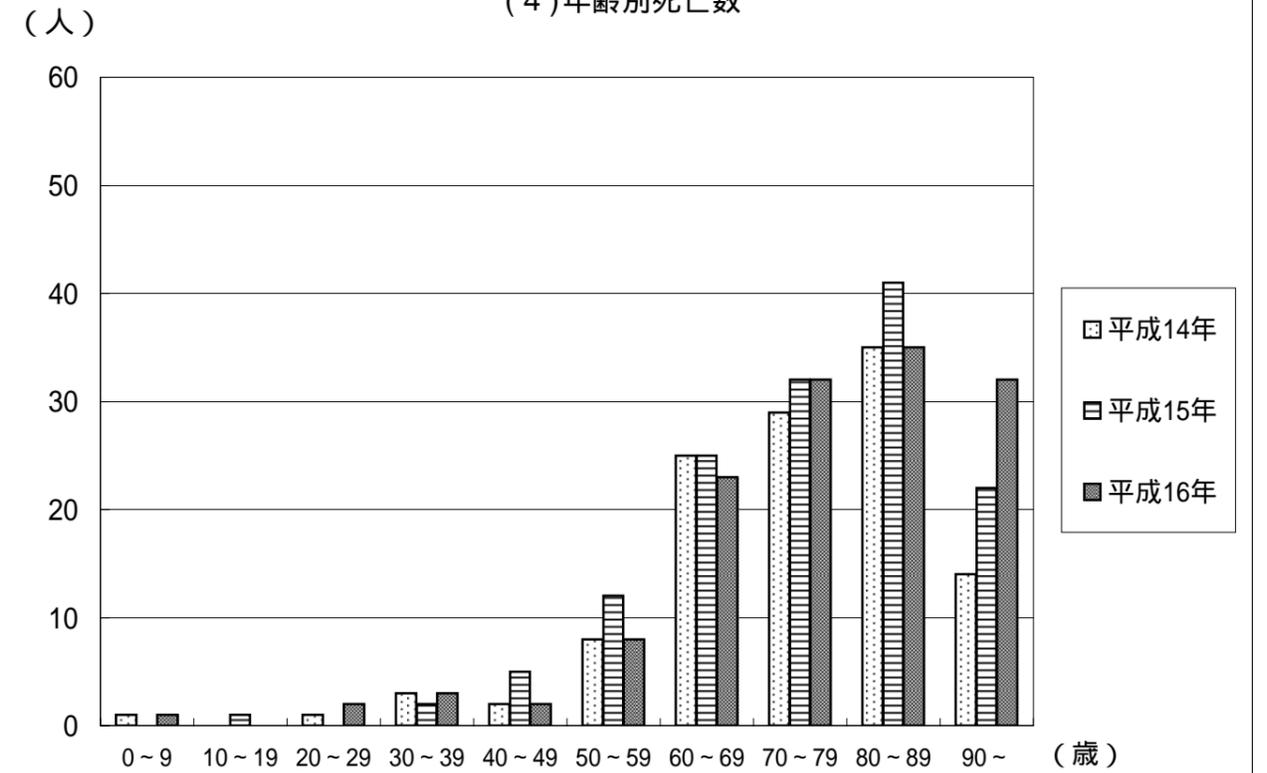
(単位:人)

年齢 (歳)	総数	結核	悪性新生物	糖尿病	高血圧	心疾患	脳血管疾患	大動脈瘤及び解離	肺炎疾患	慢性閉塞性肺疾患	喘息	肝疾患	腎不全	老衰	不慮の事故	自殺	その他
0~9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
10~19	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20~29	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
30~39	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-
40~49	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
50~59	8	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
60~69	23	-	15	-	-	2	2	-	1	-	-	1	-	-	-	-	2
70~79	32	-	8	-	-	10	5	-	4	-	-	1	1	-	1	-	2
80~89	35	1	7	1	-	8	6	-	4	-	-	-	1	1	1	-	5
90~	32	-	6	-	-	7	2	-	4	-	-	-	-	3	2	-	8

(2) 悪性新生物 部位別死亡数

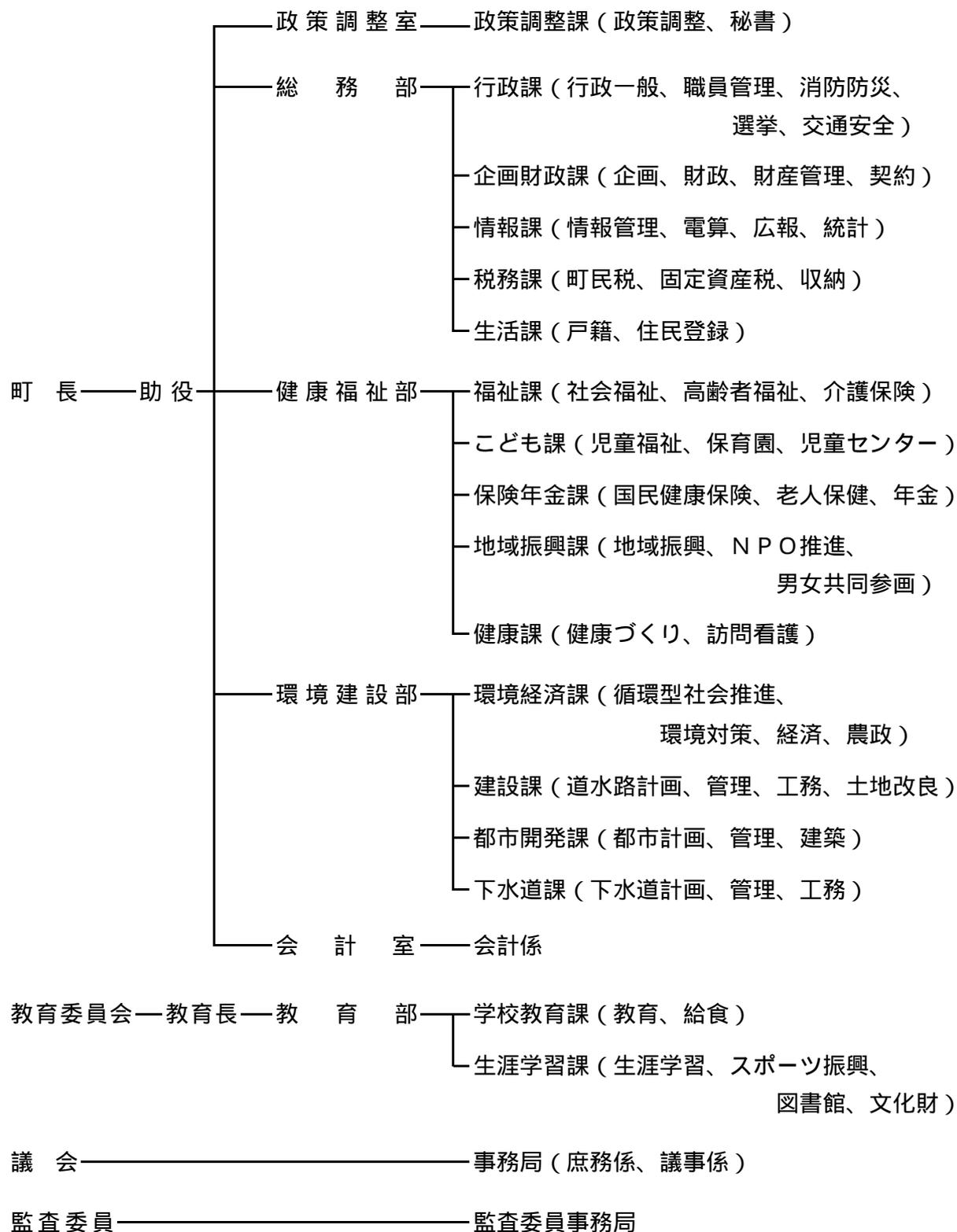


(4) 年齢別死亡数



6 大口町組織図

(平成16年7月1日現在)



7 保健センター（健康文化センター）の概要

平成 10 年健康づくりの中核拠点、健康と福祉の交流拠点、歴史と文化のふれあい拠点として、健康文化センターが建設され、保健センターも健康文化センター内に移転した。

(1) 施設の概要（健康文化センター含む）

- ・位置 丹羽郡大口町伝右一丁目 3 5 番地
- ・本館 構造 鉄筋コンクリート造 5 階建
(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)
 - 1 階 1,847.40 m² 保健センター（専用面積 974.78 m²）
 - 2 階 1,639.98 m² 保健センター（専用面積 567.15 m²）
社会福祉協議会・訪問看護ステーション
 - 3 階 1,106.63 m² 歴史民俗資料館
 - 4 階 1,106.63 m² 研修センター
 - 5 階 1,106.63 m² トレーニングセンター
 - PH 階（機械室） 167.04 m²
- ・機械棟 構造 鉄筋コンクリート造
床面積 168.00 m²
- ・駐輪場 構造 鉄骨造
床面積 40.00 m²
(延床面積 7,182.31 m²)
- ・敷地面積 10,413.95 m²
(内訳) 本体施設 5,069.95 m²
ふれあい広場、駐車場 5,344.00 m²

・本体施設の工期

着工 平成 9 年 6 月 24 日

竣工 平成 10 年 9 月 24 日

・使用開始年月日

平成 10 年 11 月 9 日

(2) 保健センターの主要施設

- 1 階 事務室・応接室・栄養実習室・栄養指導室・会議室・相談室・機能回復
訓練室・作業室・多目的室・検査室・授乳室
- 2 階 待合室・予診室・計測室・診察室・歯科室・保健指導室・聴力室・カルテ
庫・消毒室・検査室・プレイルーム・授乳室

(3) 事務分掌

- (1) 予防接種に関すること。
- (2) 結核予防に関すること。
- (3) 感染症に関すること。
- (4) 医療団体等に関すること。
- (5) 救急医療に関すること。
- (6) 保健センターの管理運営に関すること。
- (7) その他地域保健対策に関すること。
- (8) 母子保健に関すること。
- (9) 成人保健に関すること。
- (10) 老人保健に関すること。
- (11) 健康増進に関すること。
- (12) 健康推進員に関すること。
- (13) 健康に係る教育及び地区組織の育成に関すること。
- (14) 介護保険の認定調査に関すること。
- (15) その他保健衛生に関すること。
- (16) 訪問看護事業に関すること。
- (17) 訪問看護事業特別会計に関すること。

(4) 主な事業内容

母子保健...母子健康手帳交付、妊婦相談、母親教室、パパママ教室、フレッシュママの会、乳幼児健診(4 か月児・9 か月児・1 歳6 か月児・3 歳児)、離乳食教室、子育て相談室、たんぼぼ教室、ちゅーりっぷの会、歯科健診、子どもの事故予防教育、子育てサークル等支援

成人保健...住民結核検診、基本健康診査(肝炎ウイルス検診)、がん検診(胃・子宮・肺・乳・大腸・前立腺)、健康手帳交付、健康相談、栄養相談、歯周病予防健診、生活習慣病予防教室(ステップアップ糖尿病予防教室)、B 型訓練教室(ひだまりの会)、65 歳からの健康づくり教室(元気はつらつ教室)、わかば健康診査、体力チェック

予防接種...集団接種：急性灰白髄炎(ポリオ)、ツベルクリン反応検査、BCG 接種
個別接種：麻疹、三種混合、二種混合、日本脳炎、風疹、インフルエンザ(65 歳以上等)

家庭訪問...第 1 子出生児全員及び希望者・低出生体重児(2000 g 以上)及び里帰り等の希望者、虐待予防、寝たきり(者)老人、精神障害者、介護保険認定調査等

訪問看護...寝たきり者、難病、障害者等の訪問看護

健康推進事業...健康おおぐち 2 1 計画推進事業、健康推進員活動(OB 会も含む)、健康まつり等

その他...健康文化センター維持管理

8 保健活動の変遷

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法 ・ その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
昭和 40			・ 昭和 26 年国民健康保険直営診療所開設 ・ 国保診療所改築 (1月)
41			・ 母子保健センター設立 (5月) (助産業務中心)
43			・ 保健婦 1 名退職
48	・ 妊婦相談・出生児全戸訪問 開始 ・ 0～3 か月児健診 ・ 4～6 か月児健診 ・ 7～12 か月児健診		
50	・ 出生児全戸訪問廃止		・ 保健婦産休 (12月) ・ 助産業務廃止 (3月) (保健指導業務のみとなる)
51	・ 1～2 歳児健診開始 ・ 歯科健診開始 ・ 母子健康手帳の交付 母子センターに移行		・ 保健婦 1 名採用 (4月) ・ 助産婦 4 名退職 (9月) ・ 保健婦 1 名採用
52	・ はは子教室(歯の健康教室)実施 ・ 1～2 歳児健診廃止 (9月) ・ 1 歳 6 か月児健診開始 (10月)	・ 一般健康相談開始 ・ 地区巡回健康相談開始 ・ 寝たきり老人訪問開始	・ 助産婦 1 名退職
53	・ 第 1 子全戸家庭訪問実施 ・ 乳児健診改正 4 か月児健診開始 6 か月児健診開始 ・ 健診時集団保健指導開始 ・ 母親教室 2 回コースとなる	・ 福祉会館での健康相談 開始 ・ 畜産婦人部への保健活 動開始	・ 国民の健康づくり ・ 市町村保健婦一体化になる ・ 麻疹の予防接種について厚生省よ り通知個別接種になる (8月) ・ 大口町総合福祉会館設立(12月)
昭和 54	・ 6 か月児健診廃止 ・ 9 か月児健診開始 ・ 乳幼児健康カード改正	・ 地区巡回健康相談廃止 ・ 家庭介護教室開始	・ 大口町健康づくり推進協議会設置
56			・ 母子センター係長設置 ・ 事務職員本庁配置となる
55	・ 育児教室開始 (7月) (1 歳 6 か月児健診事後指導)		

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
57		<ul style="list-style-type: none"> ・乳がん検診開始 (12月) ・健康手帳交付開始 (2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用 (4月) ・看護婦1名臨時採用 (4月) ・老人保健法公布 (3月) ・老人保健法施行 (2月) ・国保診療所廃止 ・尾北歯科医師会による歯の健康センター開始
58	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児相談開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産婦人部への保健活動廃止 ・一般健康診査開始 ・成人病教室開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用 (4月) ・看護婦1名臨時から雇いとなる ・保健センター開設 (4月) ・保健婦1名退職 (9月)
59	<ul style="list-style-type: none"> ・育児教室をたんぼぼ教室に改名 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康体操(エアロビクス)地区活動開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用 (4月)
60	<ul style="list-style-type: none"> ・母親教室3回コースとなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区巡回健康相談再開 ・健康(パネル)展開始 	
61		<ul style="list-style-type: none"> ・大腸がん検診開始 ・寝たきり家族の会開始 ・一般健康診査廃止 	
昭和 62	<ul style="list-style-type: none"> ・歯みがき教室開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本健康診査開始 ・70歳以上の老人健康実態調査 	
63		<ul style="list-style-type: none"> ・歩く健康教室開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名退職 (3月)
平成 元年		<ul style="list-style-type: none"> ・成人歯科相談開始 ・大腸がん検診・肺がん検診を町内医療機関にも委託 ・健康(パネル)展をミ二健康展に改名 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用 (4月) ・国の高齢者保健推進「10年戦略ゴールドプラン」策定 ・高齢者サービス調整チーム会議開始 ・保健福祉調整会議 ・保健婦1名退職 (3月)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦歯科相談開始 ・キッチンカー(県)による離乳食教室開始 (年2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・機能訓練教室としてひまわり教室開始(年6回) ・身体障害者を訪問しひまわり教室を紹介 ・乳がん検診町内医療機関に追加委託 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用 (4月)

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児健診に視力検査追加（10月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室毎月1回となる ・ひまわり教室スタッフに作業療法士加わる ・送迎用リフトバス配置（1月） ・地区巡回健康相談廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・3月議会に「健康の町宣言」について一般質問
4	<ul style="list-style-type: none"> ・母親教室スタッフに栄養士加わる ・3歳児健診に聴力検査追加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室毎月2回となる ・生命の貯蓄体操開始 ・80歳以上老人及び要介護者の全戸訪問実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・機構改革により、保健センターに本庁より衛生係移転、センター職員が課長補佐兼衛生係長1名として加わり6名となる（4月） ・8020運動推進対策事業開始（県） ・東保育園に障害者保育「うさぎ組」開設 ・事務職雇1名採用（7月）
平成 5		<ul style="list-style-type: none"> ・生命の貯蓄体操、国保とタイアップし前期・後期の2教室とする ・ひまわり教室野外活動導入 ・作業療法士、年間18回となる ・家庭介護教室（10回コースで実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・大口町老人保健福祉計画を策定 ・大口町健康づくり企画推進委員会及び担当者部会設置 ・大口町議会定例会にて「大口町健康の町宣言」議決（12月） ・老人福祉センター内にデイサービスセンター（D型）開設
6		<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室半日から一日となる。作業療法士24回となる ・男の料理教室開始・家庭介護教室（6回コース）で実施 ・家庭訪問に作業療法士加わる 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦活動業務が母子、成人の業務分担制となる ・保健所法の一部改正により地域保健法に改名（7月） ・母子保健法の一部改正（7月） ・予防接種法及び結核予防法の一部改正（10月） ・「健康の町宣言」記念式典記念講演会及び第1回健康まつり実施（11月12日・13日） ・国保人間ドック開始

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児相談スタッフに助産婦、栄養士加わる（各6回） ・保育園・保健センター連絡会開始（12月に1回） ・日本脳炎・三種（二種）混合・風しんが個別接種となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきウォーキング講座開始（8回コース） ・ひまわり教室に理学療法士加わる（年2回） ・家庭訪問に理学療法士（2回） ・家庭訪問に作業療法士（6回） ・骨検診開始（11月・1月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用（4月） ・特別養護老人ホーム「御桜乃里」開設（4月）在宅介護支援センター・デイサービスセンター（B型）が併設される（7月） ・老人福祉センター内デイサービスセンターがC型に変更 ・大口町健康推進員設置（6月）
平成 8	<ul style="list-style-type: none"> ・母親教室4回コースとなる（妊婦歯科相談を母親教室の中に組み入れる） ・町で離乳食教室開始 ・「乳幼児相談」を「子育て相談室」に改名し、同時に2階にて「親子ふれあい広場」（生涯学習課）を開設 ・自主子育てサークル誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室理学療法士、年6回になる ・ひまわり教室、花見交流会で豊山町来町・岩倉市来町 ・8020 運動歯の健康コンクール開催 ・歩く健康教室を歩く健康のつどいに改名 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関するアンケート実施 ・母子保健計画策定 ・精神保健法の一部を改正する法律公布 ・健康まつりを「ふれあいまつり」に統合 ・管内栄養士会設立（1月） ・老人保健施設「さくら荘」開設 ・保健センター内に健康課新設 ・（仮称）健康文化センター基本設計、実施設計 ・公衆衛生審議会で「生活習慣病」の概念を提言
9	<ul style="list-style-type: none"> ・パパママ教室開始（年2回） ・子育てサークル支援 ・3歳児健康診査、妊婦・乳児健康診査等、県より委譲される ・歯科健診の対象者を2歳、2歳6か月児とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング教室中止 ・ステップアップ教室開始 ・生命の貯蓄体操前期のみで終了 ・後期より太極拳教室開始 ・基本健康診査実施要領改正によりヘモグロビンA1c加わる（平成5年より町は実施） ・町民歩け歩け大会開始（生涯学習課） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域保健法全面施行（4月） ・母子保健法全面施行（4月） ・保健サービス評価事業開始 ・地域福祉サービスセンター開設（4月1日） ・健康推進員要綱改正 ・（仮称）健康文化センター建設工事着手（6月24日） ・臓器の移植に関する法律施行（10月） ・介護保険法制定（12月） ・予防接種電算化

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
10		<ul style="list-style-type: none"> ・大口町健康文化センター竣工記念「ウォーキング大会」開催（11月8日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・大口町が医師会関係を取りまとめる（4月から） ・栄養士1名採用（4月） ・訪問看護ステーション開設の準備、看護婦1名採用（4月） ・介護保険モデル事業実施 ・大口町介護保険事業計画及び新高齢者保健福祉計画策定のための町民意識調査実施 ・大口町健康文化センター竣工（9月24日） ・大口町健康文化センターの1・2階部分に保健センター移転（11月9日） ・保健センター内に機能訓練室、栄養実習室等整備される ・がん検診に係る経費が一般財源化される ・精神保健福祉法施行
平成 11	<ul style="list-style-type: none"> ・歯みがき教室時母親に対しても染め出しブラッシング指導開始 ・子育て情報コーナー設置 ・乳幼児の救急蘇生と応急処置の講習会開始 ・離乳食教室（前期）を隔月実施に増設 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり教室を半日とし、毎週実施 ・健康情報コーナー設置 ・健康手帳発行を老人医療窓口の一部移管する ・介護保険認定調査訪問開始（10月） ・基本健康診査の広域化（扶桑大口医療機関） ・機能訓練自主活動発足を支援 ・地域リハビリ教室実施に向けて、ボランティアの研修会を実施 ・ひまわり教室（A型機能訓練）廃止（3月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健婦1名採用（4月） ・「精神薄弱」の用語が「知的障害」に改められる（4月） ・訪問看護ステーション開設（4月） ・伝染病予防法廃止（4月） ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行（4月） ・西児童センター開設（5月） ・大口町障害者福祉計画実施 ・男女共同参画社会基本法公布（6月） ・結核非常事態宣言（7月） ・精神保健福祉法 一部改正 ・大口町新高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定（3月） ・愛知県市町村保健行政栄養士連絡協議会設立（3月）

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・フレッシュママの会を母親教室時に開催(4月から) ・児童センターでの赤ちゃん広場支援開始 ・乳幼児健診(4か月・9か月・1歳6か月)時の集団指導をグループ指導に変更 ・1歳6か月児健診時、歯の染め出し開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひだまりの会(B型機能訓練)を大屋敷学共にて開始 ・ひまわり教室(A型機能訓練)自主活動開始 ・成人歯科相談の名称を大人のための歯みがき教室と改める(後半) ・介護者の健康実態調査実施 ・2か所目のB型機能訓練実施に向けボランティア研修会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センター事務室に他課(地域振興課)入る(4月) ・介護保険スタート(4月) ・地方分権一括法(4月) ・21世紀における国民健康づくり運動「健康日本21」がスタートし2010年度をめどとした目標値を定めた ・大口町在宅医療等推進支援情報提供システム等介護保険支援訪問事業実施児童虐待の防止等に関する法律制定(11月) ・県が「健康日本21あいち」を策定(3月) ・児童虐待の防止等に関する法律の施行(11月)
平成 1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・はみがき教室廃止 ・母子保健計画策定のための「子育てに関するアンケート」実施 ・貧血予防セミナー開始 ・もぐもぐ教室(後期離乳食教室)開始 ・小児肥満予防教室開催 ・母子保健計画策定 ・歯科健診時の染め出し実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・中小口地区ひだまりの会開催 ・介護者の健康実態調査をまとめ、介護保険説明会時、地区にて報告また、愛知県公衆衛生研究会にて発表 ・高齢者(65歳以上)のインフルエンザワクチン接種開始 ・ステップアップ糖尿病教室のまとめを県で発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センター事務室に地域振興課と入れ替えに福祉課が入る(4月) ・国保人間ドック時に脳ドックを導入 ・総合健康指導事業と高齢者健康指導事業(国保補助事業)を実施し、健康に関する実態調査、健康教育を実施(13年、14年度) ・大口町在宅医療等推進支援情報提供システム等、介護保険支援訪問事業実施 ・保健師2名産休(11月~) ・保助看法の一部改正に伴い、保健師、助産師、看護師となる(3月1日) ・大口町母子保健計画策定(3月) ・予防接種法の一部改正があり、二類疾病としてインフルエンザが追加される(11月7日) ・健康推進員OB「ほほえみ会」3部会(ウォーキング、食、劇)となる

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
14	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健推進連絡会議開催 ・貧血セミナー廃止 ・母親教室第4回にパパママ教室を組み込む(年3回 年6回) ・1歳6か月児、3歳児健診時、保育士配置 ・妊婦・乳児健康診査の県外受診も可とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・肝炎ウイルス検診を基本健康診査に加える ・基本健診の期間変更(8月～10月)となる ・福祉講演会・健康まつり時健康劇発表 ・ひだまりの会やろまい大祭に参加 ・(仮)健康おおぐち21策定に向けての準備 ・健診関係の電算化に向けての準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・町制40周年 ・健康文化センターの管理が健康課担当となる ・医師会関係事務の担当が犬山市になる(4月から) ・栄養士法改正に伴い、管理栄養士・栄養士は別免許となり、管理栄養士が免許制となる(4月) ・保健師2名育休(4月～12月)(4月～3月) ・健康保険法等の一部を改正する法律施行(10月1日～)に伴い健康手帳の交付についての一部改正
15	<ul style="list-style-type: none"> ・ちゅーりっぷの会開催(月1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかば健康診査開始(20歳～39歳対象) ・8020運動歯の健康コンクールに9018表彰を追加 ・住民検診時の検尿・身長・体重計測等廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・結核予防法施行令の一部改正により、小中学生のツベルクリン反応・BCG接種廃止(4月) ・肝炎ウイルス検診等実施要領の一部改正により、HCV抗体検査で中力価及び低力価とされた検体に対してHCV抗原検査等実施となる ・健康増進法施行(4月30日) ・受動喫煙防止対策について通知(4月30日) ・重症急性呼吸器症候群(SARS)、高病原性鳥インフルエンザで対応マニュアル、連絡会議等実施 ・健康日本21大口町計画策定委員会設置(7月1日～3月31日) ・訪問看護ステーション看護師7月退職 ・次世代育成支援対策推進法(7月) ・大口町巡回バス試行開始 ・大口町庁内グループウェア開始 ・市町村合併について任意の三市二町合併検討協議会を設置したが解散となる(3月) ・第2次障害者福祉計画策定(3月) ・「健康おおぐち21」策定(3月) ・保健師2名産休育休(4月～3月)(11月～) ・管理栄養士産休(3月～)

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1歳6か月児健康診査及び3歳児健康診査に対する補助金一般財源化される(4月) ・ 愛知県特定不妊治療費助成事業開始(7月1日) ・ 赤ちゃん訪問を、第1子全員と第2子以降の希望者に実施(11月~) ・ 母子保健システム、予防接種電算化推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団がん検診に、前立腺がん・乳がん(Gを導入)を実施し、自己負担金を徴収する ・ 住民検診時・わかば健診時に簡易体力測定を実施。まとめを愛知県公衆衛生研究会で発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅当番医制運営補助金一般財源化(4月) ・ 保健師2名採用(4月) ・ 看護師1名採用(4月) ・ 保健師1名育休(4月~3月) ・ 管理栄養士1名育休(4月~3月) ・ 愛知県広域災害救急医療情報システムの設置及び運営に関する協定書変更(6月) ・ 児童虐待の防止等に関する法律の一部を改正する法律の施行(10月) ・ 健康おおぐち21「元気体操」作成(2月) ・ 「健康おおぐち21」推進1年目、健康推進員10周年記念イベント「春だ!笑顔だ!元気まつり」を大口町元気な町づくり事業(協働事業)で実施(3月5日) ・ 健康おおぐち21シンボルマーク公募し決定(3月) ・ 次世代育成支援対策推進法 行動計画策定指針(16年8月)に従い、「大口町次世代育成支援行動計画」を策定(3月) ・ 大口町訪問看護ステーション廃止(3月) ・ 虐待防止連絡会担当者会議開始(3月) ・ 愛知万博「愛・地球博」開催(3月)「おおぐちデイ」(3月28日)

2 母子保健活動

1 母子保健事業の取り組み

母子保健事業は、妊娠・出産・育児を通して母性や父性が育まれ、乳幼児が愛され、かつ心身ともに健やかに育つことを目指している。

しかし、近年は少子化や核家族化、地域連帯意識の稀薄化、情報の氾濫、女性の社会進出など、母子を取り巻く環境は著しく変化しており、それに伴う育児不安や家族機能の弱体化などが大きな社会問題となっている。

子育ての孤立化も起こりやすい現状にあり、理想と現実の狭間で不安を抱えて子育てしている母親支援のため、16年度は年々相談者が増加している子育て相談室でスムーズな相談体制がとれるよう場の設定や流れの改善を行った。

また、母子健康手帳発行時や赤ちゃん訪問時に母の不安や子育てに対する思いに注目したアンケートを実施することにより、母の思いをより受け止めて支援をするよう努めた。

従来第1子の赤ちゃん訪問は希望者に対し実施していたが、16年11月から第1子全員と第2子以降の希望者にも積極的に訪問を実施するようにした。保健師の訪問の中で、発育・発達のフォローとともに、母親の支援を通して虐待予防のために動いたケースも増えており、児童相談センター等と連携しながら対応を行った。

学校との連携として、中学校での健康教育の機会もあった。毎年養護教諭との話し合いを重ねる中で、大口町の子どもをとりまく健康について、共通課題をもって保健活動を進めていく必要性を感じている。

17年3月には、大口町次世代育成支援行動計画が策定され、地域社会全体で子育て支援できる体制づくりを目指し、関係機関と連携を図りながら保健活動を展開したい。

母子保健 管理体系

妊娠中	母子健康手帳・妊婦相談	妊婦・乳児健康診査事業	医療機関・保健所・保育園・児童センター・児童相談センター・学校との連携 地域の子育て支援ネットワーク・子育てサークル支援
	母親教室（3回1コース） パパママ教室		
出生	乳幼児健康カード作成		子育て相談室（親子ふれあい広場）生涯学習課との連携
乳児期	赤ちゃん訪問		
	フレッシュママの会		
	4か月児健康診査	離乳食教室（初期～中期） "（中期～後期）	
	9か月児健康診査		
幼児期	1歳6か月児健康診査		予防接種（集団・個別）
	歯科健診 （2歳・2歳6か月児）	1歳6か月児・3歳児 健康診査事後指導教室 （たんぼぼ教室）	
	3歳児健康診査	ちゅーりっぷの会	
	就 園	各園庭開放 年12回 すくすくひろば	
小学校入学	就学指導委員会	母子保健推進連絡会議 保育園との連絡会 養護教諭との連絡会 必要に応じて（家庭訪問 面接相談）を実施 電話相談	

事故予防教育（母親教室第3回、
乳幼児健康診査、赤ちゃん広場等）

2 母子健康手帳の交付・妊婦相談

(1) 目的

妊婦の健康を守り健全な児を生ま育てることのできるよう保健指導する。

(2) 対象

妊婦

(3) 日時

第1・3月曜日 午前10時～ ・ 随時(希望により)

(4) 内容

ア 母子健康手帳の交付及び活用方法の説明

イ 妊娠中の保健指導(栄養・日常生活の注意・母乳保育について)

ウ 保健センターの行事内容説明と案内

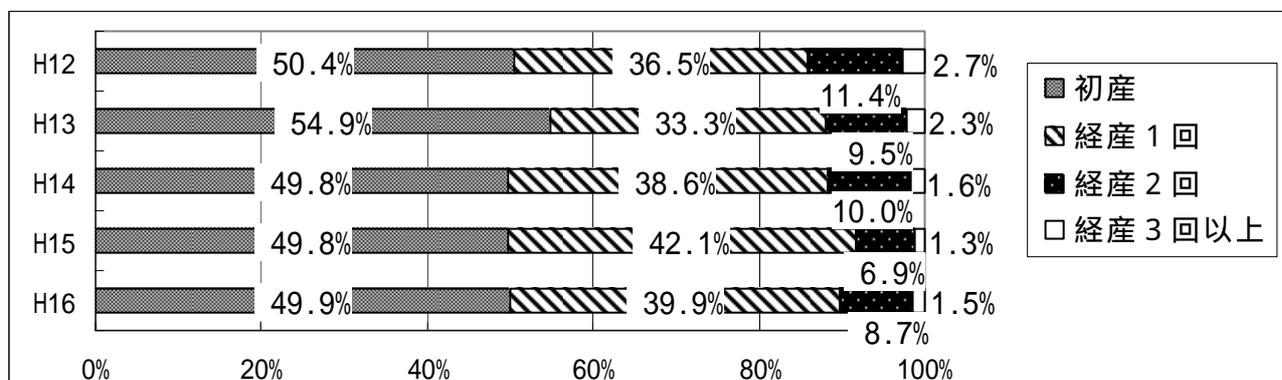
(5) 妊娠届出状況

ア 届出時の妊娠週数

(単位:上段・人 下段・%)

区分 年度	総数	妊 娠 週 数					就業	喫煙	年齢	
		11週以内	12~21週	22~27週	28週以降	不詳			20歳未満	40歳以上
12	262 (100.0)	92 (35.1)	167 (63.7)	2 (0.8)	1 (0.4)	0 (0.0)				
13	264 (100.0)	115 (43.6)	149 (56.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)				
14	251 (100.0)	82 (32.7)	162 (64.5)	4 (1.6)	2 (0.8)	1 (0.4)				
15	233 (100.0)	72 (30.9)	157 (67.4)	3 (1.3)	1 (0.4)	0 (0.0)	85 (36.5)	5 (2.1)	5 (2.1)	5 (2.1)
16	263 (100.0)	79 (30.0)	177 (67.3)	3 (1.2)	4 (1.5)	0 (0.0)	97 (36.9)	9 (3.4)	0 (0.0)	1 (0.4)

イ 年次別経産・初産の割合



3 妊婦・乳児健康診査

(1) 目的

妊婦・乳児に対し異常を早期に発見し適切に対処することで妊娠の正常な経過や安全な分娩、乳児の個々にあった発達を支援する。

(2) 対象

妊婦および乳児

(3) 内容

母子健康手帳発行時に、妊婦健康診査受診票2枚(第1回・第2回)、乳児健康診査受診票2枚(第1回・第2回)を発行し、医療機関委託で実施している。

平成14年度より県外受診も補助対象になるよう対応した。

(4) 結果

ア 妊婦健康診査受診結果

(単位：人・%)

	受診票 交付数 1	受診 人員 1	受診率	受 診 結 果					
				異常なし	所見あり(延件数)				
					高血圧 蛋白尿	尿糖	貧血	HBs抗原 陽性	その他
第1回	271(8)	247(10)	91.1	165	2	1	79	0	0
第2回	272(9)	237(9)	87.1	132	1	2	102	0	0
計	543(17)	484(19)	89.1	297	3	3	181	0	0

1 ()内は県外受診の再掲

所見あり基準

高血圧：140/90mmHg	貧血：11.0g/dl未満
尿蛋白：++以上	尿糖：++以上

イ 乳児健康診査受診結果

(単位：人・%)

	受診票 交付数 1	受診人員 1	受診率	受診結果	
				異常なし	所見あり (延件数)
第1回	277(14)	233(10)	84.1	227	7*
第2回	290(1)	187(0)	64.5	186	1*
計	567(15)	420(10)	74.1	413	8

1 ()内は県外受診者の再掲

* 遷延性黄疸2、湿疹1、臍ヘルニア1、感冒1、額部母斑1、臍肉芽1

* 湿疹1

4 母親教室

(1) 目的

ア 妊婦と胎児の健康を守るための正しい知識を身につけるとともに、母性を育て育児について学ぶ機会とする。

イ 地域において、母親同士の交流がもてるよう援助する。

ウ 歯科健診・歯科相談をおこない、歯科保健への関心を高める。

(2) 対象

妊婦

(3) 日時

第1回 偶数月第3金曜日 午後1時30分～3時30分 (妊娠5・6か月頃)

第2回 奇数月第2金曜日 午後1時30分～3時30分 (妊娠6・7か月頃)

第3回 奇数月第3金曜日 午後1時30分～3時30分 (妊娠7・8か月頃)

(4) 内容及び従事者

	内 容	従事者	実施回数	備考
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中の栄養 ・ビデオ『あかちゃん このすばらしき生命』 ・グループワーク ・安産ワンポイントレッスン 	在宅栄養士 保健師	6回	—————
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ『おなかの中から始まる丈夫な歯育て』 ・歯科健診 ・食生活チェック ・ブラッシング指導 ・安産ワンポイントレッスン 	歯科医師 歯科衛生士 管理栄養士 保健師	6回	歯科健診 食生活チェック ブラッシングをロー テーションで実施
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・丈夫な赤ちゃんを産むために ～お医者さんからのアドバイス～ ・チャイルドシートの着用について ・ビデオ『母乳』 ・お産を楽に 妊婦体操 ・グループワーク 	産婦人科医師 保健師	6回	—————

(5) 母親教室参加状況

(単位：人・%)

年度	対象者	第1回		第2回		第3回		第4回	
		参加数	参加率	参加数	参加率	参加数	参加率	参加数	参加率
12	262 (132)	72 (56)	27.5 (42.4)	78 (52)	29.8 (39.4)	57 (43)	21.8 (32.6)	52 (41)	19.8 (31.1)
13	250 (142)	67 (56)	26.8 (39.4)	71 (57)	28.4 (40.1)	68 (55)	27.2 (38.7)	53 (43)	21.2 (30.3)
14	251 (125)	65 (53)	25.9 (42.4)	78 (54)	31.1 (43.2)	54 (45)	21.5 (36.0)	パパママ 教室へ移行	
15	233 (116)	54 (46)	23.2 (39.7)	65 (50)	27.9 (43.1)	53 (49)	22.7 (42.2)		
16	263 (131)	51 (37)	19.4 (28.2)	70 (44)	26.6 (33.6)	51 (37)	19.4 (28.2)		

参加数の()内は初産婦を再掲

5 パパママ教室

(1) 目的

妊娠や育児を夫婦のこととしてとらえ、それぞれの役割を考える機会とする。

(2) 対象

妊婦及びその夫

(3) 日時

偶数月第4金曜日 年6回 午後1時30分～4時00分

(4) 内容及び従事者

内 容	従事者
・ビデオ『お父さんへ ～赤ちゃんからのメッセージ～』 ・お産の経過 ・リラックス法 ・先輩ママとの交流会 ・妊婦疑似体験（妊婦シミュレーター使用）	助産師 保健師

(5) 参加状況

(単位：回・人)

年度	実施回数	参加者数（初産）	父親参加者数（再掲）
15	6	70（ - ）	29
16	6	65（39）	22

(6) 参加動機

- ・これからのためになると思ったから
- ・育児をするため
- ・出産に立ち会いたいから
- ・いろいろ勉強したかったから
- ・妊婦体験をして妻の気持ちを少しでも理解したかったから

(7) 参加者の感想（父親・母親）

母の感想

- ・赤ちゃんを抱くことができ、生まれてくるのが楽しみになりました。
- ・パパにも経験してもらって一緒にお産に向かうんだという感じです。
- ・みんな産む前は一緒の気持ちなんだ。お産を体験したママは強い。

父の感想

- ・出産は大変だ。サポートしなくてはと思った。無事に出産してほしい。
- ・子育ての意欲が湧いてきた。生の声が聞けて参考になった。
- ・他のパパおよび、ママとその赤ちゃんとの交流ができたことがよかった。
- ・もうすぐ産まれてくるんだなと実感した。
- ・二人の愛情を同じだけ注いであげることが大切だと感じました。

6 フレッシュママの会

(1) 目的

出産をして間もない時期は、外出する機会も少なく、母親が1人で育児の悩みを抱えやすい。同じ立場の母親たちと集うことにより、母親同士が共感し前向きに育児に取り組めるよう支援する。

(2) 対象

生後1～3か月頃の乳児と母親

(3) 日時

偶数月第4金曜日 午後2時～3時30分（パパママ教室と一部同時開催）

(4) 内容及び従事者

内 容	従事者
<ul style="list-style-type: none"> ・ 座談会 ・ 予防接種の説明 ・ 赤ちゃんの計測（希望者） ・ 妊婦さんとの交流 	保健師 助産師

(5) 参加状況

年度	実施回数	参加者数
15	6	53組
16	6	78組

7 低体重児の状況

（単位：人・％）

分類 年度	出生 児数	低体重児 出生数	率	1,300g 未満	1,300～ 1,499g	1,500～ 1,799g	1,800～ 1,999g	2,000～ 2,299g	2,300～ 2,499g
12	271	19	7.0			1		7	11
13	264	23	8.7				4	14	5
14	279	30	10.8		2	2	2	11	13
15	253	28	11.1	1	1	0	6	6	14
16	250	22	8.8	* 3	0	0	0	4	15
愛知県 (H15)	70,236	6,526	9.3	337	145	363	481	1,834	3,366

2,000g以上の低体重児は町の保健師が訪問している。

*内2人は多胎

8 乳幼児健康診査

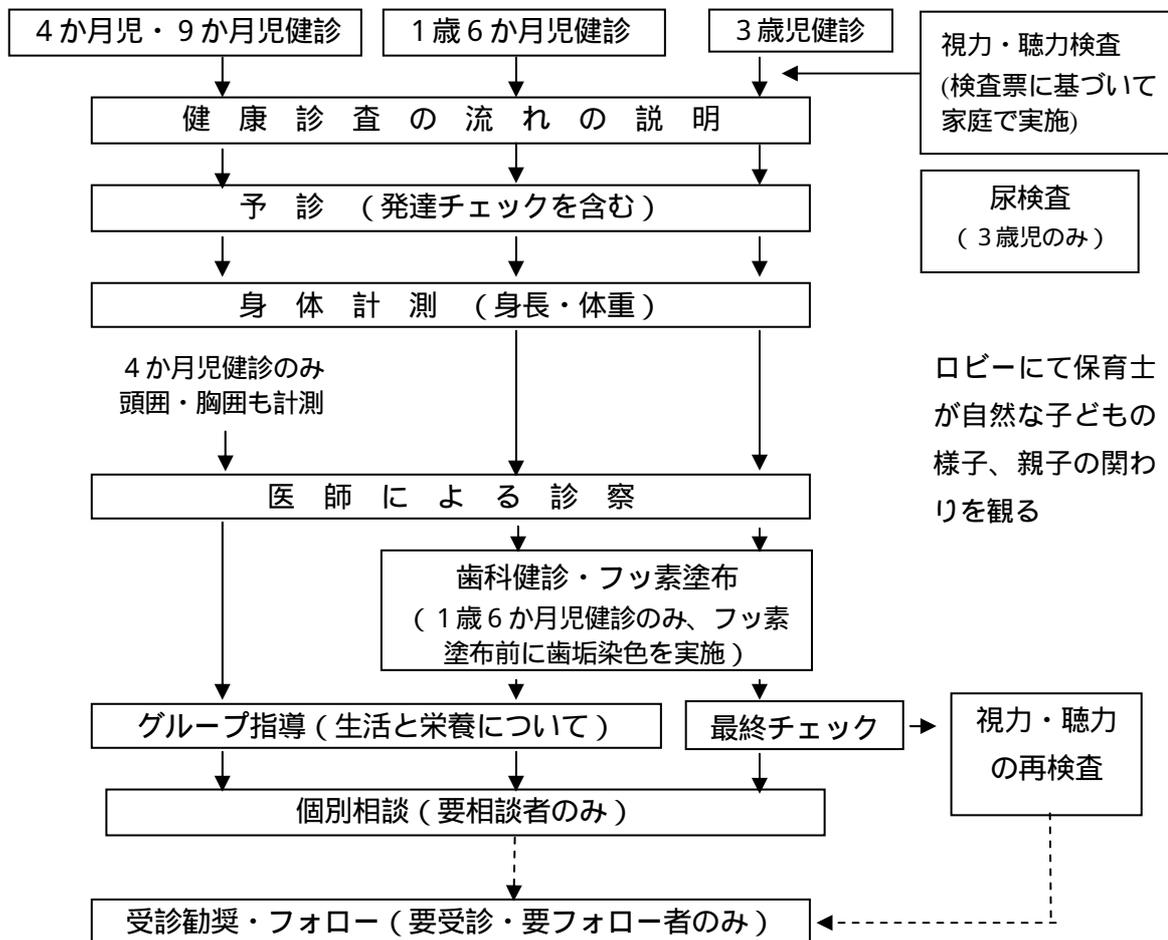
(1) 目的

乳幼児期の大切な節目である時期に、発育発達状況を確認することで、疾病や心身障害の早期発見に努める。また、個々の成長、育児に合わせた保健指導を行い、子育てを支援する。

(2) 対象・日時・従事者等

事業名	対象児	実施日	従事者	個人通知
4か月児健康診査	4か月児	毎月第4水曜日	医師・保健師・看護師 管理栄養士・事務	有
9か月児健康診査	9か月児	毎月第2火曜日	医師・保健師・看護師 管理栄養士・事務	無
1歳6か月児健康診査	1歳6か月児	毎月第3水曜日	医師・歯科医師・歯科衛生士 保健師・看護師・管理栄養士 心理判定員・保育士・事務	有
3歳児健康診査	3歳児	毎月第1水曜日	医師・歯科医師・歯科衛生士 保健師・助産師・管理栄養士 看護師・保育士・心理判定員 事務	有

(3) 内容



(4) 実施状況

ア 4か月児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施 回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
12	12	252	247	98.0	193	35	20	9			
13	12	256	248	96.9	148	43	17	26			
14	13	287	274	95.5	190	44	31	15			
15	12	249	245	98.4	174	45	24	18			
16	12	245	238	97.1	177	31	22	11	3	3	0

要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

(単位：人)

疾病分類(上位3項目)

	合計	男	女	健診結果				
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療
湿疹・皮膚炎	12	8	4	12	0	0	0	0
運動・感覚器発達異常	6	4	2	0	6	0	0	0
体重増加不良	6	4	2	2	4	0	0	0

保育・家庭環境分類(上位3項目)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
育児能力	4	3	1	1	3	0
哺乳	1	1	0	1	0	0
食事・おやつ	1	0	1	1	0	0

(ウ) 追跡結果分類

疾病分類(降順) 平成15年7月~平成16年 6月受診者 (単位：人)

疾病分類	追跡対象			精密検査 実施数	追跡結果			
	計	要観察	要精検 要医療		異常あり	異常なし	保留	その他
総数	38	15	23	5	11	22	5	0
開排制限	7	2	5	4	4	3	0	0
運動・感覚器発達異常	5	5	0	0	0	4	1	0
泌尿器・腎疾患(その他)	4	2	2	0	2	2	0	0
聴力障害(疑)	4	3	1	1	0	3	1	0
その他の疾患	18	3	15	0	5	10	3	0

保育・家庭環境分類(降順) 平成15年7月~平成16年6月受診者 (単位：人)

保育環境分類	追跡対象			追跡結果			
	計	要観察	要措置等	問題あり	問題なし	保留	その他
総数	9	9	0	0	4	5	0
育児能力	7	7	0	0	3	4	0
養育姿勢	2	2	0	0	1	1	0

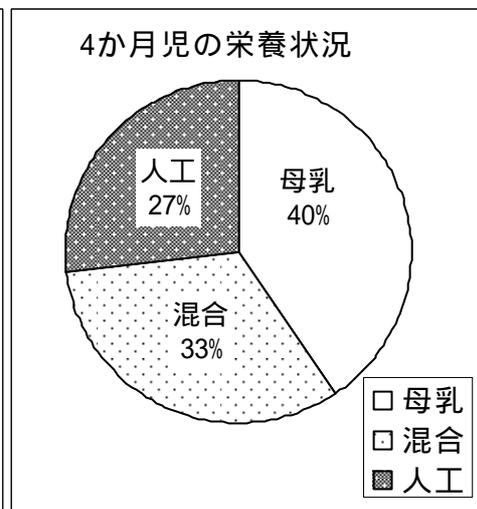
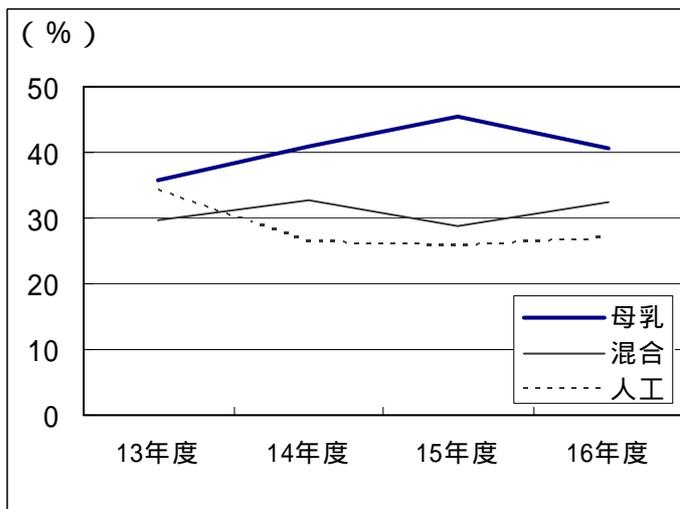
(工) 4か月児の栄養状況

(単位：上段・人 下段・%)

年度・出生		栄養方法	合計	母乳	混合	人工
13 年 度	第1子		1 2 8 (100.0)	3 9 (30.5)	4 3 (33.6)	4 6 (35.9)
	第2子以降		1 2 0 (100.0)	5 0 (41.7)	3 1 (25.8)	3 9 (32.5)
	合計		2 4 8 (100.0)	8 9 (35.9)	7 4 (29.8)	8 5 (34.3)
14 年 度	第1子		1 4 9 (100.0)	6 0 (40.3)	5 2 (34.9)	3 7 (24.8)
	第2子以降		1 1 7 (100.0)	4 9 (41.9)	3 5 (29.9)	3 3 (28.2)
	合計		2 6 6 (100.0)	1 0 9 (41.0)	8 7 (32.7)	7 0 (26.3)
15 年 度	第1子		1 1 7 (100.0)	4 6 (39.3)	4 0 (34.2)	3 1 (26.5)
	第2子以降		1 2 3 (100.0)	6 3 (51.2)	2 9 (23.6)	3 1 (25.2)
	合計		2 4 0 (100.0)	1 0 9 (45.4)	6 9 (28.8)	6 2 (25.8)
16 年 度	第1子		1 3 0 (100.0)	4 8 (36.9)	4 9 (37.7)	3 3 (25.4)
	第2子以降		1 0 7 (100.0)	4 8 (44.9)	2 8 (26.2)	3 1 (28.9)
	合計		2 3 7 (100.0)	9 6 (40.5)	7 7 (32.5)	6 4 (27.0)

対象者は、4月から翌年3月までの4か月児健康診査受診者

(オ) 栄養方法の年次推移



イ 9か月児健康診査

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
12	12	272	246	90.4	209	19	5	13			
13	12	269	232	86.2	186	20	8	18			
14	12	255	233	91.4	178	25	24	14			
15	13	266	233	87.6	178	30	24	8			
16	12	255	223	87.5	161	17	19	11	12	9	0

要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

ウ 1歳6か月児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
12	12	265	257	97.0	196	20	32	11			
13	12	260	249	95.8	185	20	31	13			
14	12	261	253	96.9	176	20	61	17			
15	13	273	266	97.4	174	51	42	18			
16	12	246	240	97.6	146	28	52	14	6	15	0

要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

疾病分類(上位4項目)

(単位：人)

	合計	男	女	健診結果				
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療
言語発達	45	34	11	7	38	0	0	0
運動・感覚器発達異常	7	3	4	1	6	0	0	0
その他の皮膚疾患	5	2	3	4	0	0	0	1
精神発達	5	4	1	0	5	0	0	0

保育・家庭環境分類(上位2項目)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
育児能力	7	7	0	1	6	0
養育姿勢	4	2	2	2	2	0

(ウ) 追跡結果分類

疾病分類(降順) 平成15年7月~平成16年6月受診者

(単位：人)

疾病分類	追跡対象			精密検査 実施数	追跡結果			
	計	要観察	要精検 要医療		異常あり	異常なし	保留	その他
総数	54	37	17	7	6	16	30	2
言語発達	25	25	0	0	0	5	19	1
運動・感覚器発達異常	4	4	0	0	0	4	0	0
停留睾丸	3	3	0	1	0	1	2	0
その他の骨関節疾患	3	0	3	2	1	1	1	0
その他の疾患	19	5	14	4	5	5	8	1

保育・家庭環境分類（降順） 平成15年7月～平成16年6月受診者（単位：人）

保育・家庭環境分類	追跡対象			追跡結果			
	計	要観察	要措置等	問題あり	問題なし	保留	その他
総数	17	17	0	0	3	14	0
育児能力	7	7	0	0	1	6	0
食事・おやつ	5	5	0	0	0	5	0
その他	5	5	0	0	2	3	0

エ 3歳児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
12	12	260	246	94.6	138	63	58	25			
13	12	259	237	91.5	126	25	59	45			
14	12	268	249	92.9	146	20	68	29			
15	12	252	250	99.2	164	29	53	26			
16	12	242	231	95.5	135	16	59	62	6	8	0

要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

疾病分類(上位3項目)

(単位：人)

	合計	男	女	健診結果				
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療
眼科検査未実施	35	20	15	1	34	0	0	0
聴覚障害(疑)	22	13	9	0	1	21	0	0
視力障害・斜視(疑)	21	12	9	0	0	21	0	0

保育・家庭環境分類(上位3項目)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
偏食・小食	7	2	5	3	4	0
食事・おやつ	3	1	2	1	2	0
情緒・行動	2	2	0	2	0	0

(ウ) 追跡結果分類

疾病分類(降順)

平成15年7月～平成16年6月受診者

(単位：人)

疾病分類	追跡対象			精密検査 実施数	追跡結果			
	計	要観察	要精検 要医療		異常あり	異常なし	保留	その他
総数	95	59	36	26	10	48	25	12
眼科検査未実施	34	34	0	1	0	21	5	8
聴覚障害(疑)	17	0	17	13	2	11	2	2
視力障害・斜視(疑)	12	1	11	9	1	5	6	0
言語発達	12	12	0	1	1	3	7	1
精神発達	9	8	1	0	1	2	5	1
その他	11	4	7	2	5	6	0	0

保育・家庭環境分類（降順） 平成15年7月～平成16年6月受診者 （単位：人）

保育・家庭環境分類	追跡対象			追跡結果			
	計	要観察	要措置等	問題あり	問題なし	保留	その他
総数	14	14	0	0	2	10	2
育児能力	4	4	0	0	2	2	0
偏食・小食	3	3	0	0	0	3	0
その他	7	7	0	0	0	5	2

個人通知をする健診の受診率は95%以上となっている。その後のフォローについては電話や子育て相談、訪問等にて行っている。

また、1歳6か月児健診終了後、3歳児健診までには間隔があるため、歯科健診（2歳・2歳6か月児対象）時の母子手帳返却時に個別相談を行っている。

健診の機会には子どものみではなく、子育てに主に関わっている母親、それをとりまく背景にも目を向け、支援をしていく姿勢で取り組んでいる。

未受診者に対しては、電話や手紙、訪問等にて受診を勧奨している。

9 子育て相談室

母の育児を認め、個々の発育・発達を確認し、的確な指導が受けられることは、母親にとってひとつの支えとなっている。また、要観察児の経過観察の機会ともなり、母親同士の交流、子どもの遊び場としての利用もでき、来所者は多い。親子との交流を通して、不安の解消や仲間づくりを支援している。

（1）目的

- ア 母親の持つ育児不安や問題を軽減、解決する。
- イ 児の成長発達に合わせた育児を具体的に支援する。
- ウ 要観察児の経過観察をする。
- エ 妊娠中から子どもの姿を見たり、触れたりする機会を持つことで、これからの子育てに向けて心の準備ができる。

（2）対象

乳幼児とその育児者、妊婦

（3）日時

第2・第4木曜日 午前9時30分～11時30分

（4）内容

身体計測（身長・体重）・個別相談

（5）従事者

保健師・管理栄養士・助産師・看護師・事務

(6) 実施状況

ア 来所者数

(単位：人)

延人員	実人員	乳 児			幼 児			要観察の内容 (再掲)		
		延人員	実人員	要観察児 (再掲)	延人員	実人員	要観察児 (再掲)	身体	精神	育児
1,380	329	592	153	21	788	176	34	99	68	36

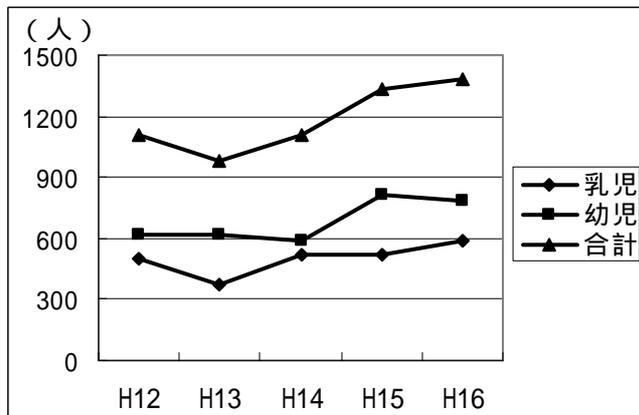
* 延人員には計測のみの人数を含む。また、要観察児の再掲は実人員

* 要観察の内容は延べ件数(重複あり)

イ 相談者の推移 (延べ人数)

ウ 相談内容

(単位：人)



	乳児	幼児	計
身体(発達・発育)	85	104	189
栄養(母乳・離乳食等)	166	110	276
育児・生活	82	152	234
予防接種	41	20	61
その他	18	9	27
計	392	395	787

子育て相談室は、親子ふれあい広場(生涯学習課の事業)とタイアップし、同時開催している。毎回50名を越える方(平均57.5人/回)が来所しており、待ち時間が長く、養育者が児を連れてプレイルームに遊びに行ったまま戻ってこないことが多々あった。

そのため、今年度、計測や相談の流れの効率化、養育者の参加姿勢を改めることを目的に流れの変更を行った。受付票を取り入れることで受付事務の効率化、相談内容の明確化を図った。また、相談の呼び出し番号をロビーに掲示することで、自分の番号を確認する姿勢が見られるようになり、スムーズな相談体制がとれるようになった。

妊婦の相談は、初産の妊婦相談は年間1~2件で、第2子以降の妊婦が乳幼児の相談の時に一緒に相談するケースがほとんどである。今後の課題として、周知の徹底が考えられる。

10 家庭訪問

(1) 赤ちゃん訪問

ア 目的

初めての出産・育児で不安や悩みの多い第1子と、第2子以降の希望者に対し、家庭訪問により児と母親の健康状態を確認し、個々に応じた適切な保健指導を行う。

イ 対象

第1子(全戸)及び第2子以降の希望者の母親・家族

ウ 日時

訪問希望届により随時

エ 内容

児の体重計測等発達発育チェック・育児相談・保健指導

オ 従事者

保健師・在宅助産師

カ 訪問状況

(単位:人)

		保健師		助産師	合計 (延人員)
		実人員	延人員		
乳児	新生児	14	14	7	21
	未熟児	12	12	0	12
	その他	50	51	43	94
産婦		73	74	50	124
計		149	151	100	251

(2) 要観察児等訪問

ア 目的

若年、妊娠中毒症などのハイリスク妊婦、発達・発育に問題のある乳幼児、育児不安や家庭環境に問題のある母子等、健診未受診者に対し、家庭にあったきめ細やかな保健指導を行い、安心して育児ができるよう支援する。

イ 対象

ハイリスク妊婦
要観察児と家族、健診未受診者

カ 訪問状況

(単位:人)

	実人員	延人員
妊婦	1	1
乳児	2	2
幼児	22	36
養育者	1	1
計	26	40

ウ 日時

随時

エ 内容

児の体重計測等発達発育チェック
育児相談・保健指導

幼児訪問のうち虐待予防は6件

オ 従事者

保健師

1 1 たんぽぽ教室

(1) 目的

1歳6か月・3歳児健診の事後指導の一環として、発達及び育児上問題があると思われる幼児に対し、集団の場を通じて、母親とともに子どもに応じた関わりを体験し、考えていくことにより児のより良い発達を促す。

(2) 対象

ア 健診時に育児及び発達上問題があると思われ、経過観察が必要な児とその母親
 イ その他、育児環境等に問題があると思われる児とその母親

(3) 日時

毎月第1木曜日 午前9時15分～正午
 午後1時～3時 (スタッフ間でカンファレンス)

(4) 内容

時 間	内 容
AM9:15～9:45	スタッフ間の事前カンファレンス
9:45～10:25	親子遊び(設定遊び) 手遊び 体操 親子遊びなど
10:25～10:35	トイレ おやつ 排泄、手洗い、あいさつ、後片付けの面で指導
10:35～11:35	母親グループ 話し合い(育児などについて話し合う) 子どもグループ 集団遊び(他児やスタッフとの係わり合い、自由遊び)
11:35～11:45	担当者と母親との話し合い 母子分離している間の児の様子について

随時個別面接(言語聴覚士、心理判定員) 16年度は7名面接

(5) 従事者

言語聴覚士・心理相談員・保健師
 保育士(年7回)・一宮児童相談センター心理判定員(年2回)

(6) 実施状況

(単位:人)

項目 年度	実施 回数	対象児数	参加延べ人数 (母子共に)	平均参加人数
12	12	21(14)	260	21.7
13	12	16(9)	225	18.8
14	12	22(10)	319	26.6
15	12	20(12)	265	22.1
16	12	21(11)	289	24.1

()は新規対象児の再掲

《参加児の状況》

- ・精神発達の問題 16人
 - ・精神発達・運動発達両方の問題 5人
- (内、診断名がついている児 9名)

参加児の状況は、身体的発達面の問題や多動など精神発達面の問題等さまざまだった。担当スタッフと母の話す時間が短いこともあり、フォローが十分できない状況だったが、家庭訪問や個別相談でフォローするよう支援に努めた。

1 2 ちゅーりっぷの会

(1) 目的

子ども自身の問題と育児不安など育児環境面での問題等がある親子に対し、発達に応じた遊びやかかわり方を知ることで、親が自信をもって子育てができることを目的とする。

(2) 対象

2歳前後の親子で発達および育児支援が必要な児

(3) 日時

毎月第4火曜日 午前9時45分～午前11時45分
午前11時45分～正午（スタッフ間でカンファレンス）

(4) 内容

時 間	内 容
A M 9:45～10:00	受付 シール貼り
10:00～10:10	スタッフと親子共同遊び 体操 地球をどんでん 動物体操 名前呼び さんの母が担当
10:10～10:50	設定遊び
10:50～11:40	子どもグループ 集団遊び(他児やスタッフとの係わり 合い、自由遊び) 母親グループ 話し合い(育児などについて話し合う) 次回の内容は母親たちが主体で決めていく。
11:40～11:45	手遊び さよならの歌

設定遊び

	設定遊びの内容		設定遊びの内容
4月22日	風船あそび	10月28日	ミニ運動会
5月27日	サーキット	11月25日	クリスマス飾りづくり
6月24日	新聞遊び	12月22日	コンピカーを使ってカーレース
7月22日	プール遊び	1月26日	ダンボール羽子板づくり・羽子板あそび
8月26日	タオル遊び・金魚すくい	2月24日	しっぽとり・リボンくぐり
9月30日	ジャンボ玉あそび・楽器あそび	3月23日	広告の切り抜きを使った糊づけ・折り紙あそび

(5) 従事者

保健師・保育士

(6) 実施状況

(単位：人)

項目 年度	実施回数	対象児数	参加延べ人数 (母子共に)	平均参加人数
16	12	12	91	7.6

1 3 離乳食教室

(1) らくらく離乳食教室(離乳食初期・中期)

ア 目的

離乳食の準備期から中期の意義について正しく理解し、一生のうちで離乳食期が食習慣の形成に大切な時期であることを認識する。

イ 対象

離乳食準備期から中期の乳児とその保護者

ウ 日時

奇数月 第2火曜日 午前10時～11時30分

エ 場所

保健センター1階 栄養実習室・栄養指導室

オ 内容

- ・離乳食初期～中期頃についての講話
- ・離乳食のデモンストレーションとその試食
- ・個別相談

カ 従事者

管理栄養士 保健師

キ 参加状況

(ア) 参加延べ人数及び月齢別人数

実施回数	参加延べ人数	5か月未満児	5・6か月児	7か月以上児
6回	89人 (平均14.8人)	38人 (42.7%)	43人 (48.3%)	8人 (9.0%)

(イ) 参加者出生順位別人数

第1子	68人
第2子	21人

離乳食開始前の乳児の参加が多く、準備期としての果汁等の与え方や離乳食初期の食品の扱い方の質問が多い。また、食物アレルギーを心配する親が多く、食品の進め方に敏感になっている。

また、ベビーフードを利用する保護者が増加しており、離乳食が進むにつれて児の欲求や口腔の発達に合わせた離乳食を進める必要性を正しく認識できるよう運営していきたい。

(2) もぐもぐ教室(離乳食中期以降)

ア 目的

生活を営むうえで基本となる食事も、離乳食の量・回数とともに増え、ますます親の食事が基本となるこの時期に、離乳食だけではなく、家族の食事としての充実を図る。また、咀嚼の促しや歯の萌出に合わせた離乳食の形態について具体的に指導する。

イ 対象

離乳食中期以降の乳幼児とその保護者

ウ 日時

平成16年6月・10月・12月 平成17年3月の4回
いずれも午前9時30分～12時

エ 場所

保健センター1階 栄養実習室・栄養指導室

オ 内容

- ・離乳食初中期以降の進め方についての講話
- ・実習(親の食事からの取り分け食)とその試食
- ・個別相談

カ 従事者

管理栄養士 保健師

キ 参加状況

(ア) 参加延べ人数及び月齢別人数

実施回数	参加延べ人数	7か月未満児	7・8か月児	9か月以上児	1歳以上児
4回	54人 (平均13.5人)	13人 (24.1%)	21人 (38.9%)	20人 (37.0%)	0人 (0.0%)

(イ) 参加者出生順位別人数

第1子	47人
第2子	7人

参加者からは『普段の食事のほうが味が濃い』『細かく刻みすぎていた』等、保護者自身が実習・試食をして気付くことが見受けられた。

離乳食が進まない児では、生活リズムがととのっていないかったり、まだ授乳時間が一定でなかったりする児が目立った。

また、2回食から3回食へ進む時点での食品の固さや大きさに関する質問が多く、咀嚼の促しや丸呑みしている児への指導が多かった。

今後も離乳食を通して、家族全体の食事を見直せるきっかけになるような教室を企画・運営していきたい。

1 4 子育て支援

(1) 育児サークル支援

平成8年度から、子育て相談室と同時開催で始まった「親子ふれあい広場」に在所しているお母さんの中から、地域で子どもを遊ばせる場がほしいという声があり、子育てネットワークや保健師のアドバイスにより子育てサークルが誕生した。

サークル運営等の相談に応じたり、掲示板で活動の紹介などをしたりしていたが、子育てサークルからの要請により、支援を開始している。

ア H16年度 「リトルベアーズ西・南」への支援状況（平成10年より定期的に支援）

	月 日		参加者 (親子)		内 容 (約1時間)	スタッフ	
	西	南	西	南		西	南
1	5月14日	5月28日	23組	22組	・トイレトレーニング・食中毒 ・夏の病気・食欲不振	保健師 1	保健師 2
2	11月26日	11月19日	22組	17組	・インフルエンザ・やけどの対処 ・爪について・エプロンシアター	保健師 2	保健師 2
3	1月14日	2月25日	20組	16組	・指しゃぶり・任意の予防接種 ・風邪の時の対処法	保健師 2	保健師 2

イ つくしの子サークル

月 日	参加者 (親子)	内 容 (約1時間)	スタッフ
6月18日	25組	・紫外線について ・丈夫な歯づくり	保健師2

ウ まとめ

子育てサークル支援はサークルからの依頼により実施しており、内容についてはサークルからの希望を聞き、行っている。媒体等は母子ともに興味を持てるように工夫し実施した。今後は子どものみでなく、子育て中の母親の健康にも意識を高められるような働きかけをしていきたい。

(2) 児童センター支援

年3回、西児童センター主催の「赤ちゃん広場」にて、子どもの事故予防について健康教育を行っている。

ア 西児童センター赤ちゃん広場時健康教育

月 日	参加者	内 容	スタッフ
6月 8日	8組	子どもの事故予防について その他 Q&A	保健師2
11月 9日	4組		保健師2
2月 8日	7組		保健師2

*対象は7か月～1歳前の親子。

お座りの児～つかまり立ちができる児まで発達状況はさまざまだが、生活環境の中での危険の確認を行う。今年度も途中から内容に盛り込んだが、防災の備えについても啓発をしていきたい。

(3) 情報コーナー (町内の子育て情報を総覧できる場)

コーナーの種類	コーナーの内容
保健センター・児童センター・保育園等からのお知らせコーナー	行事やお知らせ、その他の時節に応じた内容を掲示
子育てサークルコーナー	各サークルの方が、活動の様子を紹介

1 この情報コーナーは、子育てネットワーカー、育児サークルの協力により作成
2 紹介されている子育てサークル

リトルベアーズ(秋田)H8～ (H13より、リトルベアーズ西(余野)・リトルベアーズ南(秋田)として活動) H16より、リトルベアーズ北(下小口)
ぴよぴよクラブ(余野)H8・くれよんクラブ(余野)・ワイワイクラブ(中小口)
つくしの子(余野)H15～

(4) その他

ア 大口北部中学校での健康教育

健康教育研究に取り組んでいる北部中学校より健康に関するテーマの講座の依頼があり、健康と美しさの関係についての教育を実施した。

(ア) 目的

将来のいのちを育むためのからだをつくる大切な時期に、本当の美しさとは何かを健康の視点から考え、日頃の生活を見直す機会とする。

(イ) 対象

大口北部中学校 3年生の女子生徒 12名

(ウ) 日時

平成16年11月18日 午後1時45分～3時15分

(エ) 内容

タイトル「女の子のためのビューティー講座」

- ・ グループワーク
- ・ 栄養 「間食・カロリーについて」
- ・ 運動 「デューク更家のウォーキングダイエット」

(オ) 従事者

保健師 2名

(カ) まとめ

事後の感想文より、ジュースやおやつのカロリーの高さに驚き、「知らないで摂取していたことが怖くなった」、「きちんと食事を摂らない方が身体にとって悪いことがわかった」等の感想が聞かれた。普段の食を振り返り、考えて食べることの動機づけになった。運動も楽しくできていた。今回はじめて中学生への健康教育を実施したが、今後学校とも共通認識を持ち、連携を深めていながら、子どもの健康について共に考えていきたい。

イ 就寝時間について

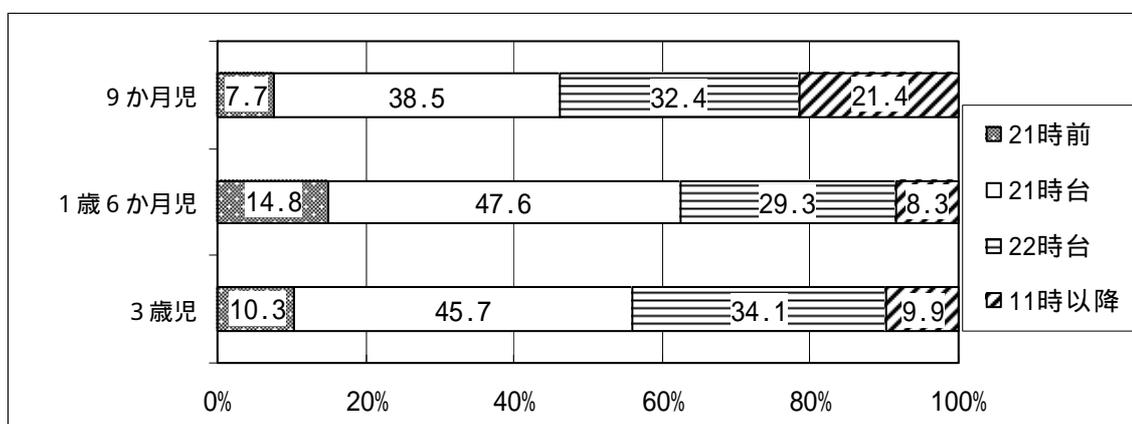
平成16年度の9か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診問診票の生活リズムの項目より、就寝時間の現状をまとめた。

(ア) 年齢別就寝時間(H16年度)

(単位:人(%))

就寝時間帯	9か月児	1歳6か月児	3歳児	計
21時前	14(7.7)	34(14.8)	23(10.3)	71
21時台	70(38.5)	109(47.6)	102(45.7)	281
22時台	59(32.4)	67(29.3)	76(34.1)	202
23時以降	39(21.4)	19(8.3)	22(9.9)	80
合計	182(100.0)	229(100.0)	223(100.0)	634
平均	21時54分	21時28分	21時34分	21時38分

(イ) 年齢別就寝時間の割合(H16年度)



16年度は乳幼児健康診査問診票(9か月児、1歳6か月児、3歳児)から生活リズムに関して、就寝時間を集計した。その結果、9か月児の平均就寝時間が最も遅く、22時以降に就寝する児の割合を見ると、9か月児53.8%、1歳6か月児37.6%、3歳児44.0%であり、夜更かしの実態が明らかになった。また、第1子と第2子以降の比較では、第1子の方が就寝時間が遅いという結果であった。

この結果を踏まえて、9か月児健診のグループ指導の際に、睡眠と成長ホルモンの関係等の内容を取り入れ、生活リズムを整えることの大切さを訴えた。17年度も引き続き、乳幼児健診のほか、健康教育などでも生活リズムを取り上げていきたい。

3 成人保健活動

1 成人保健の取り組み

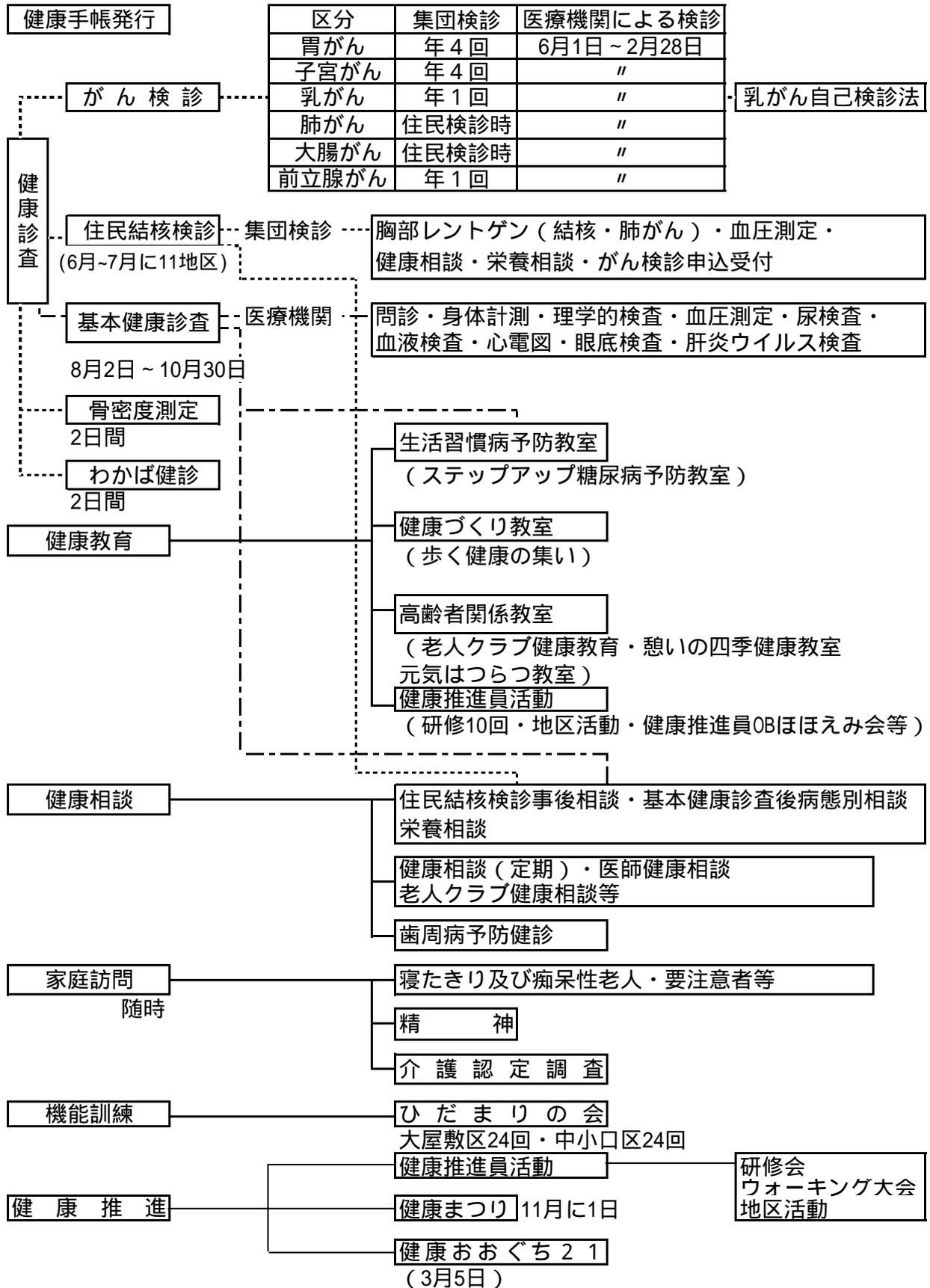
大口町は、平成 5 年 12 月に「健康の町」宣言をし、平成 16 年 3 月には大口町の健康づくり計画「健康おおぐち 2 1」を住民と行政とともに策定し、地区住民の意識の高揚と地区活動を積極的に推進してきている。

健康おおぐち 2 1 の大目標に掲げた「健康で 笑顔のおおぐち 今日も元気 明日も元気」に向かって計画推進 1 年目の 1 6 年度は、「健康おおぐち 2 1」の周知と啓発 高齢者の健康づくり 健診の充実と有効化のための電算システムの構築 の 3 つの活動目標をかかげ、事業を展開してきた。

重点事業としては、2 1 計画の 5 つの健康分野を推進するための健康教育をあらゆる年代へ様々な機会を捉えて進めてきた。特に運動分野では、はじめの一步として、自分の体力を知るために健診や健康まつり等の機会をとらえ簡単な体力測定を実施した。また、高齢者に対しても地域に出て生活能力測定器具を使い生活能力のチェックを行った。

健康推進員は四期 1 年目となるため、「自分の健康を知ること」の研修会を実施した。

成人保健 管理体系



推進1年目・健康推進員10周年記念イベント「春だ！笑顔だ！元気まつり」

2 健康手帳の交付

(1) 目的

老人保健法に基づいて発行。基本健康診査・がん検診・健康教育時などに健診結果や血圧測定値等の健康状態を記入し、自らの健康への意識の高揚を図る。

(2) 対象

ア 医療受給資格者（75歳以上の高齢者・65～69歳で法第25条該当者）

イ 医療受給資格者以外の者

（70歳以上の国民健康保険加入者、40歳以上69歳までで希望する者）

(3) 日時

ア 毎月 月末の1週間（医療受給資格者） 役場保険年金課で交付

イ 住民検診・がん検診・健康相談等の時

ウ その他随時

(4) 交付状況

（単位：人）

ア	老人保健法第25条第1項の規定により、医療を受けることのできる者	147
	65～69歳の医療受給資格者	44
イ	40歳以上でア以外の者	108
ウ	40歳未満の希望者	35
合 計		334

3 基本健康診査

(1) 目的

老人保健法第16条に基づく健康診査の一環として、疾病の早期発見に努めるとともに、早期治療のみだけでなく受診者自身が自分の健康状態を知り、疾病の予防と健康の保持増進に努める。また、C型肝炎等緊急総合対策の一環として、H15年度から5年間に限って肝炎ウイルス検診を実施し、肝炎による健康障害を回避し症状を軽減し進行を遅延させる。

(2) 対象

町内に在住する40歳以上の者

(3) 場所

大口町・扶桑町の委託医療機関

(4) 実施期間

8月2日～10月30日 各医療機関の診療時間内

(5) 内容

問診 身体計測 理学的検査 血圧測定 尿検査 血液検査 心電図 眼底検査

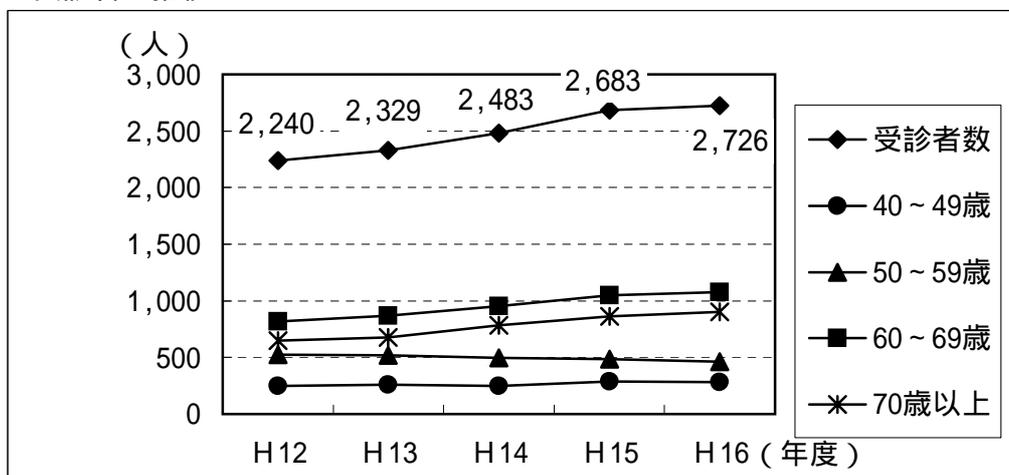
(6) 受診状況

ア 結果一覧表

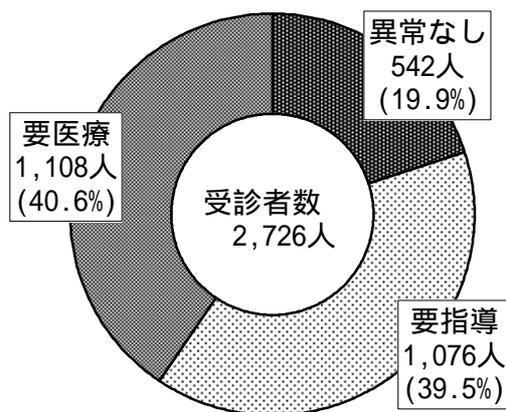
(単位：人)

区分	受診者数	基本健康診査			
		異常認めず	要指導	要医療	
男	40歳～49歳	52	9	28	15
	50歳～59歳	80	12	34	34
	60歳～69歳	418	84	156	178
	70歳～74歳	155	26	70	59
	75歳以上	199	29	89	81
	小計	904	160	377	367
女	40歳～49歳	229	97	79	53
	50歳～59歳	384	84	157	143
	60歳～69歳	660	124	262	274
	70歳～74歳	227	42	81	104
	75歳以上	322	35	120	167
	小計	1,822	382	699	741
合計	40歳～49歳	281	106	107	68
	50歳～59歳	464	96	191	177
	60歳～69歳	1,078	208	418	452
	70歳～74歳	382	68	151	163
	75歳以上	521	64	209	248
	計	2,726	542	1,076	1,108

イ 受診者の推移



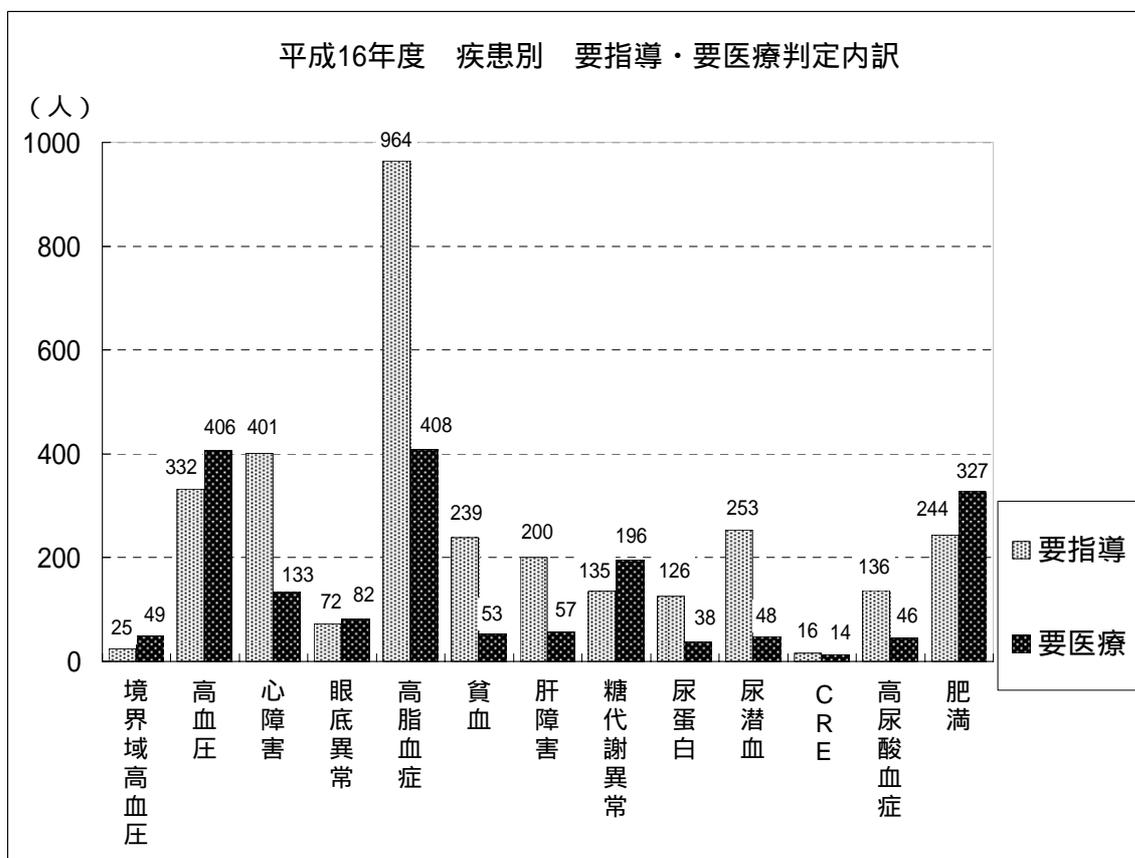
ウ 判定区分内訳



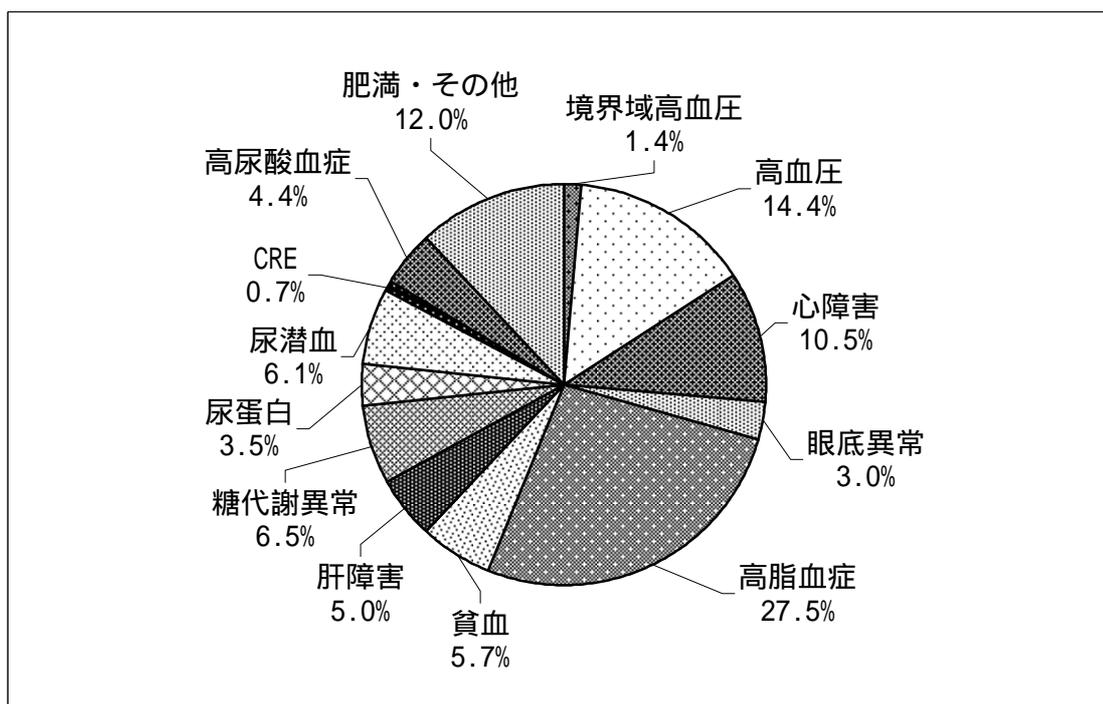
エ 要指導・要医療の疾病分類内訳 (延べ件数)

(単位: 人)

年度	区分	境界域 高血圧	高血 圧	心障 害	眼底 異常	高脂血症	貧血	肝障害	糖代 謝異 常	腎 障 害			高尿 酸血 症	肥満	計
										尿蛋 白	尿潜血	CRE			
平成13年度		196	670	472	212	1,168	246	286	265	110	280	111	136	463	4,615
平成14年度		257	584	598	200	1,296	318	317	286	181	330	50	199	531	5,147
平成15年度		96	745	551	204	1,397	323	265	348	175	273	39	139	536	5,091
平成16年度		74	738	534	154	1,372	292	257	331	164	301	30	182	571	5,000



オ 要指導・要医療の疾病割合（疾病別／延べ件数）



結果を必ず聞きに行くことを周知徹底した。

カ 肝炎ウイルス検診

基本健康診査の対象者で、節目(40歳・45歳・50歳・55歳・60歳・65歳・70歳)の方、広範囲な外科的手術を受けた方、分娩時多量の出血をされた方、基本健康診査でGPT値で要指導とされた方などに対して肝炎ウイルス検査を実施した。

(単位：人)

区分 項目	実施数	B型ウイルス		C型ウイルス	
		陰性	陽性	現在、C型肝炎ウイルス(HCV)に感染していない可能性が極めて高い	現在、C型肝炎ウイルス(HCV)に感染している可能性が極めて高い
節目の方	312	312	0	310	2
申請者 その他	39	37	2	34	5
計	351	349	2	344	7

4 各種がん検診

(1) 目的

がんの早期発見に努め、早期治療に結びつけるとともに、がん予防についての知識の普及啓発を行い、意識の向上を図る。

(2) 実施状況

区分 項目	集 団 検 診	医 療 機 関
実施回数 実施機関 及び 実施場所	< 胃 > 年4回(検診車) 保健センター < 子宮 > 年4回(検診車) 保健センター < 乳 > 年1回(検診車) 保健センター < 大腸 > 住民検診時、検体採取容器を配布 < 肺 > 胸部X線(住検時) 喀痰(住民検診時、検体採取容器を配布) < 前立腺 > 年1回 保健センター	平成16年6月1日から、平成17年2月28日までの町内委託医療機関の診療時間内
申込方法	・保健センターへ電話により申込み ・住民検診時に申込み	各医療機関の窓口にて
検診料	胃がん・子宮がん・大腸がん・肺がん検診 無 料 乳がん検診 1,000円 前立腺がん検診 300円	無 料
対象者	町内在住で、勤務先等で検診を受ける機会のない方	

(3) 検診内容

種 類	内 容
胃	胃部X線撮影
子宮	視診・細胞診
乳(個別)	視診・触診
(集団)	視診・触診・MMG(X線検査)・健康教育(自己検診法について)
大腸	便潜血反応試験による2日間採便法
肺	胸部X線撮影・喀痰検査
前立腺(集団のみ)	血液検査

(4) 胃がん検診

ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

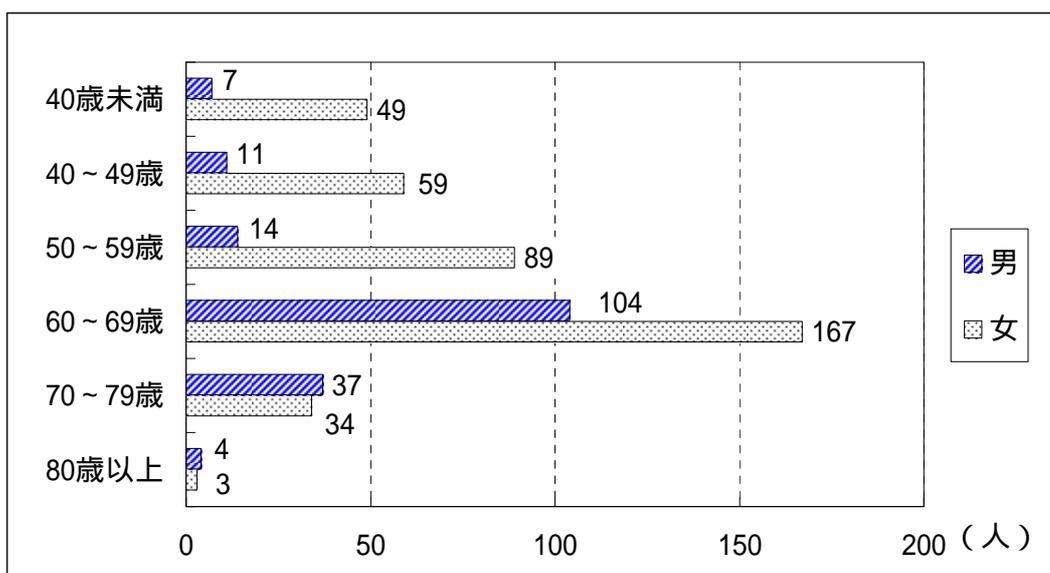
	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)			
			集団	医療機関			異常なし	要観察	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	未把握
40歳以上	12	2,800	486	161	325	17.4	346	51	89	22	2	48	17
	13	3,100	557	151	406	18.0	412	41	104	21	2	63	18
	14	3,700	539	173	366	14.6	383	22	134	27	2	66	39
	15	3,800	582	146	436	15.3	361	40	181	33	2	106	40
	16	3,880	522	145	377	13.5	387	47	88	22	0	41	25

40歳未満	12		32	21	11		31	0	1	0	0	0	1
	13		27	19	8		24	1	2	1	0	1	0
	14		46	28	18		39	1	6	1	0	5	0
	15		55	27	28		43	2	10	5	0	4	1
	16		56	35	21		48	4	4	2	0	1	1

計	12		518	182	336		377	51	90	22	2	48	18
	13		584	170	414		436	42	106	22	2	64	18
	14		585	201	384		422	23	140	28	2	71	39
	15		637	173	464		404	42	191	38	2	110	41
	16		578	180	398		435	51	92	24	0	42	26

平成16年度は45人に精検受診勧奨を実施。しかし、精密検査の未受診者は26名だった。

イ 年齢別受診状況(平成16年度)



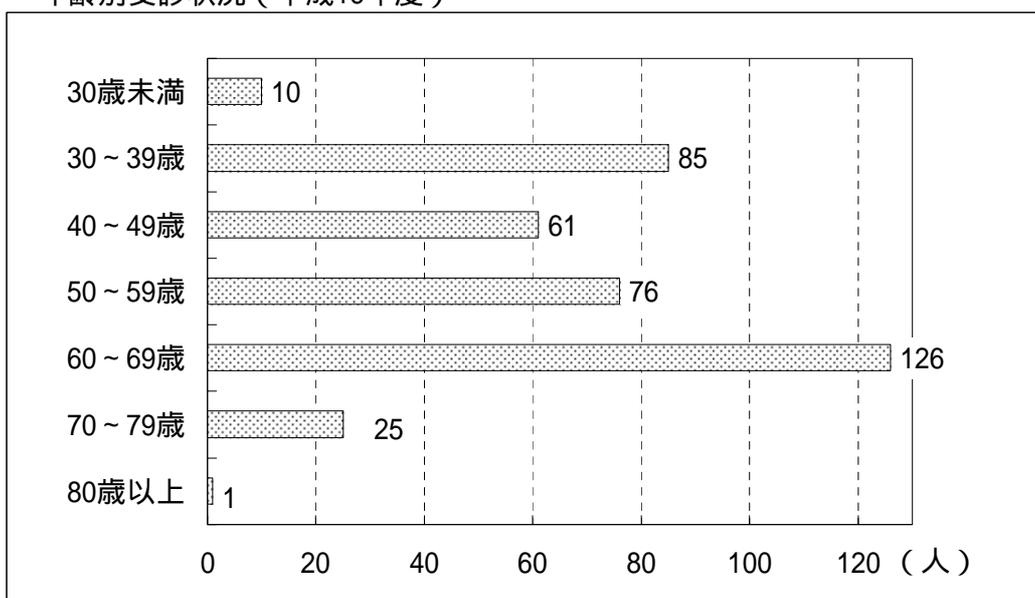
(5) 子宮がん検診
ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)			
			集団	医療機関			異常なし	その他の疾患	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	未把握
30歳以上	12	1,650	276	200	76	16.7	247	27	2	2	0	0	0
	13	2,100	300	174	126	14.3	289	11	0	0	0	0	0
	14	2,700	360	241	119	13.3	336	19	5	2	1	1	1
	15	2,770	379	245	134	13.7	335	42	2	0	0	1	1
	16	2,842	374	253	121	13.2	342	31	1	0	0	1	0
30歳未満	12		6	3	3		6	0	0	0	0	0	0
	13		6	6	0		6	0	0	0	0	0	0
	14		7	6	1		7	0	0	0	0	0	0
	15		10	8	2		8	2	0	0	0	0	0
	16		10	8	2		9	1	0	0	0	0	0
計	12		282	203	79		253	27	2	2	0	0	0
	13		306	180	126		295	11	0	0	0	0	0
	14		367	247	120		343	19	5	2	1	1	1
	15		389	253	136		343	44	2	0	0	1	1
	16		384	261	123		351	32	1	0	0	1	0

平成16年度は精密検査の未受診・未把握者なし。

イ 年齢別受診状況(平成16年度)



(6) 乳がん検診

ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

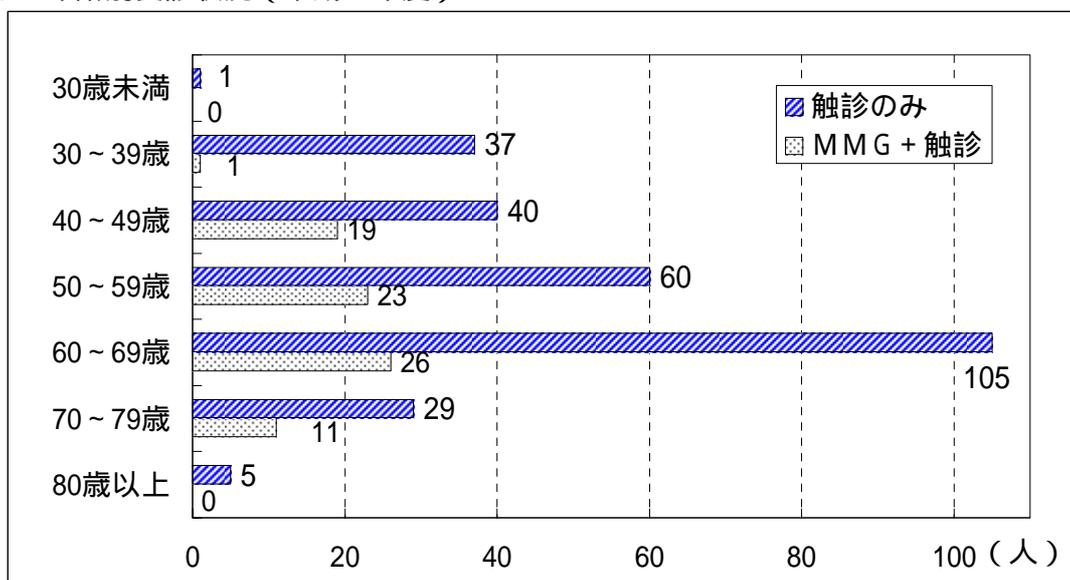
	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)			
			集団+触診(MMG)	(触診のみ)	(医療機関のみ)		異常なし	要観察	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	未把握
30歳以上	12	1,650	328	125	203	19.9	297	30	1	0	0	1	0
	13	2,100	406	133	273	19.3	361	42	3	1	1	1	0
	14	2,700	368	98	270	13.6	348	2	18	5	1	10	2
	15	2,770	410	99	311	14.8	393	7	10	3	0	3	4
	16	2,842	356	80	276	12.5	338	1	17	8	0	7	2
30歳未満	12		3	3	0		3	0	0	0	0	0	0
	13		6	5	1		6	0	0	0	0	0	0
	14		8	6	2		7	1	0	0	0	0	0
	15		6	0	6		6	0	0	0	0	0	0
	16		1	0	1		1	0	0	0	0	0	0
計	12		331	128	203		300	30	1	0	0	1	0
	13		412	138	274		367	42	3	1	1	1	0
	14		376	104	272		355	3	18	5	1	10	2
	15		416	99	317		399	7	10	3	0	3	4
	16		357	80	277		339	1	17	8	0	7	2

平成16年度より、集団検診でMMG(X線検査)を開始。

一部自己負担金1,000円徴収。

平成16年度は受診勧奨を行ったが、精密検査の未受診者が2名だった。

イ 年齢別受診状況(平成16年度)



(7) 大腸がん検診
ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

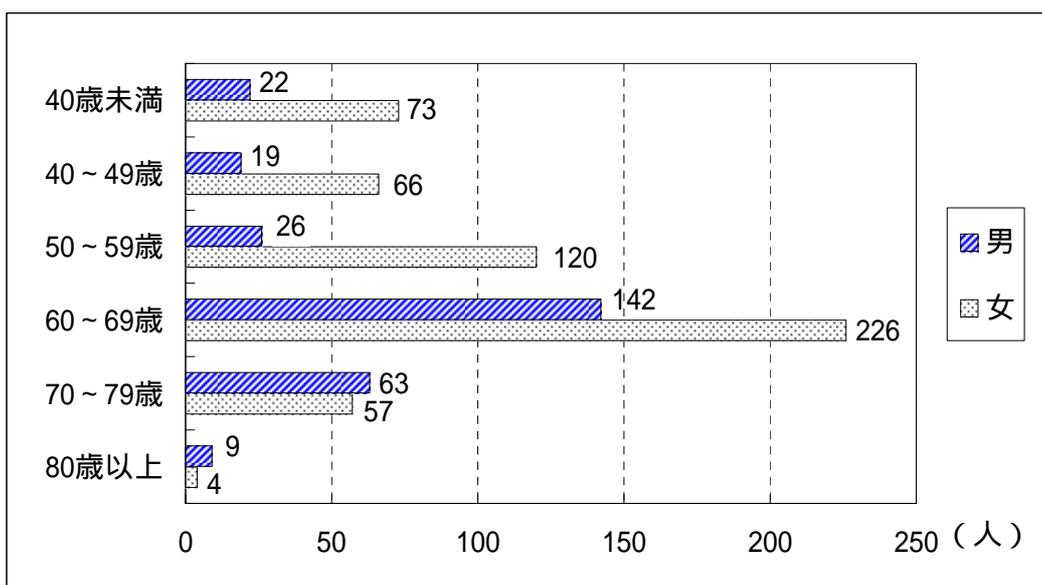
	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)				
			集団	医療機関			異常なし	要再検	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	がん疑い	がんの未把握
40歳以上	12	2,800	647	272	375	23.1	602	1	44	18	1	17	1	7
	13	3,100	712	222	490	23.0	678	3	31	8	1	13	0	9
	14	3,700	736	286	450	19.9	685	1	50	19	1	22	0	8
	15	3,800	768	270	498	20.2	728		40	13	0	19	0	8
	16	3,880	734	249	485	18.9	698		36	9	1	14	0	12

40歳未満	12		53	39	14		50	0	3	0	0	2	0	1
	13		54	45	9		53	0	1	1	0	0	0	0
	14		69	47	22		65	0	4	3	0	0	0	1
	15		82	48	34		80		2	1	0	0	0	1
	16		94	69	25		89		5	1	0	3	0	1

計	12		700	311	389		652	1	47	18	1	19	1	8
	13		766	267	499		731	3	32	9	1	13	0	9
	14		805	333	472		750	1	54	22	1	22	0	9
	15		850	318	532		808		42	14	0	19	0	9
	16		828	318	510		787		41	10	1	17	0	13

平成16年度は17人に精密検査の受診勧奨を行ったが、13人が未受診だった。

イ 年齢別受診状況(平成16年度)



(8) 肺がん検診

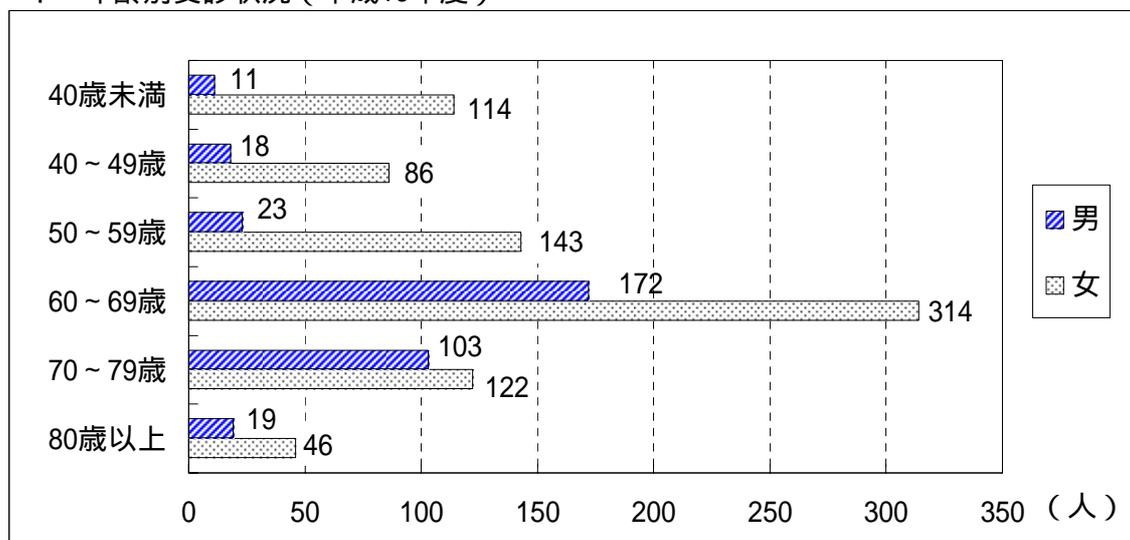
ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

	年度	対象者	受診者数				受診率	結 果			精検結果 (再掲)				
			集 団		医 療 機 関			精 検 不 要	要 精 検		異 常 な し	が ん	が ん の 疑 い の あ る 者	が ん 以 外 の 疾 患	未 受 診 ・ 未 把 握
			X線及び喀痰	X線のみ	X線及び喀痰	X線のみ			肺がん以外の疾患	肺がんの疑い					
40歳以上	12	2,800	927	35:562	95:235	33.1	907	16:4	2	1	0	1	0		
	13	3,100	996	38:477	147:334	32.1	983	10:3	3	0	0	5	5		
	14	3,700	1,061	64:543	126:328	28.7	999	48:14	15	0	0	11	36		
	15	3,800	1,148	35:562	143:408	30.2	1,079	50:19	13	0	0	16	40		
	16	3,880	1,046	19:515	107:405	27.0	989	32:25	21	2	2	22	10		
40歳未満	12		121	4:106	1:10		121	0:0	0	0	0	0	0		
	13		95	6:83	1:5		95	0:0	0	0	0	0	0		
	14		107	7:83	8:9		106	1:0	0	0	0	0	1		
	15		111	3:82	7:19		111	0:0	0	0	0	0	0		
	16		125	4:97	3:21		123	1:1	1	0	0	0	1		
計	12		1,048	39:668	96:245		1,028	16:4	2	1	0	1	0		
	13		1,091	44:560	148:339		1,078	10:3	3	0	0	5	5		
	14		1,168	71:626	134:337		1,105	49:14	15	0	0	11	37		
	15		1,259	38:644	150:427		1,190	50:19	13	0	0	16	40		
	16		1,171	23:612	110:426		1,112	33:26	22	2	1	22	11		

平成16年度は、肺がんを疑う要精検者に受診勧奨を行ったが未受診者が11人だった。

イ 年齢別受診状況 (平成16年度)



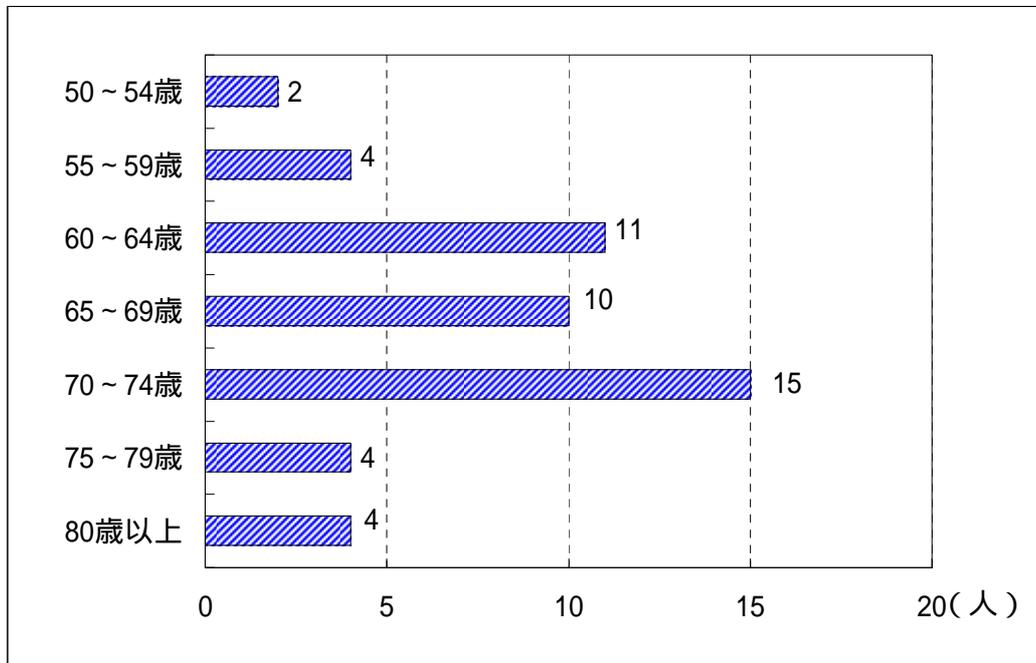
(9) 前立腺がん検診
ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

年度	対象者	受診者(集団)	受診率	結果			精検結果(再掲)					
				異常なし	要再検	要精検	異常なし	がん	がんの疑い	前立腺肥大	その他	未把握
16	1,268	50	3.9	47	0	3	1	0	1	1	0	0

平成16年度より集団検診にて開始。一部自己負担300円徴収。
受診勧奨により、未受診・未把握なし。

イ 年齢別受診状況(平成16年度)



5 わかば健診

(1) 目的

20・30歳代の若い年代で健診を受ける機会の無い方を対象とし、生活習慣病の早期発見および、生活習慣の改善に向けた指導を行い予防意識の向上をはかる。

(2) 対象

町内在住の20歳代30歳代の住民で、健診を受ける機会の無いもの。

(3) 日時

平成16年9月17日(金) 午前9時～午前12時

平成16年9月29日(水) 午前9時～午前12時

(4) 場所

保健センター2階

(5) 検診方法及び内容

健康教育(健康おおぐち21より)、尿検査、身長・体重、血圧測定
診察、血液検査、歯周病予防教育(歯の健康得点・ブラッシング指導)
体力測定(閉眼片足立ち・椅子からの立ち上がり・握力)

(6) 従事者

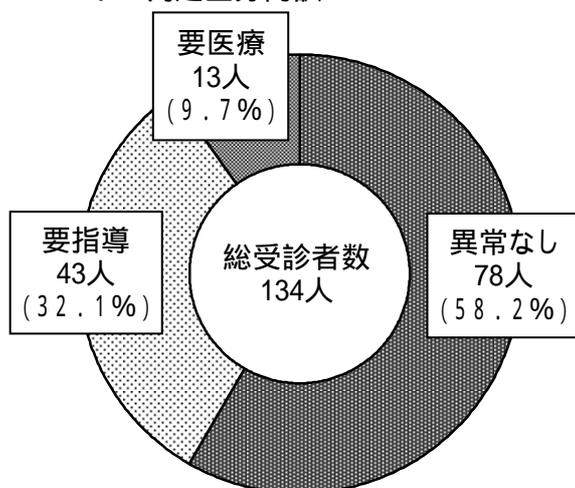
保健師 管理栄養士 看護師 事務員 委託機関

(7) 実施結果

ア 年齢別受診者数 (単位:人)

		男	女	合計
平成16年9月17日	20歳代	1	9	10
	30歳代	2	56	58
平成16年9月29日	20歳代	0	12	12
	30歳代	2	52	54
総受診者		5	129	134

イ 判定区分内訳



・基本検診に準じる判定区分で、要指導・要医療者は41.7%

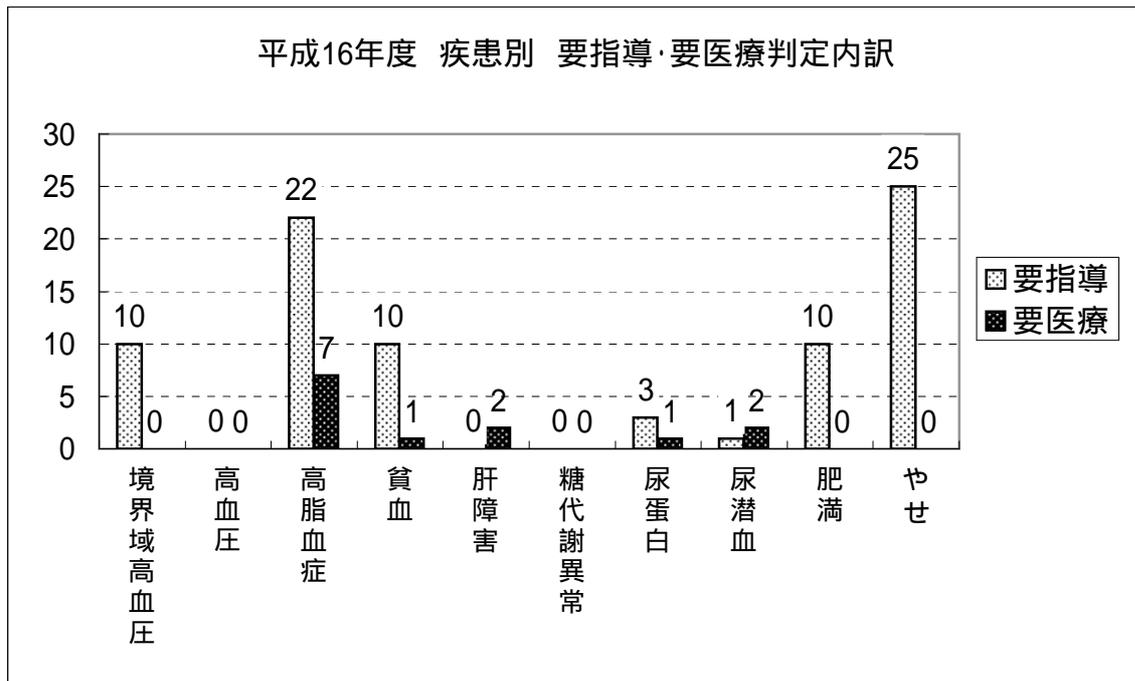
高脂血症要指導・要医療を合わせると21%。貧血は8.2%。肥満の要指導者0.7%。一方、18.1%がやせで要指導。

境界域高血圧要指導は7.5%見られる。

糖代謝異常は見られない。

ウ 要指導・要医療の疾病分類内訳（延べ件数）

区分 年度	境界域 高血圧	高血圧	高脂血症	貧血	肝障害	糖代謝 異常	尿蛋白	尿潜血	肥満	やせ
平成15年度	8	0	38	7	7	0	5	4	11	35
平成16年度	10	0	29	11	2	0	4	3	10	25



脂質を抑え、必要なカロリーと栄養素をバランスよく取れる食生活について啓発し食生活の改善を進める必要がある。また、生活の中の運動量を増やす指導も必要である。

壮年期・高齢期に本格的に発病してくる生活習慣病の予防のため、わかば健診事後指導が効果的に行われることは重要。高脂血症要指導者へ17年度教室への勧奨を行う。

6 骨密度測定

(1) 目的

自分の骨密度を知ることにより、寝たきりの原因となる骨粗鬆症の予防・早期発見に努める。また、骨粗鬆症についての正しい知識の普及と健康の保持・増進の啓発に努める。

(2) 対象

町内在住の一般住民

(3) 日時

平成16年 9月 3日(金) 午前10時～午後4時

平成16年11月 6日(土) 午前10時～午後4時

(4) 場所

保健センター1階 機能回復訓練室

(5) 方法及び内容

超音波法によるかかと部の骨密度測定 健康相談 栄養相談

(6) 従事者

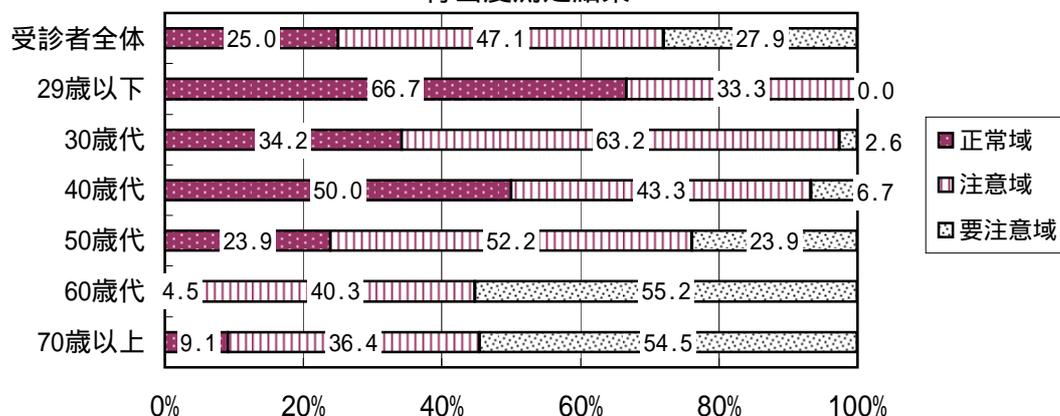
保健師 管理栄養士 看護師 事務員 委託機関(医師・オペレーター・事務)

(7) 実施結果

()は、男性受診者再掲(単位:人)

	受診者合計		正常域		注意域		要注意域	
29歳以下	12	(1)	8	(1)	4	(0)	0	(0)
30歳代	38	(2)	13	(1)	24	(1)	1	(0)
40歳代	30	(3)	15	(1)	13	(1)	2	(1)
50歳代	46	(4)	11	(2)	24	(0)	11	(2)
60歳代	67	(8)	3	(1)	27	(4)	37	(3)
70歳以上	11	(2)	1	(0)	4	(2)	6	(0)
合計	204	(20)	51	(6)	96	(8)	57	(6)

骨密度測定結果



一生のうちで骨密度がピークといわれる30歳代に、注意域及び要注意域の者が65.8%おり、60歳代になると要注意域の者が55.2%、70歳以上では54.5%にみられた。

7 健康教育

健康教育は、住民の健康意識の高揚、より良い生活習慣の定着を図ることにより、健康増進・疾病予防・寝たきり予防などに役立てることを目的としている。

16年度は、大口町健康づくり計画「健康おおぐち21」に従って、計画全体の周知と、運動、食生活、こころ、たばこ・アルコール、歯の5分野のはじめの一步の部分を健康教育に組み入れ推進してきた。運動に関しては、まずは自分の体力を知ってもらうために、住民検診等の機会をとらえて、体力測定を行なった。

重点事業としては、15年度に引き続き「ステップアップ糖尿病予防教室」、60からの健康づくり「元気・はつらつ教室」を実施。また、地区に出向いての60歳からの健康づくり「いつまでも元気はつらつでいましょう会」を行ない、介護予防活動を展開する一步とした。

(1) 60歳からの健康づくり「元気はつらつ教室」

ア 目的

集団で行なう筋力トレーニングを通して、寝たきり、閉じこもりを予防するとともに、仲間づくり、生きがいづくりを行なう。

イ 対象

原則として60歳以上の方

ウ 日時及び場所

平成17年1月～2月(全6回コース)

保健センター1階 多目的室

エ 従事者

保健師 管理栄養士 健康運動指導士

オ 参加者の状況

(ア) 年齢区分

55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	合計
1人	4人	3人	1人	2人	11人

(イ) 主な自覚症状(複数回答あり)

腰痛	4人	高血圧	3人
膝の痛み	2人	歩行時の痛み	1人
体重減少	1人	自覚症状なし	2人

カ 実施内容

日時	内 容	参加人数
第 1 回 1月12日(水)	健康のお話 「知っていますか？『健康おおくち21』」 運動のお話と実技「健康を保つための体の動かし方」	9人
第 2 回 1月19日(水)	運動実技「肩こり・腰痛を和らげるための体操」 こころのお話 「これからの人生をしなやかに元気に生きてみませんか」	10人
第 3 回 1月26日(水)	運動実技「元気に歩くために足を鍛えよう！」 栄養のお話「心と体に美味しい食事」	9人
第 4 回 2月9日(水)	運動実技「柔軟な体になろう！」 歯のお話「健康長寿の秘訣は『歯』」	8人
第 5 回 2月16日(水)	自分でもできる！（栄養実習） 「アッ！という間のバランス食」	10人
第 6 回 2月23日(水)	運動「楽しく続けて“力”になる運動」 まとめのお話「これからも元気・はつらつ」	9人

キ 結果

(ア) 教室開始時と終了時の体力測定実施者(7人)の教室前後比較(単位:人)

項目	+	変化なし	-	項目	+	変化なし	-
身長	<u>4</u>	2	1	片足バランス	<u>4</u>	2	1
体重	3	0	<u>4</u>	10m ズグザグ歩行	2	2	3
体脂肪	2	0	<u>5</u>	10m 歩行	0	4	3
インピーダンス	3	0	<u>4</u>	前屈	2	5	0
握力	<u>5</u>	0	2				

インピーダンスとは、体が持っている電気抵抗のことで、電気を通しやすい筋肉量が増えると値は下がる

・9項目中、6項目において体力測定実施者の半数以上に良い効果があらわれている(下線部分)。1ヶ月と短期間であるが、普段、運動を行なっていなかった参加者は特にインピーダンスの減少が大きく、筋肉量が増加していることが分かった。

ク まとめ

高齢者の健康づくり教室は4年目となる。例年に比べ、参加人数11人と少なかったものの、教室の回を重ねるごとに参加者同士の雰囲気良くなり、お互いにほめ合う姿も見られる。家庭へ戻ってから家族へ伝えるなど、熱心な参加者が多かった。また、少数だったため個々に対して接する時間を多く持つことができた。教室の内容も、筋力トレーニングとともに「食生活」「こころ」「歯」についても行い参加者からはとても好評であった。

今後も、その人がその人らしく、いつまでも生き生きと過ごせるための、きっかけ作りができるような教室を心掛ける必要性を感じた。

(2)ステップアップ糖尿病予防教室

平成9年度より個々にあった健康的な生活習慣を身につけるための実践教室として、集団と個別の指導内容を組み込んだ『ステップアップ健康教室』を行ってきた。基本健康診査や国民健康保険の人間ドックで、年々糖代謝異常者が増加傾向のため、平成12年度より糖尿病を取り上げ実施している。昨年度は高脂血症に焦点を当て行ったが、今年度は再度糖尿病について教室を行った。

ア 目的

糖尿病を正しく理解した上で、自分の生活を見直し、仲間とともに個々に合った健康的な生活を身につける。

イ 対象者

- ・基本健康診査及び国保の人間ドックにおいて、糖代謝異常の項目が要指導の者または要医療の者で治療を放置している者
- ・広報誌、広報無線による一般公募の者 このうち、年齢が40歳以上65歳未満の者

ウ 日時

平成16年6月～12月(全8回)

エ スタッフ

保健師 管理栄養士 運動指導員 医師

オ 実施内容

回数	内 容	人数
1回 (6/9)	『さあはじめよう！まずは自分を知ることから』 ・オリエンテーション ・健康チェック ・個別目標設定	11人
2回 (6/23)	『自分でできる、消費カロリーチェック』 ・自分にあった運動プログラムをつくります	10人
3回 (7/14)	『体においしい食事ってなあに？』 ・上手なおかずの選び方	11人
4回 (7/20～23)	『自分にあった食生活プログラムづくり』 ・個別栄養相談	11人
5回 (7/30)	『音もなく忍びよる糖尿病』 ・医師による講話 『無理なく運動ができていますか？』 ・運動プログラムの確認	11人
6回 (8/20)	『あなたのお口はだいじょうぶ？』 『もらったまんじゅう、あなたならどうする？』 ・自分の行動パターンを分析します	7人 (4人)
7回 (9/15)	『続けてみよう！私にあった生活プログラム』 ・運動と食生活プログラムを続けていくためには	9人 (後日1名面接)
8回 (12/8)	『ヘルシーパーティー』 ・調理実習 ・まとめと今後に向けて	10人 (後日1名面接)

カ 参加者の状況

(ア) 年齢層と出席状況

参加者数(実数)	11人	平均年齢	62.4歳
40歳代		実施回数	8回
50歳代	3人	平均出席回数	6.8回
60歳代	8人	出席率	85.2%
参加者数(延)	75人		

後日フォローで参加した人も含む。

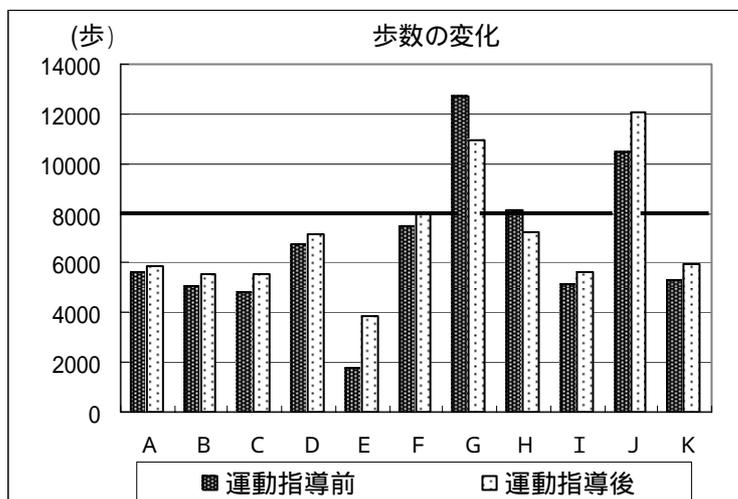
(イ) 参加者の指摘歴

指摘区分 糖尿病指摘歴	要指導	要医療<再掲・服薬>	異常を認めず 及び家族
1年以内	2人	1人	5人
1年～5年未満	0人	2人	
5年以上	0人	1人	
合計	2人	4人	5人

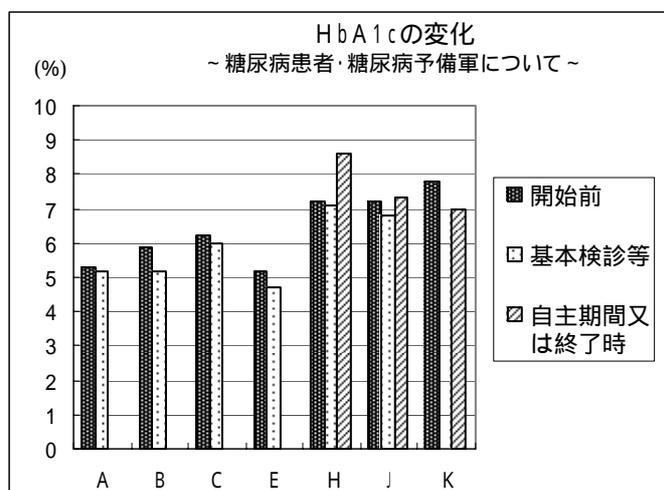
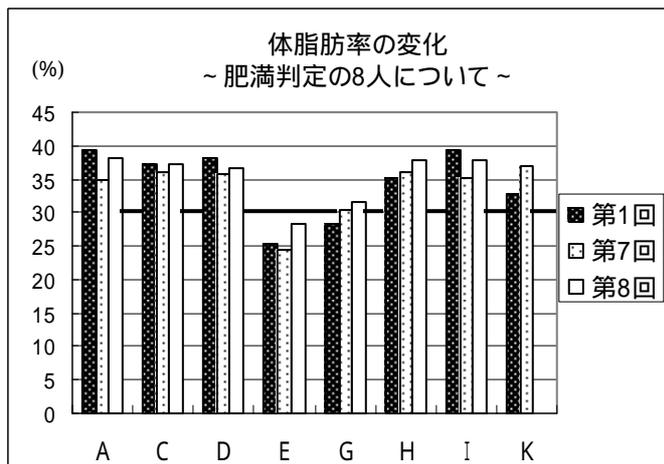
キ 個別目標の内容(複数)

- 糖尿病
 - ・意識を高め甘いものを考えて食べれるようにしたい
 - ・健康の為に、HbA1cと、体重を下げたい
 - ・元気に生活できるよう、白内障の手術ができるよう、HbA1cを下げたい
 - ・合併症にならない為に、HbA1cを下げたい
- 予備軍
 - ・健康である為に、体重を落としたい
 - ・健康でイキイキした生活をする為に運動習慣をつけたい
 - ・一人暮らし。今後も自立した生活ができるよう、運動不足を改善したい
- 異常なし
 - ・膝関節痛の軽減・豊かにオカリナが吹けるよう体重5Kg落としたい(高脂血症)
 - ・健康で暮らせるよう、コレステロールを下げたい
 - ・血糖値が高めの為、勉強したい。腰痛を治す為、体重を減らしたい(高血圧)
 - ・病気にならない為に、体重を落としたい

ク 客観的データの変化



- ・運動指導前と運動指導後にライフコーダを装着。生活の中で意識することで全体で平均408歩増加。10,000歩に達していない9人中、8人が歩数増加。血糖を下げるのに効果的な運動強度・継続時間も増えた。
- ・7回目では、3人が筋トレを継続、7人がウォーキング実施。



・食行動の変化

第7回までに、間食を減らしたり、内容・時間を考えてとるようになったという声が参加者11人中10人から聞かれた。グラフ縦軸の体脂肪率の変化に見られるように肥満判定の8人中4人に改善がみられた。野菜の摂取は必要性がわかって、摂取量の増加につながりやすかった。

実践期間にリバウンドの傾向が見られる。

H・Kは糖尿病歴が長く実際の食生活が問診から見えにくい傾向があった。

Gは家族状況から、実践が難しかったが、知識の変化が大きかった。

・HbA1cの変化について

教室中は順調に減少したが、実践期間での上昇が課題となった。

白内障の手術という明確な目標のある対象者は実践期間後にも減少が見られた。

ケ 目標達成度「自分の目指す姿に近づきましたか？」

目標達成度	人数	自分の気付き・周囲の声
はい	6人	<ul style="list-style-type: none"> ・Hb1cが下がった、主治医によく下がったと誉められた ・食べる量・油物を減らした、周りの人に痩せたねといわれた ・食べる量を意識するようになった、スリムになったねといわれ嬉しかった ・後半は実行できなかった ・体重が維持できるようになった、少ししまったといわれた ・子供から長い時間歩けるようになったといわれた
いいえ	4人	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨガ教室やウォーキングに行くようになった ・自分だけでなく家族の事を考えて食事を作るようになった、顔が少し小さくなったといわれた ・あまり感じない、少し痩せた？と言われた ・夏過ぎまでは頑張ったが、最近気が緩み戻りかけている
未記入	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・意識しているときは減ったがまたすぐに戻ってしまう

	できた理由	できなかった理由
運動	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回の水泳が習慣になっていて運動できた ・5分の早歩きならできると思い実践できた ・7,000歩、20分を目標に毎日歩いている(2人) ・体調が悪いときは椅子体操をした ・皆さんと一緒に散歩するようにした ・体操、グランドゴルフに行くのが習慣になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・寒くなって歩くのが億劫になった
食事	<ul style="list-style-type: none"> ・夜の間食を牛乳、ヨーグルトに変えた ・味付けをずいぶん薄口にした(3人) ・野菜を多く取るようにした(2人) ・油の量をだいたい少なくした ・規則正しい食事時間と野菜中心の食事を意識 	<ul style="list-style-type: none"> ・残すのが惜しくて食べ過ぎる ・お腹一杯食べる習慣変えれない ・食事を作りすぎる ・寒くなって野菜の摂取が減った ・間食が多くなった

ケ まとめ

今回参加された方は、教室リピーター・健康教室初参加者、糖尿病治療者・予備軍・高脂血症など対象者は様々だった。意識せずに摂っていたカロリーの多さに気付き、食事バランスの知識を学び、食習慣の改善につながった方が多くみられた。野菜の摂取量は必要性がわかっても増えにくく、個々の状況に合わせたより具体的な指導が必要。運動においては参加者全員に意識の高まりが見られ、それぞれの生活の中で運動量を増やせることを体験できた。

継続期間のリバウンドは課題であり、今後は教室終了後も続けられるよう、継続に向けた支援の為、生活環境・本人の思いの聞き取りから(受け止め)から、環境を整える具体的な支援ができるとうい。また、糖尿病暦が長い参加者ほど、食生活の実態が見えにくく、改善に向けた指導が響きにくい為、個々にあった具体的な実践方法を情報収集の中で見つけていく必要がある。

(3) ~60歳からの健康づくり～「元気はつらつでいましょう会」

ア 目的

活力ある「健康寿命」を延ばすために、地区に出向き、60歳以上の人々の生活能力や生活実態を知り、予防が必要な人を掘り起こすとともに、介護予防対策の一考とする

イ 対象

60歳以上の方

ウ 日時及び場所

平成16年12月2日(木) 余野学共施設

平成16年12月13日(月) さつきヶ丘集会場

平成17年2月14日(月) 垣田集会室

エ 内容

地区	内 容	参加者数
余野	健康おおぐち21について 生活能力チェック(起居・歩行・手腕・身辺・総合)	32人
さつきヶ丘	歯周病チェックと歯の健康について 「健康長寿の決め手は、歯が命！」	27人
垣田	健康おおぐち21について 歯周病チェックと歯の健康について 「健康長寿の決め手は、歯が命！」 簡単貯筋体操	15人
	合 計	74人

オ 従事者

保健師 歯科衛生士 健康推進員

カ 周知方法

健康推進員 老人クラブ 広報無線 案内チラシ

キ 結果

生活能力チェック集計結果 (余野・さつきヶ丘)

単位(人)

	優れている	やや優れている	普通	やや劣っている	劣っている	やや劣っている・劣っている人の割合
起居動作	4	4	13	14	20	61.8%
歩行	2	2	8	9	34	78.2%
手腕動作	4	15	17	7	12	34.5%
身辺作業	10	17	11	11	6	30.9%
合計	20	38	49	41	72	51.4%

総合判定集計結果

	50歳代		60歳代		70歳代		80歳~		全体	(率)
	男	女	男	女	男	女	男	女		
桜(優れている)	0	0	0	3	1	1	0	0	5	9.1%
菊(普通)	0	1	5	14	3	2	0	2	27	49.1%
梅(劣っている)	0	2	2	11	1	6	0	1	23	41.8%
合計	0	3	7	28	5	9	0	3	55	100%

ク まとめ

参加者、健康推進員ともに楽しみながら自分の日常生活動作能力を知るきっかけとなった。生活能力チェック実施者のうち約4割が年齢に対して生活能力が劣っており、特に歩行・起居動作について低下がみられた。筋力アップのための事後教室(元気はつらつ教室)を紹介した。来年度も継続して行なったり、まだ実施していない地区で行ない、今年度の結果から得られた傾向を返すことで、生活能力の維持・向上のための意識付けをしていきたい。

また、日頃学ぶことのない歯の健康教育も合わせて行うことで、参加者の関心も高く、体の一部としての「歯」を意識する機会となった。

(4) 健診の機会を活用した体力チェック

ア 目的

健康おおぐち 21 計画の推進のために、運動目標のはじめの一步「自分の健康維持・増進に必要な運動量を知ろう」に対する評価指標「体力テストを受け、自分の体力を確認している人の割合の増加」ができる環境づくりの一つとしてまた、運動の動機付けを目的として実施。

イ 対象

住民結核検診、わかば健診(20～30 歳代対象)受診者

ウ 内容

時 期	事業名	実施者数	内 容
6～7月(11 地区)	住 検	347 人	体力測定(3 項目)アンケート、健康教育等実施
9 月(2 回)	わかば	125 人	

愛知県健康づくり振興事業団の年齢別指標に基づき作成した結果評価表にシールを貼り、客観的に自分の体力を確認できるようにした。

閉眼(65 歳未満)・開眼(65 歳以上)片足バランス、椅子からの片足立ち上がり、握力

エ 結果

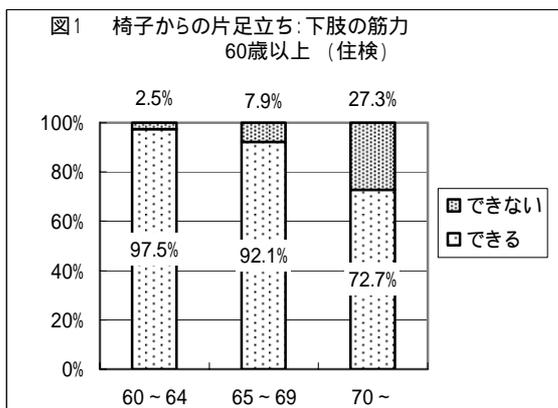


図 1 : 70 歳代から下肢の筋力低下が目立つ。

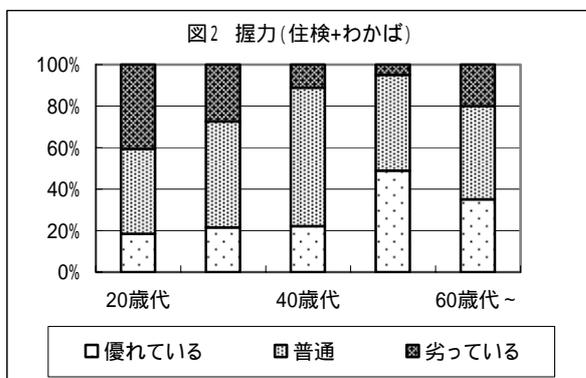
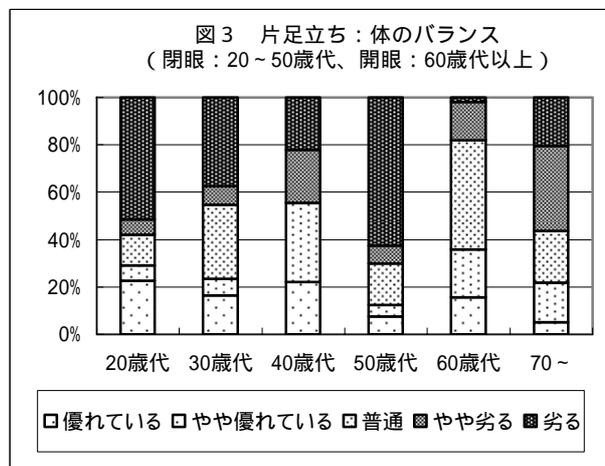


図 2・図 3 : 握力・体のバランスは若い年代から劣る人が目立つ。



運動量が低い現状の中、体力低下が見られる。

(大口町健康実態調査: 町民平均歩数 7,000 歩

「H16 年度健康おおぐち 21 アンケート」

運動不足と思う 男性 54.3%

女性 72.6%)

オ まとめ

3項目の簡単なデータだったが、筋力アップの取り組みの必要性を再確認し、計画推進状況を把握するための1データとなった。

体力測定後、日頃の生活では気付かない体力低下を感じ、受身ではなく自分からどんな運動をしたらよいか質問が多く出され、計画策定で上がった住民の声をヒントに実施した事業だったが、啓発の一步として有効性を感じた。

健診時の機会以外でも11月の健康まつり時の体力測定や地区に出たの高齢者の生活能力チェックを行った。

今後も単発で終わるのでなく、体力測定を継続していき、自分の体力を知るきっかけづくり、運動の動機付けをするとともに、住民の体力の変化から計画推進状況を把握していきたい。

(5) 歩く健康のつどい

ア 目的

手軽にできる運動として『歩くこと』を通して、健康の保持増進・生活習慣病予防に努める。

イ 対象

一般住民

ウ 日時

月2回(第2・4火曜日) 午前9時30分～11時

エ 従事者

保健師(健康チェック時のみ)

オ 実施内容

時 間	内 容
AM 9:30～9:45	健康チェック(血圧測定・検尿)
9:45～10:00	ストレッチ体操
10:00～11:00	1時間ウォーキング(主に五条川沿い)

検尿は、第2火曜日のみ

カ 参加状況

(単位:回・人)

年度	実施回数	実人数	参加延人数	1回平均参加者数
13	21	46	306	14.6
14	23	52	344	15.0
15	21	31	269	12.8
16	21	26	227	10.8

キ 健康チェック結果

(ア) 血圧測定者結果(延べ人数) (単位:人)

血圧測定者 延べ数	正常域	境界域	高血圧域
227	154	43	8

(イ) 尿検査者結果(延べ人数)

測定者	蛋白			糖			潜血		
	+	±	-	+	±	-	+	±	-
116人	0	2	114	4	4	108	2	12	102

ク まとめ

平成12年度から、定例以外に自主的に毎週火曜日にウォーキングを行っており、「歩く」ことを生活にうまく取り込んだ習慣がついてきている。また、各教室の修了者や歩くことに興味を持ち仲間や場を求めて参加し始めた人も増えてきている。

(6) 生活習慣病予防教室OB会(ステップアップ若歩会)

平成11年度のステップアップ健康教室参加者で、教室終了後も健康づくりへの意識を持ち、参加者同士が互いに刺激し合うために「ステップアップ若歩会」を発足させ、自主グループとして活動している。

ア 目的

教室参加中に培った生活習慣の維持と更なる健康意識の高揚のために、「歩くこと」を中心に健康づくりを継続する。

イ 実施日時および回数

毎月第4火曜日(年間12回) 午前9時30分~11時30分まで
(内容により、この限りではない)

ウ 会員数

9名

エ 従事者

管理栄養士 保健師

オ 実施内容および参加状況(スタッフが係わった回のみ)

実施月	実施内容	参加人数
4月1日	平成16年度の活動について	8人
8月24日	講義・実習『高脂血症の予防の食事』 健康おおくち21の話 高脂血症クイズ	8人
2月22日	講義・実習『低カロリー料理』 会員の考えた献立を修正 「春だ!笑顔だ!元気まつり」の参加について	8人
3月5日	春だ!笑顔だ!元気まつり「癒しのお茶コーナー」	8人

上記以外は、町内ウォーキングやビデオ体操を中心に活動している。

カ 実施場所

保健センター

キ まとめ

実施内容の企画や連絡・調整は、参加者が輪番制をとり、年間計画に基づいて活動している。この活動をはじめて5年が経過し、月1回集まることで健康情報の交換や、互いの生活習慣について刺激しあいながら全員楽しく参加している。

また、今年度は「春だ!笑顔だ!元気まつり」に参画し、「癒しのお茶コーナー」にて、日頃家庭で使っている薬草茶やハーブティーを来場者に試飲してもらうことで、日頃の活動を外へ発信する機会となった。

今後も活動を継続していく中で活動内容を会員以外の人にも生活改善の効果や方法等を啓発していけるよう支援していきたい。

(7) その他の健康教育

事業名 (依頼団体)	実施月日	実施内容	参加人数 (スタッフ)
さわやか会 (秋田老人クラブ)	4月16日	講話「健康おおぐち21の話」 イスに座ってできる運動「足腰を丈夫にしよう！」 健康相談(血圧測定・尿検査)	47人 (保健師)
	1月18日	講話「健康おおぐち21の話」 握力体操・イス体操 健康相談(血圧測定)	50人 (保健師)
老人クラブウォーキング	5月7日	イスに座ってできる運動「楽しく体操をしよう！」 健康相談(血圧測定)	33人 (保健師)
ちとせ会 (大口町老人クラブ連合会)	11月5日	歯科医師の講話「全身と歯の関わり」 歯科衛生士によるブラッシング指導	35人 (保健所 歯科 医師・歯科衛生 士/保健師)
大屋敷区高齢者 ふれあい会 (大屋敷区)	5月9日	講話「健康おおぐち21の話」	70人 (保健師)
民生委員定例会 (福祉課)	6月23日	講話「健康おおぐち21の話」	29人 (保健師)
河島地区老人クラブ	7月5日	講話「健康おおぐち21の話」 運動実技「楽しく体を動かそう」 健康相談(血圧測定)	31人 (保健師)
老人福祉センター (憩いの四季) 健康づくり教室	7月8日	講話「健康おおぐち21の話」 イスに座ってできる運動「足腰を丈夫にしよう！」 健康相談(血圧測定)	28人 (保健師)
	12月9日	講話「高脂血症・高血糖予防の食事について」 握力体操 健康相談(血圧測定)	32人 (保健師)
外坪老人クラブ	7月16日	講話「健康おおぐち21の話」 運動実技「楽しく体を動かそう」・歌体操	50人 (保健師)
御供所老人クラブ	7月16日	講話「健康おおぐち21の話」 握力体操 健康相談(血圧測定)	27人 (保健師)
寿楽会 (上小口老人クラブ)	7月15日	イスに座ってできる運動「足腰を丈夫にしよう！」 健康相談(血圧測定) 講話「健康おおぐち21の話」	40人 (保健師)
さつきヶ丘 老人クラブ	9月22日	講話「健康おおぐち21の話」 運動実技「楽しく体を動かそう！」 健康相談(血圧測定)	30人 (保健師)
南部地区老人クラブ	12月10日	講話「健康おおぐち21の話」 歌体操 健康相談(血圧測定)	80人 (保健師)

(8) 健康教育実績

(単位 : 回・人)

区分 事業	事業名	対象	回数	参加延人員
年間計画による事業	ステップアップ糖尿病教室	一般住民	8	71
	元気はつらつ教室	高齢者	8	105
	歩く健康のつどい	一般住民	21	227
	歯周病予防検診時健康教育	一般住民	2	15
	乳がん検診時健康教育	成人女性	6	80
	健康推進員ウォーキング大会	一般住民	1	485
	健康推進員研修会	健康推進員	10	389
	健康まつり	一般住民	1	500
	春だ!笑顔だ!元気まつり	一般住民	1	600
	住民検診時体力測定	一般住民	11	350
元気はつらつでいましょう会	高齢者	3	74	
要請による事業	秋田老人クラブ	老人クラブ員	2	97
	上小口老人クラブ	老人クラブ員	1	40
	ちとせ会(大口町老人クラブ連合会)	老人クラブ員	2	68
	御供所老人クラブ	老人クラブ員	1	27
	大屋敷区高齢者ふれあい会	大屋敷区高齢者	1	70
	河島地区老人クラブ	老人クラブ員	1	31
	老人福祉センター健康づくり教室	高齢者	2	60
	外坪老人クラブ	老人クラブ員	1	50
	さつきヶ丘老人クラブ	老人クラブ員	1	30
	南部地区老人クラブ	老人クラブ員	1	80
	介護者教室	介護者	1	34
	北小学校PTA健康教育	北小学校PTA	1	26
	民生委員健康教育	民生委員	1	29
	自主グループ健康教育	若歩会 2	3	24
	健康推進員地区活動 1	地区住民	18	577
ほほえみ会健康教育	ほほえみ会員 3	8	135	
	合計		117	4,274

1 保健師・管理栄養士が携わった活動のみ

2 「若歩会」は、平成11年度ステップアップ健康教室のOB会

3 「ほほえみ会」は、第1・2・3期健康推進員のOB会

(9) 広報『おおぐち』及び広報無線による啓発活動

ア 目的

疾病や生活習慣などに関する情報を広く住民に啓発し、広報「おおぐち」・広報無線を通じて健康意識の向上に努める。

イ 掲載月および内容

掲 載 月	掲 載 内 容
平成 16 年 7 月号	「食中毒の発生を防ぎましょう」 ・食品の購入・保存・調理のポイント
平成 16 年 9 月号	「9月9日は、救急の日」・救急箱に入れておきたいもの 「結核予防週間」 ・ストップ ザ 結核！4つのポイント
平成 16 年 10 月号	「食生活改善普及月間」 ・食生活改善チェックと栄養相談の紹介
平成 16 年 11 月号	「インフルエンザの予防」・インフルエンザの予防方法
平成 16 年 12 月号	<small>はちまるにいまる</small> 「8020運動コンクール表彰者発表」・表彰者の8020の秘訣
平成 17 年 3 月号	「世界結核デー」

* 「みんなですすめる 健康おおぐち21」と題し4月号では、昨年に引き続き計画策定状況を掲載し、平成16年6月号から平成17年3月号では、5分野のはじめの一步を掲載した。

* 広報無線：平成16年10月～「健康おおぐち21」の周知と内容の啓発として、一週間毎に各分野のワンポイントアドバイスを流した。また、同時に「健康おおぐち21」のシンボルマークの募集や「お弁当コンクール」・「笑顔の写真展」の作品募集、こころの講演会の案内、「春だ！笑顔だ！元気まつり」の周知も行った。

(10) 生活習慣病予防教室のあゆみ

年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
動機 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防のための生活改善がより実践的なものになるよう、内容を充実させた。 骨検診後のフォロー教室を 3 回 1 コースで実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、糖尿病予防のための生活改善を重点に置き、内容をさらに充実させた。 高齢者と成人において、筋力トレーニングを取り入れた実践教室を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> H 9 年度から取り入れている集団・個別方式による「ステップアップ教室」のテーマを基本健診で最も異常の多い高脂血症にし、生活習慣改善を運動実践に重点を置いて実施した。 高齢者は筋力トレーニングを取り入れ生きがい活動につながるようなグループ学習を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 今や国民病とも言われている糖尿病予防のための生活習慣改善に再び重点をおき、対象者の幅を広げ実施した。 年代別での健康問題やニーズに合わせて生活習慣病予防教室を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、糖尿病に重点を置いて教室を実施。教室の名称に「予防」を加え、要医療・要指導以外の関心のある方にも対象を広げた。 高齢者対象に筋力維持に向けた筋力トレーニングと、高齢期の心身ともに健康的なライフスタイルのヒントになるよう講義を実施。 生活能力チェックで運動の動機付けを行う。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 「がん予防講演会」 ・医師による『たばこの害』に関する講演 「骨粗鬆症予防教室（骨太教室）」 1 回 医師による講演 2 回 運動の講演と実技 3 回 栄養士の講演 「ステップアップ糖尿病教室」 ・8 回 1 コースとした 	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップアップ糖尿病教室」 ・8 回 1 コースで実施 「はつらつ教室」 ・6 回 1 コースで、65 歳からの健康づくりとして、家庭でもできる筋力トレーニングを実施。 「心と体が思わず笑い出す元気アップ教室」 ・6 回 1 コースで、病態の啓発と筋力トレーニングを毎回組み合わせ実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 「元気アップ教室～高脂血症編～」 ・6 回コースで高脂血症予防の栄養の基本と運動実技を実施 「元気はつらつ教室」 ・65 歳からの健康づくりとして 6 回 1 コースで、筋力トレーニングと「健康」をテーマとしたグループ学習を取り入れた教室を実施。 「魅力アップ講座」 ・20 歳代・30 歳代健康づくりとして 3 回 1 コースで、運動、栄養、休養について講義と実技を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップアップ糖尿病教室」 ・8 回コースで糖尿病予防の生活習慣の見直しと、栄養・運動の実践へとつながるよう集団・個別方式で実施。 「元気はつらつ教室」 ・65 歳からの健康づくりとして、6 回コースで筋力トレーニングと食生活、おしゃべり、歯の講義を取り入れた教室を実施。 「健康ライフセミナー」 ・50～60 歳代を対象に、3 回 1 コースで運動実技と健康管理、生き方、生活情報等の講義を取り入れ実施。 「魅力アップ教室」 ・20～30 歳代を対象に、3 回 1 コースで運動実技とメイク法、食生活、カラーコーディネート等の講義を取り入れ実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップ・アップ糖尿病予防教室」 ・8 回コースで糖尿病予防の生活習慣の見直しと、栄養・運動の実践へとつながるよう集団・個別方式で実施。 「元気・はつらつ教室」 ・65 歳からの健康づくりとして、6 回コースで筋力トレーニングと、高齢期のライフスタイルについての講義、歯・食生活の講義と実習を取り入れた教室を実施。 「元気はつらついましょう会」 ・生活能力チェック・歯の健康教育を 3 地区で実施
備考	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなの健康ひろば」を 1 階エントランスに設置し、肥満と糖尿病に関する情報の発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報に糖尿病教室後の参加者の変化を掲載。 ・はつらつ教室、元気アップ教室の各 O B 会発足。 ・健康推進員第 3 期発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報に生活習慣病予防チェックや食習慣チェックを掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報に、好評であった元気はつらつ教室の様子を紹介 ・健康おおぐち 2 1 検討部会に、元気アップ O B 会の代表者 2 名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報で健康おおぐち 2 1 推進に関する健康教育を掲載

8 健康相談

健康相談事業は、住民が抱えている健康問題に対して、生活習慣改善を中心に実施している。定例の健康相談（毎週金曜日）に加えて、随時電話相談や健康相談を行い、より住民の健康的な生活を支援できるよう努めている。

（１）健康相談

ア 目的

健康相談を通して日常生活を見直し、健康の保持増進につなげる。

イ 対象

一般住民

ウ 日時及び場所

毎週金曜日 午前 9 時 30 分から 11 時 30 分 保健センター 相談室

随時 保健センター窓口及び相談室

エ 内容

血圧測定 尿検査 日常生活相談 栄養相談（希望者のみ）等

オ 従事者

保健師 管理栄養士

カ 実施状況

	実施回数	延べ相談者数	栄養相談（再掲）
毎週金曜日	50 回	78 人	0 人
随時	124 回	125 人	20 人

< 相談者内訳 >

相談者内訳		血圧域区分			
39 歳以下	40 歳以上	正常域	境界域	高血圧域	未実施
1 人	77 人	42 人	18 人	7 人	11 人

< 相談内容内訳 > 125 件

内 容	件 数
精 神	3 1 件
生活習慣病関係	4 5 件
乳 児	4 件
予 防 接 種	9 件
幼 児	1 4 件
虐 待	3 件
妊 婦	3 件
感 染 症	1 件
心身障害	1 件
難 病	1 件
思 春 期	1 件
そ の 他	1 2 件

(2) 電話相談

ア 目的

電話相談を通して日常生活の不安を取り除き、健康の保持増進につなげる。

イ 対象

一般住民

ウ 従事者

保健師 管理栄養士

エ 実施状況

(ア) 電話相談 281件

<内訳>

内 容	件 数
予 防 接 種	154件
精 神	5件
乳 児	27件
幼 児	48件
生活習慣病関係	23件
思 春 期	2件
妊 婦	3件
産 婦	1件
虐 待	2件
難 病	2件
家 族 計 画	0件
そ の 他	14件

(3) 住民検診時健康相談

ア 目的

健康相談を通して日常生活を見直し、健康の保持増進につなげる。

イ 対象

住民検診受診者

ウ 日時及び場所

6月29日から7月4日までの住民検診実施期間 10地区会場と保健センター

エ 内容

検診結果(胸部レントゲンを除く)説明 健康手帳の発行
健康管理台帳を参考にした保健指導および日常生活相談 栄養相談
(必要に応じて医療機関の受診勧奨または事後相談を勧める)

オ 従事者

保健師 管理栄養士

カ 実施状況

実施回数	相談者数（栄養相談再掲）
11回	457人（6件）

1会場を1回とする。

<内訳>

内訳		血圧域区分			
39歳以下	40歳以上	正常域	境界域	高血圧域	未実施
61人	396人	322人	98人	37人	0人

<栄養相談内容（重複あり）>

- ・高脂血症 3人
- ・高血圧 3人
- ・糖尿病 2人
- ・バセドウ病 1人
- ・骨粗鬆症 1人

（4）住民検診後の事後相談

ア 目的

健康状態を把握し、必要な場合医療機関の受診を勧奨する。

イ 対象

住民検診の結果、血圧や尿検査の再検査が必要と認めた者

ウ 日時及び場所

住民検診後のがん検診時 がん検診会場（保健センター）

エ 内容

血圧測定 尿検査 日常生活相談 治療についての相談

オ 従事者

保健師

カ 実施状況

実施回数	相談者数	血圧域区分			
		正常域	境界域	高血圧域	未実施
5回	159人	116人	13人	12人	18人

半日のがん検診を1回とする。

（5）医師による健康相談

ア 目的

健康状態をより具体的に正しく把握し、必要な場合受診を勧奨する。

イ 対象

一般住民

ウ 日時及び場所

平成16年11月15日（月） 午後2時～3時

保健センター 相談室

エ 内容

血圧測定 日常生活や治療に関する相談

オ 従事者

医師 保健師

カ 相談内容

相談者	内容
37歳(女)	高中性脂肪、うつ病、睡眠障害について
65歳(女)	高脂血症について
61歳(女)	急性すい炎、糖尿病、不眠について

(6) 健康教育時健康相談

教室名	実施回数	延べ人数
歩く健康の集い	21回	227人
ステップアップ糖尿病教室	12回	82人
元気はつらつ教室	6回	55人
秋田老人クラブ	2回	36人
中小口区健康推進員活動	1回	22人
健康づくり教室	2回	61人
御供所老人クラブ	1回	27人
河島地区老人クラブ	1回	18人
上小口老人クラブ	1回	28人
ほほえみ会	1回	16人
さつきヶ丘老人クラブ	1回	26人
外坪区健康推進員活動	1回	14人
南部地区老人クラブ	1回	36人
余野区元気はつらつでいましょう会	1回	32人
さつきヶ丘区元気はつらつでいましょう会	1回	21人
合計	53回	701人

(7) 骨密度測定時の事後健康相談

内容	回数	延べ人数
健康相談	4回	193人

半日を1回とする。

(8) 健康まつり時健康相談

内容	回数	延べ人数
健康相談	2回	65人

半日を1回とする。

9 機能訓練（B型機能訓練：ひだまりの会）

（1）目的

- ・虚弱老人が閉じこもり症候群から寝たきり状態に陥ることを防止し、いきいきした生活を確保し、地域との連携の中で、社会参加を促し、A D L の維持・改善を図る。
- ・ボランティア等の地域住民と共に、安心して老いることができる、お年寄りにやさしい地域をつくる。

（2）対象

町内に在住する閉じこもりがちな人

（3）日時及び場所

毎月 第1・3火曜日 午前9時30分～12時 大屋敷学習等共同利用施設
 毎月 第2・4金曜日 午前9時30分～12時 中小口地区コミュニティーセンター

（4）内容

時 間	内 容
9:00～9:30	会場準備
9:30～9:45	事前打ち合わせ
9:45～10:15	健康チェック（血圧測定）
10:15～10:40	歌（ひだまりの会の歌・今月の歌）・みんなの体操・鳴子体操
10:40～11:20	生きがい活動（遊بریテーション・作業療法等）
11:20～11:30	お茶タイム 後教室終了
11:30～12:00	カンファレンス（反省と次回予定）

（5）従事者

大屋敷：作業療法士・運動指導員（各6回／年）・保健師・ボランティア
 中小口：作業療法士・運動指導員（各6回／年）・保健師・ボランティア

（6）参加状況

<大屋敷>

実施回数	24回	
参加実人員	対象者	6人
	ボランティア	8人
参加延人員	対象者	75人
	ボランティア	110人
平均参加者数	対象者	3.1人
	ボランティア	4.6人

<中小口>

実施回数	24回	
参加実人員	対象者	10人
	ボランティア	10人
参加延人員	対象者	102人
	ボランティア	138人
平均参加者数	対象者	4.3人
	ボランティア	5.8人

（7）年齢別区分

	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計
大屋敷	-	-	-	3人	3人	6人
中小口	-	-	8人	1人	1人	10人

(8) まとめ

<大屋敷について>

5年目となり、対象者は80～90代と高齢のため、転倒や身体の衰えにより足が遠のく人もいたが、ボランティアの助けもあり、月2回のひだまりの会が生活の中の楽しみとして定着している。今までの作品を全部家に飾っているなど、毎年恒例の季節の行事を楽しみにしている参加者もいる。しかし、対象者・ボランティアともにメンバーが固定化しており、地区の活動として広めていく必要がある。

<中小口について>

4年目となり、地域高齢者へのボランティアのきめ細やかな声かけから、今年度は4人の対象者が新しく定着して参加されている。アイデアとユーモアに溢れるボランティアが、自分たちの若い頃お世話になった方たちへの恩返しという意識で、対象者を尊重しながら、心身の健康状態維持に向け楽しく働きかけられている。

新たに一年間取り組んできたハンドベルを老人クラブで発表するなど、人前で披露する緊張感と達成感を体験。地域の高齢者にひだまりの活動を周知する機会ともなった。

<全体を通して>

筋力面とともに、精神面での大きな効果が見られるが、それを客観的に示せる評価方法の検討が必要である。

ボランティアが定着し、対象者との良い関係が築けているが、ボランティアも70歳代の方がみえるなど高齢化していくため、地域の若い世代にも関心を持ってもらえる働きかけが必要となる。

今後は会の目的にあるよう、ボランティア住民とともに、地域で高齢者を見守りながら、より多くの対象者に心身の健康維持を図り、介護予防効果を上げていける働きかけや内容・体制作りが検討課題である。

10 保健師活動報告

所属 大口町保健センター 保健部門				保健部門 福祉部門				平成 16 年 4 月 ~ 17年 3月分						
保健師数	実人員	6 人		家庭訪問				面接		電話相談				
	実働	6 人		被指導人員		率		被指導人員		被指導延人員				
時間外勤務数			実	延	率		実	延						
				[市町村支援]		[市町村支援]								
業務内容				感染症	0	0	()	0.0%	()		0	0		
				結核	0	0	()	0.0%	()		0	0		
				結核要観察	0	0	()	0.0%	()		0	0		
地区管理	調査研究	12	0.5%	精神障害 その他	精神障害	4	5	()	1.8%	()	15	36	8	
	地区管理	518	22.0%		虐待	0	0	()	0.0%	()				
家庭訪問	124	()	5.3%		その他	1	1	()	0.4%	()				
保健福祉事業	健康相談	243	()	10.3%	心身障害	18歳未満	0	0	()	0.0%		0	0	
	保健指導	28	()	1.2%		18~39歳	0	0	()	0.0%				()
	健康診査	397	()	16.9%		40歳以上	0	0	()	0.0%				()
	健康教育	500	()	21.3%	生活習慣病等	39歳以下	0	0	()	0.0%		29	16	
	地区組織活動	<87.0>	()	()		40歳以上	46	46	()	20.2%				()
	機能訓練	67	()	2.8%	難病	1	1	()	0.4%	()	0	0	0	
	予防接種	61	()	2.6%	長期療養児	0	0	()	0.0%	()	0	0	0	
コーディネート	その他	45	()	1.9%	乳児	新生児	14	14	()	6.1%	16	21	159	
	会議	96	4.1%	未熟児		12	12	()	5.3%	()				
	会議以外	9	0.4%	その他		52	53	()	22.8%	()				
教育研修	研修企画	13	0.6%	幼児	22	36	()	9.6%	()	3	3	0	0	
	実習指導	11	0.5%	妊婦	1	1	()	0.4%	()	0	0			
	医療監視等	2	0.1%	産婦	73	74	()	32.0%	()	0	0			
	業務管理	0	0.0%	家族計画	0	0	()	0.0%	()	0	0			0
業務連絡・事務	27	1.1%	その他	2	2	()	0.9%	()	5	5	4			
研修参加	153	6.5%	計	228	245	()	100.0%	()	94	187				
その他	45	1.9%												
計	2351	()	100.0%	家庭訪問再掲										
コーディネート				実		延								
延課題件数	会議		会議以外		虐待再掲	エイズ	1	2						
	結核	個別	地域	個別		地域	児童	0	0					
		精神	0	0		5	0	高齢者	0	0				
	老人	0	0	0		0	その他	0	0					
	母子	0	0	26		3	虐待予防	6	12					
	難病	0	0	0		0	不在件数		21件					
	障害児(者)	0	0	2		0	不明件数		0件					
その他	0	0	0	3										
計	0	0	33	6										
延関係機関(者)数	医師会	0	0	0	0									
	医療機関	0	0	1	4									
	福祉関係機関	0	0	24	1									
	保健関係機関	0	0	1	1									
	教育関係機関	0	0	2	0									
	事業所関係	0	0	0	0									
その他	0	0	0	0										
計	0	0	28	6										

* 虐待予防・・・長期療養児から幼児までの家庭訪問の中で、虐待予防のため子育て支援を必要とするもの

11 家庭訪問

(1) 介護保険認定調査訪問

平成12年度4月介護保険導入後、福祉課とともに介護保険の申請をした人に対して認定調査を行っている。

ア 対象 40歳以上の介護保険対象者で、常時介護や支援が必要と思われ、介護保険の認定を申請した方

イ 申請窓口 福祉課

ウ 申請人数 延人数585人（新規 109人、更新 428人、変更 48人）
実人数414人

エ 健康課の訪問 延人数 482人（在宅 341人、施設 86人、入院 55人）

オ 介護認定調査者の状況(実人員) 平成17年3月31日現在

(ア) 地区別 (単位:人)

秋田	40
豊田	68
大屋敷	50
外坪	18
河北	28
余野	67
上小口	36
中小口	25
下小口	104
垣田	14
さつきヶ丘	19
町外	13
計	482

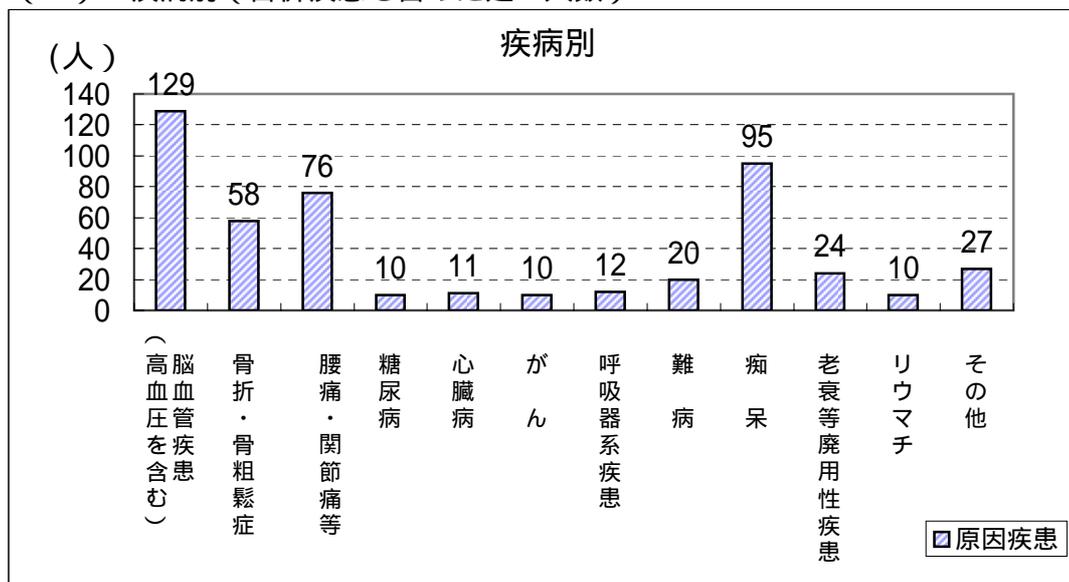
(イ) 性別 (単位:人・%)

男	141	(29.3)
女	341	(70.7)
計	482	(100.0)

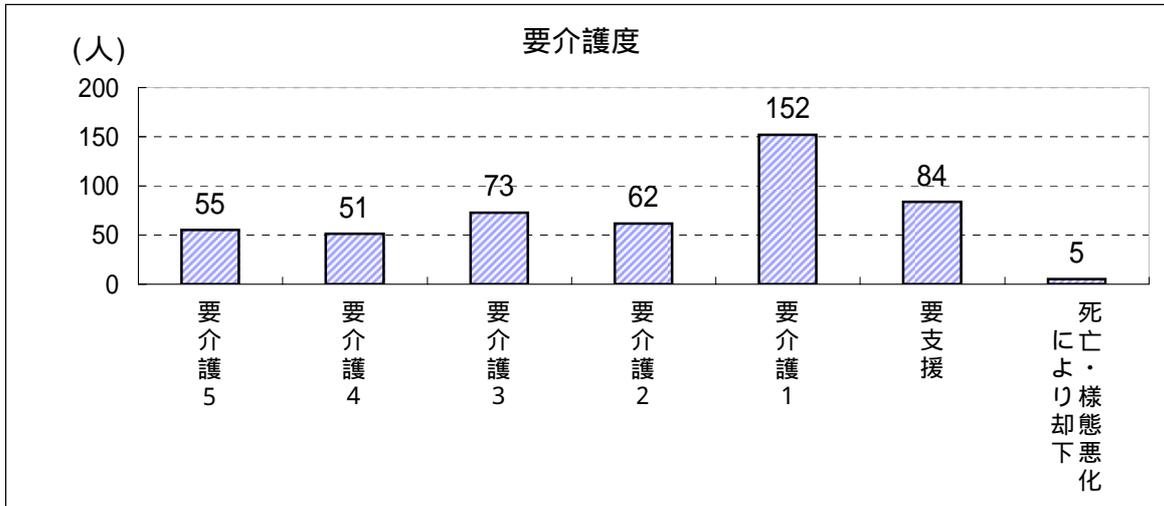
(ウ) 年齢別(単位:人・%)

40~49歳	4	(0.8)
50~59歳	10	(2.1)
60~64歳	10	(2.1)
65~69歳	37	(7.6)
70~79歳	133	(27.6)
80~89歳	199	(41.3)
90歳以上	89	(18.5)
計	482	(100.0)

(エ) 疾病別 (合併疾患も含めた延べ人数)



(オ) 要介護度別



(カ) 療養場所別 (単位:人)

自宅	341
施設	86
入院	55
計	482

(キ) 介護者別 (単位:人)

嫁	126
配偶者	113
息子又は娘	125
孫又は孫娘	5
その他	113
計	482

(2) その他の訪問

(単位:人)

区分	実人員	延べ人数
健康診査の要指導者	4	4
閉じこもり予防	16	16
介護家族者	10	10
寝たきり者	6	6
認知症老人	10	10
その他(精神障害等)	7	7
計	53	53

健康診査の要指導者への訪問は、がん検診の要精検者に対し訪問をおこなった。精神障害者(疑いを含む)への訪問は、福祉課の精神保健福祉士と連携を図り訪問を実施。

医療機関へつなげるケースもあり。

4 齒科保健活動

1 歯科保健事業の取り組み

妊婦歯科健診は、20・30歳代の歯周疾患の早期発見につながっていると同時に、胎児期の歯牙形成と食事の大切さを学び、子育てが始まる前の虫歯予防について学ぶ機会となっている。

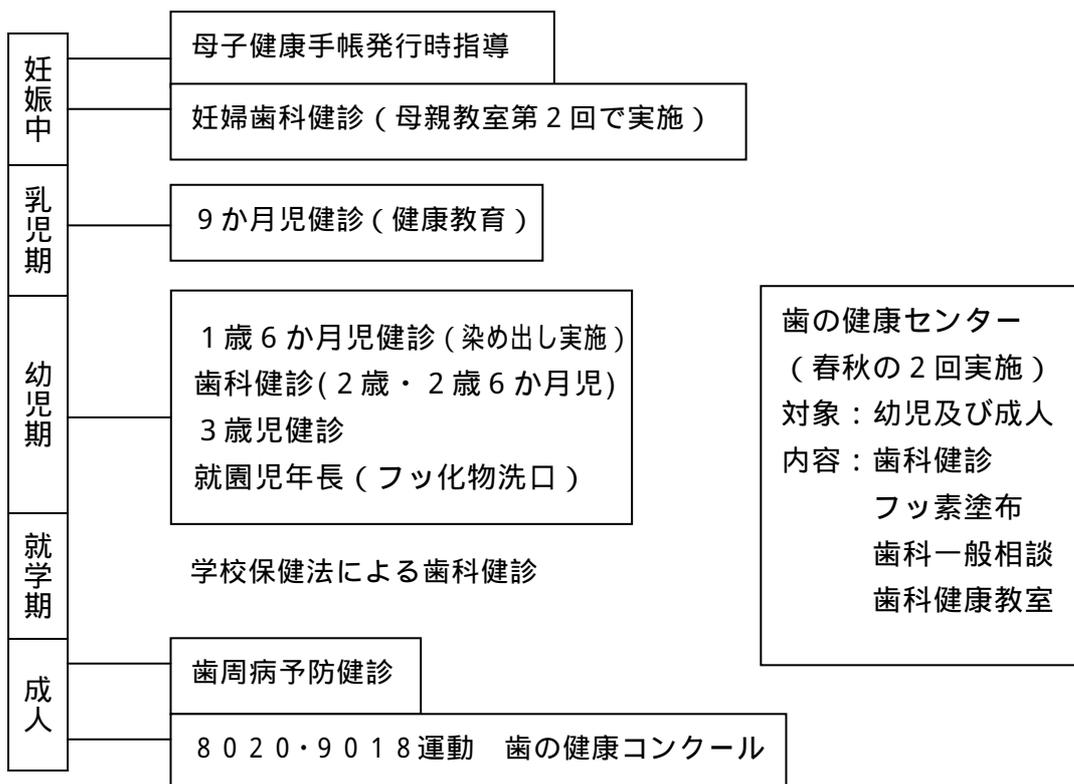
歯は、生えてから3年が虫歯になりやすいと言われ、食生活・生活リズム・正しい歯みがきが虫歯予防のポイントであるため、1歳6か月児健診・歯科健診・3歳児健診で歯科衛生士の健康教育と個別指導に力を入れフッ素塗布も実施し予防効果をあげている。

12年度からは、1歳6か月児健診時に、13年度からは歯科健診時に染め出しを加えた。また、保育園では14年度10月から町内全園の年長児に対してフッ化物洗口を開始した。

食事を十分にそしゃくし、健康で豊かな生活を維持するには80歳で20本の歯を残すことが大切である。平成元年から始めた成人歯科相談の名称を歯周病予防健診として実施し、歯を失う原因の一つである歯周疾患の予防を中心に歯科指導を行っている。春秋に実施される歯の健康センターでの成人の参加者も増え、8020運動の歯の健康コンクールも定着してきており、15年度から9018も表彰の対象とした。

16年度は、健康推進員研修会、高齢者教室、「元気はつらつでいましょう会」で歯科衛生士による歯科保健指導を行った。健康おおぐち21の歯の目標である「いつまでも自分の歯で食べよう」「いつまでも明るく歯を出して笑おう」に向け、健康と歯のつながりを意識した取り組みを継続していきたい。

歯科保健管理体系



2 妊婦歯科健康診査

(1) 目的

妊娠中は生活の変化やホルモンの影響などで虫歯になりやすく歯肉炎や口内炎もおきやすいため、妊婦の歯肉炎や虫歯の予防と早期発見に努める。

乳歯の質を決めるこの時期に歯科健診を受け、歯科保健について学習する機会をもうけ、生まれてくる子どもの虫歯予防の啓発とする。

(2) 対象

妊婦

(3) 日時

奇数月の第2金曜日 午後1時30分～3時30分(年6回) 母親教室第2回に実施

(4) 内容

- ・ビデオ「おなかの中から始まる丈夫な歯育て」
- ・健診 ・ブラッシング指導(染め出しによる) ・食生活チェック
- ・講話 母と子の虫歯予防について

(5) 従事者

歯科医師 歯科衛生士 管理栄養士 保健師

(6) 参加者の状況

ア 参加者数 (単位:人)

年度	12	13	14	15	16
初産婦	51	57	54	50	45
経産婦	26	13	24	15	25
計	77	70	78	65	70

イ 健診結果

(単位:人・本)

区分 年度	受診者数	1人平均 健全歯数	1人平均 未処置 歯数 (D)	1人平均 喪失歯数 (M)	1人平均 処置歯数 (F)	1人平均 DMF歯 数	歯周疾患	
							あり	なし
14	78	17.8	1.1	0.5	9.3	10.9	76	2
15	65	17.1	1.1	0.3	10.0	11.4	53	12
16	70	18.4	0.7	0.2	9.5	10.4	49	21

ウ 判定結果(延数)

(単位:人)

所見なし	要指導	要除石	要治療
8	27	34	26

3 幼児期歯科健康診査

(1) 目的

歯牙が形成される乳幼児期に、歯の大切さと正しい衛生習慣を身につけるとともに、歯科健診・フッ素塗布を行ない、虫歯予防に努める。

(2) 対象

1歳6か月児・2歳・2歳6か月児・3歳児

(4か月児・9か月児...生活リズムや飲み物の注意、歯の手入れについて指導)

(3) 日時

1歳6か月児健診時歯科健診(1歳6か月児対象) 毎月第3水曜日 午後1時40分～

歯科健診(2歳・2歳6か月児対象) 毎月第3火曜日 午後1時30分～

3歳児健診時歯科健診(3歳児対象) 毎月第1水曜日 午後1時40分～

(4) 内容

健康教育(ブラッシング法)・健診・染め出し(3歳児健診を除く)・フッ素塗布・ジアミン銀塗布・個別指導

(5) 従事者

歯科医師・歯科衛生士・保健師

(6) 結果

ア 1歳6か月児健診時歯科健診

(単位：人・%・本)

種別 年度	対象者	受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況			フッ素 塗布 者 数	塗銀		その他の要指導		
			O1	O2	A	B	C	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数			人	本	指しゃ ぶり	歯列 咬合	その 他
									総 数	一人 あたり						
12	265	257	25	224	8	0	0	8(3.1)	25	0.10	256	3	7	5	29	6
13	260	249	52	190	7	0	0	7(2.8)	13	0.05	245	5	11	2	23	48
14	261	252	71	176	5	0	0	5(2.0)	11	0.04	248	1	4	6	30	46
15	273	265	46	215	4	0	0	4(1.5)	14	0.05	261	4	14	1	27	53
16	246	239	34	202	3	0	0	3(1.3)	10	0.04	237	1	4	5	29	38

イ 歯科健診

(単位：人・%・本)

種別 年度	受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況			フッ素 塗布 者 数	塗銀		その他の要指導				
		O1	O2	A	B	C	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数			処置 歯数	人	本	指しゃ ぶり	歯列 咬合	その 他	
								総 数	一人 あたり								
12	305	163	121	14	7	0	21(6.9)	63	0.2	16	305	11	28	81	70	32	
13	300	90	188	21	1	0	22(7.3)	46	0.2	17	300	16	44	91	46	40	
14	320	66	220	24	9	1	34(10.6)	101	0.3	12	319	29	61	77	36	20	
15	376	120	229	24	3	0	27(7.2)	56	0.1	17	373	6	11	41	82	53	
16	374	143	198	26	3	4	33(8.8)	91	0.2	17	367	11	20	17	68	83	
内 訳	2歳	198	80	110	6	0	2	8(4.0)	26	0.1	4	196	2	2	9	41	47
	2・6歳	176	63	88	20	3	2	25(14.2)	65	0.4	13	171	9	18	8	27	36

ウ 3歳児健診時歯科健診

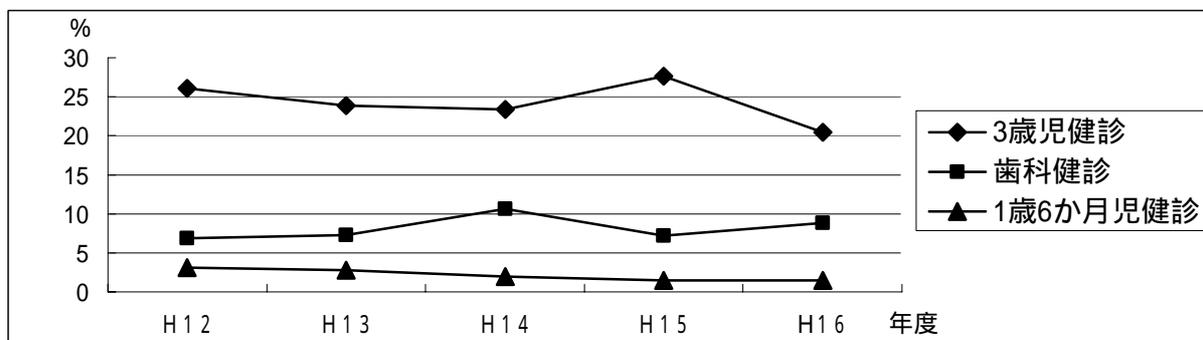
(単位：人・％・本)

種別 年度	対象者	受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況			フッ素 塗布 者数	塗銀		その他の要指導			
			O	A	B	C1	C2	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数 総数	一人あ たり		処置 歯数	人	本	指しゃ ぶり	歯列 咬合	その 他
12	260	245	181	45	10	1	8	64(26.1)	274	1.1	26	237	38	147	20	49	20
13	259	234	178	33	18	1	4	56(23.9)	190	0.8	23	220	25	67	31	60	33
14	268	248	187	36	22	0	3	58(23.4)	245	1.0	29	244	20	53	32	60	34
15	252	250	181	42	20	1	6	69(27.6)	285	1.1	28	237	14	58	20	48	32
16	242	230	183	32	13	1	1	47(20.4)	143	0.6	14	226	6	19	24	53	38

エ 年度別幼児期歯科健診実施状況(1歳6か月児健診・歯科健診・3歳児健診を合計) (単位：人・％・本)

種別 年度	受診 児数	虫歯の型別分類				虫歯罹患状況			フッ素 塗布 者数	塗銀		その他の要指導			
		O (1,2)	A	B	C (1,2)	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数 総数	一人あ たり		処置 歯数	人	本	指しゃ ぶり	歯列 咬合	その 他
12	817	714	77	17	9	93(11.4)	345	0.4	26	798	52	182	106	148	58
13	783	698	61	19	5	81(10.3)	111	0.1	40	765	46	122	124	129	121
14	820	720	65	31	4	100(12.2)	357	0.4	41	811	50	89	115	126	100
15	891	791	70	23	7	100(11.2)	355	0.4	45	871	24	83	62	157	138
16	843	760	61	16	6	83(9.8)	244	0.3	31	830	18	43	46	150	159

オ 健診別虫歯保有率の推移



染め出しを取り入れるなどの取り組みにより、虫歯保有率は低下している。

H16年度においては、3歳児の健診別虫歯保有率が7.2%減少したが、歯科健診時の虫歯保有率が1.6%増加した。2才児では0.6%減少したが、2才6か月児では4.3%増加している。保育環境の個別指導の強化が必要だと考えられる。

$$\text{虫歯保有率} = \frac{\text{虫歯保有者数}}{\text{受診児}}$$

<う蝕罹患型>

- O1：う歯がなく、かつ口の中の状態がよいもの
- O2：今う蝕はないが、将来う蝕になりそうなもの
- A：上顎前歯部のみ、または臼歯部にう蝕のあるもの
- B：上顎前歯部及び臼歯部にう蝕のあるもの
- C：下顎前歯部にう蝕のあるもの
- C1：下顎前歯部のみにう蝕のあるもの
- C2：下顎前歯部を含み、他部位にう蝕のあるもの

4 歯周病予防健診

平成16年度より、歯周病予防を意識した健診・個別相談・教育の機会として名称を歯周病予防健診と改めた。

(1) 目的

成人歯科保健に対する意識を高め、歯周疾患の早期発見と予防に努める。
歯の健康に関して学び、正しいブラッシングの方法を身につける。

(2) 対象

一般住民

(3) 日時

平成16年7月 2日(金)

平成16年9月 3日(金) いずれも午後1時30分～3時

(4) 実施内容

歯牙診査 歯周診査 染め出し・ブラッシング指導 歯周病について

(5) 従事者

歯科医師・歯科衛生士・保健師

(6) 相談者状況

(単位：回・人)

区分 年度	実施 回数	相談者数			年 齢 別					
		総数	男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
12	2	11	4	7	0	1	1	6	2	1
13	2	13	2	11	2	0	1	1	6	3
14	2	4	1	3	0	0	1	1	2	0
15	2	9	1	8	3	1	1	1	3	0
16	2	15	1	14	0	1	5	4	5	0

(7) 診査結果

ア 歯牙・歯周診査結果

(単位：人・本)

相談者数	未処置の う歯のある者	歯周疾患の ある者	処置歯本数	欠損補綴歯本数 (処置歯の再掲)	欠損歯本数
15	6	15	168	1	9

* 欠損補綴歯...失われた歯を人工歯で補ったもの

イ 総合判定 (延数)

(単位：人)

相談者数	所見なし	ブラッシング指導	要除石	要治療
15	1	12	9	5

ウ 残存歯数 (単位：人・本)

	人数	合計本数	平均本数
20歳代			
30歳代	1	28	28.0
40歳代	5	141	28.2
50歳代	4	112	28.0
60歳代	5	136	27.2
70歳以上			
計	15	417	2.8

エ 自覚症状 (アンケートより 複数回答)

項目	回答者数
歯の間に物がつまる	4
歯ぐきから出血する	4
歯がしみる・痛む	6
口臭が気になる	4
歯ぐきが腫れる・痛む	2
虫歯を治していない	
舌が痛む	
口の中に傷がある	
歯がぐらぐらする	1

5 歯の健康センター

- (1) 目的 歯科保健に対する意識の向上と低年齢児のう蝕の予防、ならびに成人のう蝕・歯槽膿漏による歯の喪失の予防に努める。
- (2) 対象 幼児・成人
- (3) 日時 平成16年 6月13日(日) 午前9時～11時30分
平成16年10月31日(日) 午前9時～11時30分
- (4) 従事者 歯科医師 歯科衛生士 歯科助手 保健師
- (5) 内容 歯科健診 フッ素塗布 一般歯科相談 歯科健康教育
- (6) 受診状況 (単位：人)

実施年度	実施回数	受診者総数	受診者内訳	
			幼児	成人
平成12年度	2	826	737	89
平成13年度	2	681	606	75
平成14年度	2	667	581	86
平成15年度	2	642	551	91
平成16年度	2	537	463	74

6 はちまるにいまる きゅうまるいちほち 8020・9018運動 歯の健康コンクール

- (1) 目的 生涯を通じた歯の健康づくりの一環として、80歳以上で20本以上歯のある方・90歳以上で18本以上の歯がある方を表彰し、歯科保健への認識を高める。
- (2) 対象 町内在住の80歳以上の方、90歳以上の方
- (3) 審査方法 ・歯科医院において審査
・歯周病予防健診時
- (4) 表彰日時 平成16年11月5日(金) 高齢者教室終了後
- (5) 表彰者 12名(男性5名 女性7名)

地区	下小口	下小口	下小口	下小口	下小口	中小口	中小口	中小口	大屋敷	外坪	豊田	余野
性別	男	男	男	女	女	男	女	女	男	女	女	女
年齢(歳)	80	80	80	80	80	80	85	80	82	80	81	80
保有歯数(本)	20	24	28	27	25	22	23	23	24	22	20	20

9018の該当者なし。

今年度も老人クラブにも呼びかけることにより、対象者に周知した。

表彰は高齢者教室終了後に行い、表彰者の紹介を広報おおぐちに掲載した。

5 健康推進事業

1 健康まつり

16年度も、プロジェクトチームをつくり、町行政・各種啓発団体から住民に向けて「情報の発信とふれあいあいの場」とすることを目的に「つながろう！地域 おおぐち大交流」をテーマに、ふれあいまつりの中で健康まつりを行った。

健康まつりのテーマは「みんなですすめる健康おおぐち21」とし、印象に残るよう「運動」分野とくに体力測定にテーマを絞り、健康おおぐち21推進の取り組みを周知する機会とした。

(1) 目的

健康の町宣言事業の一つとして、住民が参加することにより、健康で明るい生活ができるよう健康について考え、認識を高める場とする。

(2) 対象

一般住民

(3) 日時

平成16年11月6日(土)

午前10時～午後3時

(4) 場所

大口町保健センター

(5) 実施内容

内 容	参加人数
体力年齢チェックコース(若い人の体力チェック)	266人
HOP・STEP親子コース(親子体力チェック)	149人
元気はつらつでいましょコース (高齢者の生活能力チェック)	65人
ゲームDEトライコース(ゲームで体力チェック)	
空気早入れ選手権	148人
ダッシュ・ダッシュ・ダッシュ	149人
骨密度測定	99人

健康まつり参加者 約500人

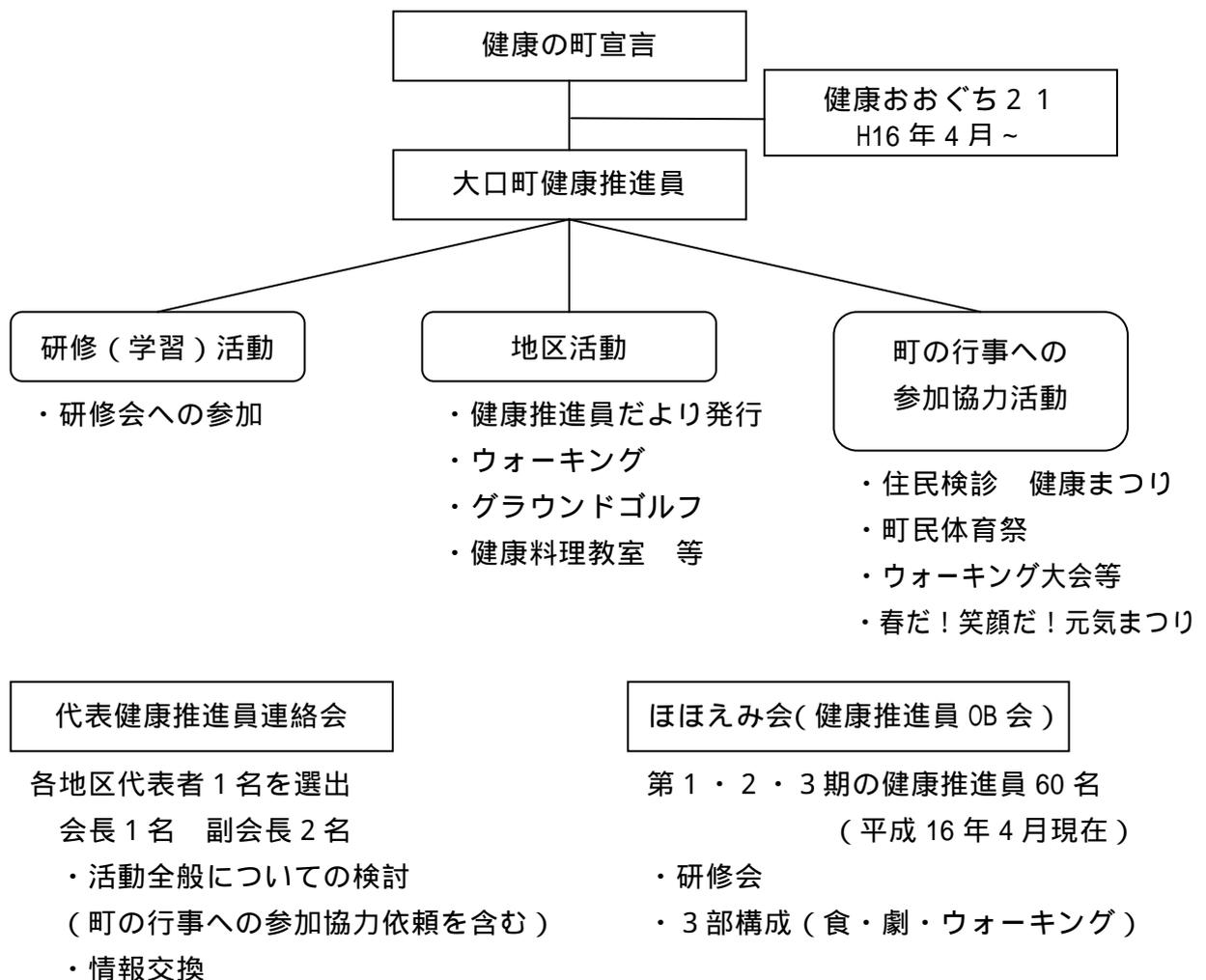
2 健康推進員活動

平成5年12月議会において「大口町健康の町宣言」が議決された。平成7年6月には、健康の町宣言事業の一環として、健康で幸せな生活を送るために、地区住民の健康意識を高め、地区活動を積極的に推進することを目的として、健康推進員制度が設置された。

当初健康推進員数は概ね100世帯に1名とし、55名の推進員が町内各地区から推薦されたが、世帯数の増加等地区の状況も考慮して平成16年度からの第4期健康推進員は61名でスタートした。

今年度は、第4期1年目であり「自分のからだ（健康）を知ろう！」を目標に「健康おおぐち21」の理解と実践を研修会で学習しながら地域活動においても「健康おおぐち21」の周知を中心に今までの地区活動を基盤にして積極的に健康づくりの活動を展開してきた。

また、健康推進員主催のウォーキング大会もOBのほほえみ会と共催で行ったり、健康まつりや「春だ！笑顔だ！元気まつり」時にも積極的に参加し、大口町の健康づくりの中心的役割を担う活動も行っている。



(1) 健康推進員研修会実施状況

(単位 : 人)

実施月日	内 容	講 師	参加人数
4月9日(金)	健康推進員委嘱式 保健センター及び推進員活動について		55
5月21日(金)	「健康おおぐち21」について		44
6月24日(木)	「楽しく体を動かそう！」について	健康運動指導士 長谷川 弘道	46
7月15日(木)	「80歳で20本の歯残せますか？」	江南保健所保健管理官 井後 純子 歯科衛生士 久田 せつ子	34
8月10日(火)	講演 「健康づくりの考え方」	オリエンタル労働衛 生協会理事長 岩塚 徹	25
9月16日(木)	講演 「あなたの食生活 大丈夫？」	管理栄養士 渡辺 美穂	29
10月4日(火)	講演 「混迷の時代に生きる」	継鹿尾山寂光院山主 松平 寛胤	40
12月9日(木)	講演 「お年寄りの理解と援助の原則」	日本福祉大学社会福 祉総合研修センター 鋤柄 智子	37
1月17日(月)	講演 「地域で子育てを考える」 ～子供と性教育・子供をたばこから守る～	さくら病院 小児科医師 中川 恒夫	41
2月28日(月)	近江八幡市健康推進員との研修会 健康はちまん21プランを通して、健康 推進活動について		38

毎回グループワークを実施

8月21日(土)	木曾川町健康づくり推進員との交流会 (代表者のみ参加)		3
----------	--------------------------------	--	---

(2) 代表健康推進員連絡会実施状況

実施月日	主な内容
平成16年 4月9日(金)	16年度代表健康推進員連絡会役員選出 16年度計画について
5月31日(月)	住民検診について 地区活動の情報交換
6月17日(木)	健康おおぐち21について 住民検診について
7月15日(木)	住民検診について 基本健診について ウォーキング大会について

実施月日	主な内容
8月10日(火)	ウォーキング大会について 町民体育祭について
8月19日(木)	ウォーキング大会について 大口町地域安全パトロールについて
9月16日(木)	ウォーキング大会について
10月 4日(月)	ウォーキング大会について
10月13日(月)	ウォーキング大会について 参加者の最終確認、当日の役割分担等
10月21日(木)	ウォーキング大会について 「元気はつらつでいましょう会」について
11月18日(木)	ウォーキング大会の反省について 健康まつりの反省について
12月16日(木)	21 推進イベント「春だ！笑顔だ！元気まつり」 次年度について 「いつまでも元気はつらつでいましょう会」報告
1月20日(木)	21 推進イベント「春だ！笑顔だ！元気まつり」 次年度について
2月17日(木)	「春だ！笑顔だ！元気まつり」について
3月17日(木)	「春だ！笑顔だ！元気まつり」反省及び感想 16年度実績報告について

(3) 地区自主活動の状況

地 区	活 動 状 況
秋 田	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフ練習 毎回 20～25 人 (毎週日曜日に実施・夏冬の4か月は休み) (延約 550 人) ・地区盆踊り大会時綿菓子作り(8月) 約 250 本 ・グラウンドゴルフ大会(9月) 64 人 ・大口町「ウォーキング大会」(10月) 50 人 ・グラウンドゴルフ大会(3月) 54 人
豊 田	<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊りの練習(3回) 延約 50 人 ・地区盆踊り(金魚すくい・輪投げ) 約 100 人 ・糖尿病予防の料理教室 20 人 ・大口町「ウォーキング大会」(10月) 30 人 ・体操教室 48 人 ・桜並木ナイトウォーキング 30 人 ・ナイトウォーキング 毎回約 15 人

大屋敷	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）（毎月1回） ・健康推進員だより発行（年4回） ・ステップアップダンス（毎月2回）（9月～） ・大屋敷グラウンドゴルフ大会（6月） ・ゴキブリ団子作り（6月） ・地区盆踊りの練習（7月から盆まで6回） ・地区盆踊り大会参加時 ポップコーン作り（8月） ・大口町「ウォーキング大会」（10月） ・健康料理教室（糖尿病予防のための）（2月） 	<p>実約 5 人</p> <p>-</p> <p>毎回 5～25 人</p> <p>48 人</p> <p>20 人</p> <p>延約 70 人</p> <p>45 人</p> <p>20 人</p>
外 坪	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）（毎月1回） ・グラウンドゴルフ練習（毎月2回） ・親善グラウンドゴルフ大会 ・盆踊りの練習（4回） ・地区盆踊り大会協賛（8月） ・「体をほぐすイス体操」（9月） ・健康の町「ウォーキング大会」（10月） ・外坪区高齢者の集い（11月） ・グラウンドゴルフ大会（3月） 	<p>毎回約 30～35 人</p> <p>43 人</p> <p>延 300 人</p> <p>37 人</p> <p>41 人</p> <p>50 人</p> <p>50 人</p>
河 北	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）（毎月1回） ・太極拳練習（毎週土曜日） ・料理教室「夏野菜をおいしく食べよう」 ・グラウンドゴルフ大会（河北グラウンド）（9月） ・健康の町「ウォーキング大会」（10月） ・河北区ウォーキング（3月） 	<p>毎回約 6 人</p> <p>10 人</p> <p>60 人</p> <p>11 人</p> <p>17 人</p>
余 野	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）（毎月1回） ・健康体操（月2回） ・グラウンドゴルフ大会（5月） ・地区夏まつり協賛（8月） ・料理教室「めざせ骨美人」（9月） ・大口町「ウォーキング大会」（10月） ・60歳からの健康づくり 「いつまでも元気はつらつでいましょう会」 ・余野ウォーキング大会（3月）（バスにて大正村） 	<p>毎回約 16～22 人</p> <p>60 人</p> <p>約 600 人</p> <p>30 人</p> <p>57 人</p> <p>32 人</p> <p>45 人</p>
上小口	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）（毎月1回） ・パークゴルフ大会 ・盆踊り練習（7月 2回） ・盆踊り大会（8月） ・料理講習会「夏バテ回復」 ・大口町「ウォーキング大会」（10月） ・グラウンドゴルフ大会（10月） ・地区文化祭及びウォーキング大会 ・料理講習会（高脂血症・骨粗しょう症予防） ・ナイトウォーキング（5月～） ・グラウンドゴルフ（週2回） 	<p>29 人</p> <p>70 人</p> <p>22 人</p> <p>54 人</p> <p>48 人</p> <p>100 人</p> <p>27 人</p> <p>毎回約 20 人</p> <p>毎回約 20 人</p>

中小口	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフ 毎週月曜日 毎回約 20 人 ・エアロビクス 火・木曜日 毎回約 15 人 ・ナイトウォーキング 水曜日 毎回約 10 人 ・健康の集い「廃用性萎縮」(5月) 20 人 ・グラウンドゴルフ大会 34 人 (中小口・垣田)(7月) ・地区盆踊り大会協賛(8月) 延 600 人 ・大口町「ウォーキング大会」(10月) 43 人 ・地区ウォーキング大会(寂光院)(11月) 35 人 ・中小口・垣田合同グラウンドゴルフ大会(3月) 25 人 ・地区ウォーキング大会(余野中央公園)(3月) 30 人 ・健康推進員打ち合わせ会(年6回)
下小口	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会(活動内容の検討と反省)(毎月1回) 毎回約 7~10 人 ・ダンベル体操(月4回) 毎回約 40 人 ・グラウンドゴルフ(同好会と)(月8~10回) 25 人 ・ヘルシー料理教室(7月) 23 人 ・盆踊り練習(8月、4日間) 毎回約 20 人 ・地区盆踊り大会協賛(8月) ・郵便局グラウンドゴルフ大会(10月) 58 人 ・大口町「ウォーキング大会」(10月) 111 人 ・下小口グラウンドゴルフ大会(11月) 58 人 ・下小口ウォーキング大会(3月) 105 人 ・ボーリング大会 18 人
垣田	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進員定例会(活動内容の検討と反省) ・ナイトウォーキング(4~11月 週3回) 毎回 6 人 ・グラウンドゴルフ練習(4~6月・9~11月)(週2回) 毎回 10 人 ・グラウンドゴルフ大会(中小口と合同)(7月・9月) 各 15 人 ・大口町「ウォーキング大会」(10月) 23 人 ・垣田グラウンドゴルフ大会(11月) 18 人 ・60歳からの健康づくり「いつまでも元気はつらつでいましょう会」 20 人 ・垣田区春のウォーキング会(3月) 20 人
さつきヶ丘	<ul style="list-style-type: none"> ・ナイトウォーキング(4~12月 毎週木曜日) 平均 13~15 人 ・堀尾公園ウォーキング(5月) 28 人 ・トレーニングセンター見学(7月) 14 人 ・大口町「ウォーキング大会」(10月) 23 人 ・「いつまでも元気はつらつでいましょう会」(12月) 26 人 ・健康料理教室(糖尿病・高脂血症予防)(3月) 17 人 ・明治村 ウォーキング(3月) 33 人

(4) 健康推進員OB会「ほほえみ会」の活動

平成10年5月に発足された第1期健康推進員OB会は49名でスタートし、健康に関する研修会を1～2回とウォーキングを実施し、仲間との友好を深めていた。平成16年4月には、第2期・第3期健康推進員OBも加わり、会員60名となっている。

現役時代につちかった健康に対する目で地区を越えた幅広い視点での健康を考えていけるよう、「食」「ウォーキング」「演劇」の3部構成での活動を展開している。今年度は、ウォーキング大会を現役の健康推進員と共催で行ったり、健康推進員10周年と「健康おおぐち21」推進元年の記念イベント「春だ！笑顔だ！元気まつり」に参画し、癒しのお茶コーナーを提供する等の活動を通して、少しずつではあるが、自分たちの活動を町全体へ発信していけるよう努力を重ねている。

< 活動状況 >

ウォーキング部会

実施月日	内 容	参加人数
毎月第2月曜日	水中ウォーキング(12回実施)	毎回5人
10月23日(土)	大口町ウォーキング大会	40人
11月15日(月)	巖立峡・滝見散策ウォーキング	48人

劇部会

実施月日	内 容	参加人数
9月17日(金)	劇「まつばあちゃんの笑顔」 豊田地区老人クラブにて発表 練習4回	14人出演 観客 48人

全 体

実施月日	内 容	参加人数
平成16年 4月7日(水)	3部会・正副役員会(年間計画について) ほほえみ会の方向性について	3人
4月26日(月)	研修会「大口町の健康づくりについて」 (健康おおぐち21) 16年度の保健活動について	26人

実施月日	内 容	参加人数
7月26日(月)	ビデオ講習会 「デューク更家ウォーキングダイエット」	21人
8月21日(土)	木曽川町の健康づくり推進員との交流会参加	6人出席
2月14日(月)	「春だ！笑顔だ！元気まつり」の準備、 茶道の練習	9人
2月28日(月)	近江八幡市健康推進員との交流会	8人
3月4日(金)	「春だ！笑顔だ！元気まつり」の準備	
3月5日(土)	「春だ！笑顔だ！元気まつり」 癒しのお茶コーナー出店	会員15名出席 160人
3月17日(木)	救急講習会	18人

健康おおぐち21推進イベント実行委員会 5回 代表3人出席

健康おおぐち21推進イベントに向けて、また、総会に向けて、役員が集まって何回か話し合いを重ねた

3 「健康おおぐち21」計画推進

平成15年度に「健康づくりの主役は住民」「健康づくり＝町づくり」と捉え、大口町の健康づくり計画「健康おおぐち21」を住民と町職員が共に考え策定した

計画の推進においても、住民と行政が協働してすすめていけるよう「健康おおぐち21推進作業部会」を「健康クラブ『笑顔21』」として立ち上げ、あらゆる機会を通して「健康おおぐち21」の周知をはじめ、体力測定や、オリジナル体操の作成、シンボルマーク募集やお弁当コンクールなど、保健センターの活動の中に組み入れながら、協働で推進した。そして、3月5日には、記念イベントを大口町の元気な町づくり事業（協働事業）とし、「春だ！笑顔だ！元気まつり」を行った。

(1) 「健康おおぐち21」計画推進の経過

実施年月日	内容
平成16年5月27日	健康おおぐち21検討委員会 ¹ ・「健康おおぐち21」計画推進に向けて
6月2日	健康おおぐち21推進検討会 ¹ ・「健康おおぐち21」周知・推進・推進促進について グループワークで意見を出し合う
6月11日	健康おおぐち21推進検討委員会 ² ・健康おおぐち21推進について（具体的な内容の詰め） （食生活・運動・PR方法）
7月16日	大口町健康づくり推進協議会 ¹ ・「健康おおぐち21」計画と推進について
8月1日	健康おおぐち21推進体系作成
8月26日	健康おおぐち21作業部会 ¹ ・作業部会員の意志統一 ・今後の方向性について
9月16日	健康おおぐち21作業部会 ² ・周知方法について （広報無線の利用・のぼり旗の作成・シンボルマーク募集・健康推進員制度10周年記念と「健康おおぐち21」推進元年を合わせたイベント）
9月24日	健康おおぐち21作業部会 ³ ・広報無線の原稿について ・のぼり旗について
9月30日	「健康おおぐち21計画」推進について町長との話し合い後、検討会 ・広報無線、手作りのぼり旗、シンボルマーク（公募）、オリジナル健康体操の作成、ご近所ウォーキングマップ、野菜の食べ方、イベント、協働事業（NPO）について

実施年月日	内 容
10月5日	作業部会 ⁴ ・町長との話し合いの内容を検討
10月13日	作業部会 ⁵ ・今後の活動体制について ・協働事業にのって今後の活動を展開していく ・イベントについて ・体操発表について
11月1日	大口町健康づくり推進協議会 ² ・「健康おおぐち21」の推進について
11月5日	健康おおぐち21推進連絡会 ² ・現在までの報告 ・具体的な方法について（周知・健康づくり・イベント）
11月16日	作業部会 ⁶ ・作業部会を「健康クラブ笑顔21」の名称とする ・協働事業申請書作成に向けて ・イベントの内容について ・3部会（食生活・運動・こころ）と全体の担当決め
11月19日	健康クラブ「笑顔21」 ・協働事業申請について ・イベント内容の検討
11月24日	健康クラブ「笑顔21」 ・協働事業申請について ・イベントにかかる予算計上 ・内容について（お弁当コンクール・「笑顔の写真展」）
11月30日	健康クラブ「笑顔21」 ・元気なまちづくり事業（協働事業）承認の申請について
12月3日	健康クラブ「笑顔21」 ・協働事業申請の内容検討 ・シンボルマーク・お弁当コンクール・笑顔の写真展の応募規定等
12月6日	健康クラブ「笑顔21」 ・協働事業の申請について
12月9日	協働事業審査 プレゼンテーション
12月10日	健康クラブ「笑顔21」 ・協働事業プレゼンテーションの報告後訂正、検討事項
12月17日	健康おおぐち21推進イベント実行委員会 ¹
12月22日	健康おおぐち21推進イベント実行委員会 ²

実施年月日	内 容
12月24日	健康クラブ「笑顔21」 ・ イベントの細かな詰め（参加費、ダッシュマン、食生活・運動の具体的な内容）
平成17年1月21日	健康クラブ「笑顔21」 ・ シンボルマークの選定 ・ 3部会の進行状況
1月20日	健康おおぐち21推進イベント実行委員会 ³
1月24日	シンボルマーク一次審査 ・ 応募数 337点より35点選考
1月31日	健康クラブ「笑顔21」 ・ 各部会の進捗状況
2月 5日	お弁当コンクール一次審査（書類審査）
2月 7日	お弁当コンクール二次審査（試作審査）
2月18日	シンボルマーク二次審査
2月22日	健康おおぐち21推進イベント実行委員会 ⁴ ・ 「春だ！笑顔だ！元気まつり」今までの報告事項、確定事項 ・ 全体・式典・講演会・シンボルマーク・役割分担配置等
3月 5日	「春だ！笑顔だ！元気まつり」
3月14日	健康おおぐち21推進イベント実行委員会 ⁵ ・ 「春だ！笑顔だ！元気まつり」反省及び感想
3月25日	健康クラブ「笑顔21」 ・ 「春だ！笑顔だ！元気まつり」反省及び感想 ・ 今後について

< 計画推進に向けての会議等実施状況 >

- * 大口町健康づくり推進協議会 計 2回
- * 健康おおぐち21推進検討委員会 計 2回
- * 健康おおぐち21推進検討会 計 2回
- (8月より健康おおぐち21推進連絡会に名称変更)
- * 健康おおぐち21作業部会（健康クラブ笑顔21） 計 16回
- * 健康おおぐち21推進イベント実行委員会 計 5回
- * 運動部会 12/27～3/5 計 23回
- * 食生活部会 " 計 5回
- * こころ部会 " 計 約10回
- * シンボルマーク：応募数 337点
- * 笑顔の写真展：応募数 79点
- * お弁当コンクール：応募数 16点

(2) 平成 1 6 年度「健康おおぐち 2 1」計画推進実施状況(* は住民と協働)

分野	計 画 推 進 内 容
全 体	<ul style="list-style-type: none"> * 「健康おおぐち 2 1」説明周知と概要版の配布(あらゆる機会に手渡し) ・ 広報誌への連載 * 健康おおぐち 2 1 アンケート実施 (結果別紙) * 広報無線での項目別健康ワンポイントアドバイス * 計画推進元年を記念してのイベント 17年3月5日(土)「春だ! 笑顔だ! 元気まつり」実施 * 手作りのぼり旗作成 * 健康おおぐち 2 1「シンボルマーク」一般公募で決定
運 動	<ul style="list-style-type: none"> * 簡易体力チェック実施 住民検診・わかば健診・健康まつり・元気まつり等機会ある毎に、自己チェックの場を設けると同時に、必要な運動を紹介した。 * オリジナル体操作成・周知 住民との協働で健康おおぐち 2 1「元気体操」作成 * 「春だ! 笑顔だ! 元気まつり」の中で、町内の運動グループをステージで紹介
食 生 活	<ul style="list-style-type: none"> * 「春だ! 笑顔だ! 元気まつり」の中で お弁当コンクールと優秀弁当販売 野菜をどれだけ食べているかな? 古代米おにぎりと豚汁販売 カロリー当てクイズ ・ 随時、食生活に関する健康教育実施
こ ころ	<ul style="list-style-type: none"> * 「春だ! 笑顔だ! 元気まつり」の中で 講演会 「生き方のコツ」 ~こころの栄養~ ストレスチェック 笑顔の写真展 等 * 「元気体操」の中に挨拶動作を入れる。
た ば こ ア ル コ ー ル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康推進員研修会に組み入れる。
歯 の 健 康	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康推進員の研修会、老人クラブ健康教育、65歳以上の地区研修会、わかば健診等に歯周病予防を組み入れる。

(3) 評価

1 運動分野の指標・目標値

目 標	評価指標	15年度現状値	目標値	平成16年度 (21アンケート 結果より)
自分の健康維持・増進に必要な運動量を知ろう	体力テストを受け、自分の体力を確認している人の割合の増加	未把握	全体 100%	全体 20%
自分にあった運動習慣を身につけよう	運動不足だと思う人の割合の減少	20～64歳 74.5% 65歳以上 未把握 40～49歳(男)80.7% 30～39歳(女)91.0% 20～29歳(女)91.6%	20～64歳 60%以下 65歳以上 60%以下 60～64歳 50%以下 40～49歳(男) 70%以下 30～39歳(女)80%以下 20～29歳(女)80%以下	20～64歳 77.5% 65歳以上 54.5%
日常生活の中で意識して動こう	屋内も含めた日常生活の中でこまめに動き一日平均一万歩以上(90分以上)歩く人の割合の増加(歩行に困難がない人の場合)	20～64歳 25.6% 65歳以上 未把握 60～64歳 31.5% 40～49歳(男) 20.3% 30～39歳(女) 20.9% 20～29歳(女) 18.4%	20～64歳 30%以上 65歳以上 35%以上 60～64歳 35%以上 40～49歳(男)25%以上 30～39歳(女)25%以上 20～29歳(女)25%以上	20～64歳 9.7% 65歳以上 6.9%
	屋内も含めた日常生活の中でこまめに動き平均3000歩以下(30分以下)しか歩かない人の割合の減少(歩行に困難がない人の場合)	20～64歳 24.0% 65歳以上 未把握 60～64歳 18.4% 40～49歳(男) 31.2% 30～39歳(女) 25.1% 20～29歳(女) 34.1%	20～64歳 20%以下 65歳以上 15%以下 60～64歳 15%以下 40～49歳(男)20%以下 30～39歳(女)20%以下 20～29歳(女)25%以下	20～64歳 47.2% 65歳以上 34.2%

2 食生活分野の指標・目標値

目 標	評価指標	15年度現状値	目標値	平成16年度 (21アンケート 結果より)
毎日野菜 をたくさん 食べよう	漬物以外の 野菜を毎食 (1日3食) 意識して食 べる人の増 加	20～29歳 29.0% 30～39歳 36.8% 40～49歳 46.7% 50～59歳 51.5% 60～64歳 58.4% (全体 48.0%)	→ 全体 55%以上	全体 67.6%
塩分を減 らそう	煮物などの 味付けを 「甘からい ほう」と自 覚する人の 減少	20～64歳 43.4% (男45.5% 女42.0%) 65歳以上 63.6% (男64.1% 女63.1%)	→ 20～64歳 40%以下 65歳以上 55%以下	20～64歳 48.1% 65歳以上 46.2%
腹八分目 で自分の 適量を知 ろう	適正体重を 維持するた めの食事内 容・量を知 っている人 の増加	20～29歳 21.3% 30～39歳 29.5% 40～49歳 34.9% 50～59歳 45.3% 60～64歳 48.4% (全体 39.6%)	→ 全体 50%以上	
	BMI 25 以上の人の 割合の減少 (30～59歳 の男性と 40～64歳 の女性)	30～39歳 18.0% 40～49歳 20.7% 50～59歳 21.6%	→ 男性 20%以下	基本健康診 査受診者 男性 24.2%
		40～49歳 18.0% 50～59歳 20.7% 60～64歳 21.6%	→ 女性 17%以下	基本健康診 査受診者 女性 21.7%
	BMI 18.5未満 の女性の割 合の減少 (20～49歳 の女性)	20～29歳 27.4% 30～39歳 19.9% 40～49歳 12.4%	→ 女性 10%以下	基本健康診 査受診者 8.3% わかば健診 受診者 18.6%

3 こころ分野の指標・目標値

目 標	評価指標	15年度現状値	目標値	平成16年度 (21アンケート結果より)
あいさつ ができる ようにな ろう	誰かとあい さつしてい る人の割合 の増加	未把握	100%	94.7%
家族や地 域の中で 交流をも とう	地域の人と つき合いが ない人の割 合の減少	H13 20～64歳 あまりない人 24.0% ほとんどない人 15.7%	あまりない人 14%以下 ほとんどない人 7%以下	
	最低一日1 回きちんと した食事を 家族等2人 以上でとる 人の割合の 増加	全体：75.7% 20～29歳 64% 30～39歳 59.5%	全体：85%以上 20～29歳 70%以上 30～39歳 65%以上	
自分なり の規則正 しい生活 を身に付 けよう	目が覚めた 時に、疲労 感が残るこ とがある人 (週3回以上) の割合の減 少	31.7%	0%	31.3%
ストレス とうまく つきあ おう	ストレスが 大きくて、 逃げ出した いと思っ ている人の 割合の減 少	よくある 6.5% ときどきある 31.1%	よくある 3.2%以下 ときどきある 15%以下	
生きがい や楽しみ をもとう	趣味をもっ ている人の 割合の増加	20～64歳 61.0% 65歳以上 78.6%	20～64歳 80%以上 65歳以上 90%以上	

4 たばこ・アルコール分野の指標・目標値

目 標	評価指標	15年度現状値	目標値	平成16年度 (21アンケート結果より)
喫煙は決められた 場所で	禁煙・完全 分煙を実施 している施 設やイベン トの増加	未把握	100%	
たばこの 害を知ろ う	喫煙による 健康被害を 知っている 人の増加	肺がん 94.5% ぜんそく 53.0% 気管支炎 61.1% 心臓病 28.0% 脳卒中 17.6% 胃潰瘍 16.5% 妊娠に関する異常 72.7% 歯周病 14.5%	100%	
喫煙者を 減らそう	喫煙者を減 らす	たばこを吸っている人 男 51.2% 女 10.5%	たばこを吸っている人 男 10%以下 女 2%以下	男 27.8% 女 3.9%
	妊婦の喫煙 率を減らす	H14 3.5% (母子健康手帳発行時 9/257人)	母子健康手帳発行時 0人	3.4%
楽しく健 康的に飲 めるお酒 の適量を知ろう	節度ある飲 酒量を知っ ている人の 割合の増加	64.1%	100%	63.3%

5 歯分野の指標・目標値

目 標	評価指標	15年度現状値	目標値	平成16年度 (21アンケート結果より)
いつまで も自分の 歯で食べ よう	自分の歯が 60歳で24 本以上ある 人の増加	H14・15調査 60歳～64歳 39.6%	60歳～64歳 50%以上	46.9%
	8020運動 を知ってい る人の増加	H13調査 20歳～64歳 49.7%	100%	63.2%
	自分の歯が 80歳で20 本以上ある 人の増加	未把握	30%以上	
いつまで も明るく、 歯を出し て笑おう	歯の健康得 点が16点 以上の人の 割合の増加	未把握	56%以上	39.2%

(4) 健康おおぐち21アンケート実施結果

ア 目的

大口町の健康づくり計画「健康おおぐち21」を広く町民の方に周知するとともに、健康に対する町民の意識の高揚を図る。また、計画を評価していくために活かしていく。

イ 対象

住民検診、胃がん・子宮がん・乳がん検診、わかば健診受診者
ウォーキング大会参加者

ウ 調査方法

検診時及びウォーキング大会時にアンケート用紙を適宜配布。
わかば健診のみ問診票と一緒にアンケート用紙を郵送にて通知。

エ 調査期間

平成16年6月29日(火)～10月23日(土)

オ 調査実施状況

	受診者及び参加者(人)	調査実施数(人)	調査実施率(%)
住民検診・がん検診	1,156	745	64.4%
わかば健診	134	124	92.5%
ウォーキング大会	485	202	41.5%
計	1,775	1,071	60.3%

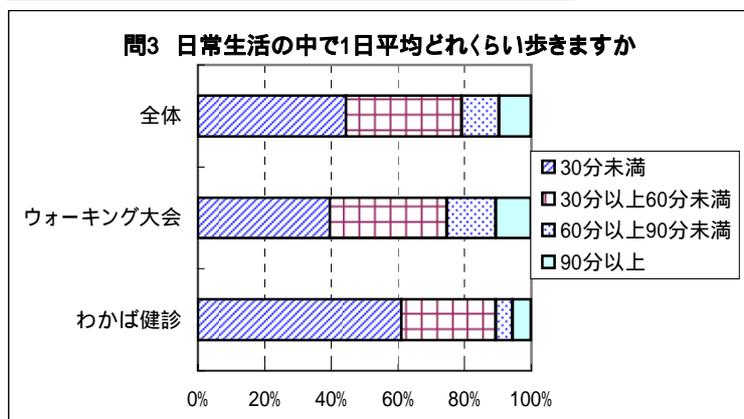
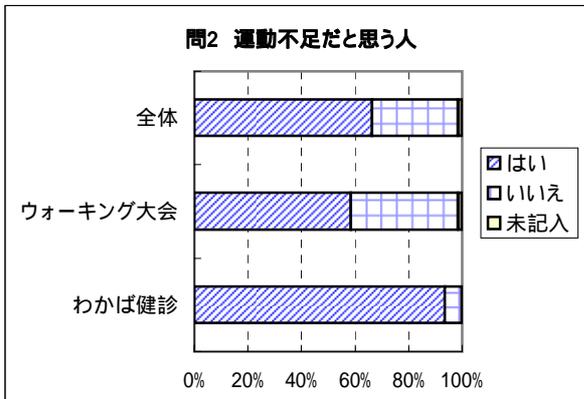
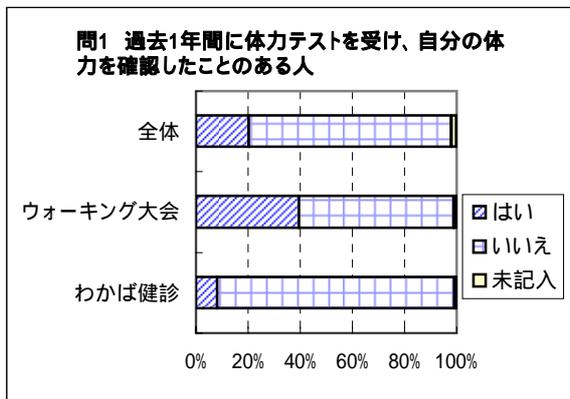
カ 年齢別回答者数 (単位：人)

年齢	男性	女性	性別不明	計
29歳以下	1	33		34
30 - 39歳	9	180		189
40 - 49歳	4	61		65
50 - 59歳	9	84		93
60 - 69歳	77	214		291
70 - 79歳	55	59		114
80歳以上	7	10		17
年齢不明	0	20	248	268
計	162	661	248	1071

わかば健診受診者は20～39歳、ウォーキング大会参加者のアンケート実施者は40歳以上であった。

キ 結果

《運動》



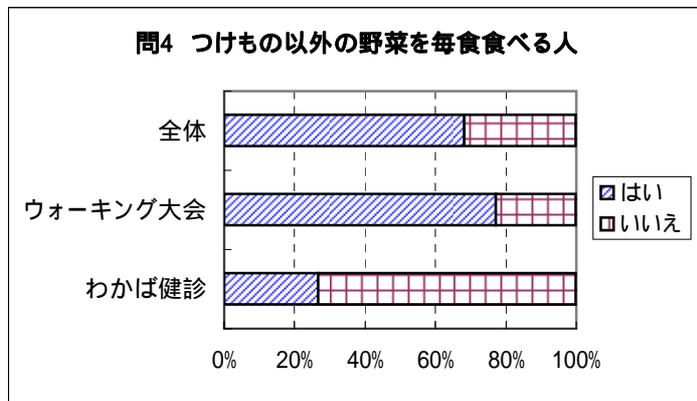
<考察> 運動

・全体に比べ、ウォーキング大会参加者の方が、問1では「はい」の人の割合が高くなっており、問2では「いいえ」の割合が高くなっている。若い年代よりも、40歳以上の方が運動に対する意識が高い傾向がある。

・また、ウォーキング大会参加者は、運動に対する意識が高いことも考えられる。

問1 . 2 . 3

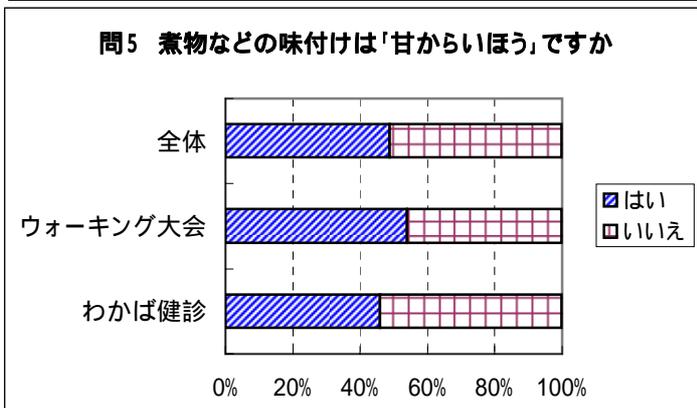
《食生活》



<考察> 食生活

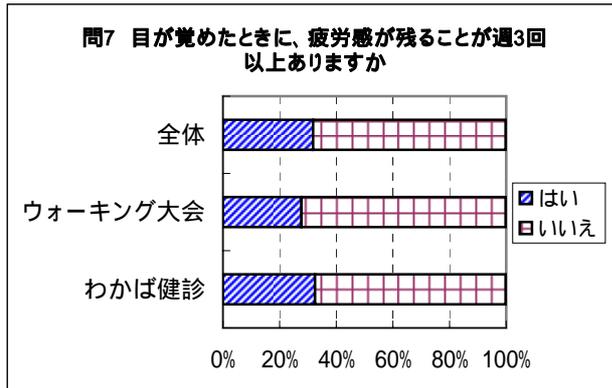
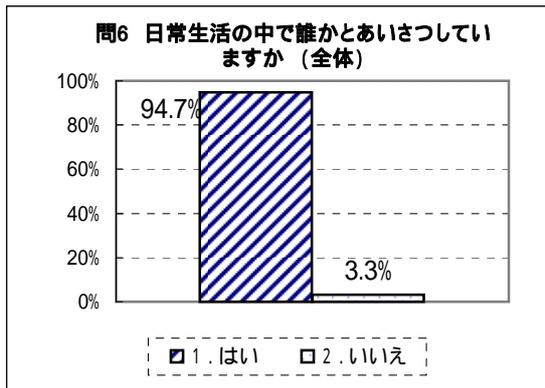
・全体及びウォーキング大会参加者に比べて、わかば健診受診者の方が毎食野菜を食べている人が少ない。

問4



・ウォーキング大会参加者は他に比べて味付けが「甘からいほう」の人の割合が高い。 問5

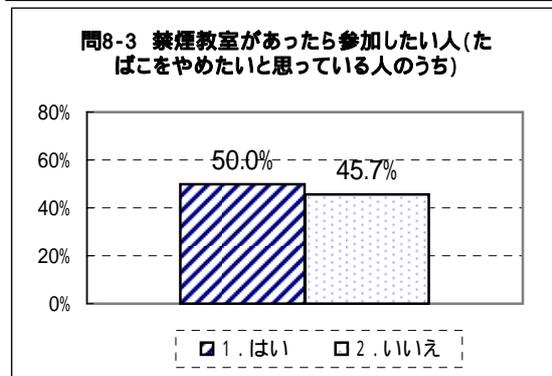
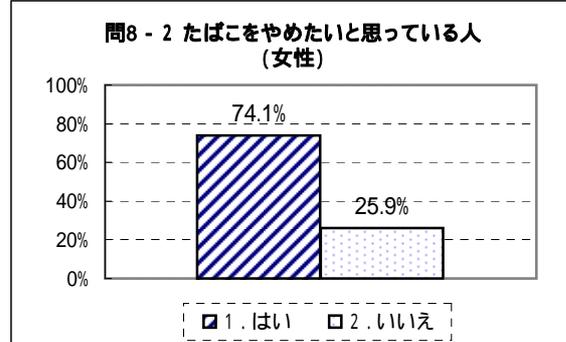
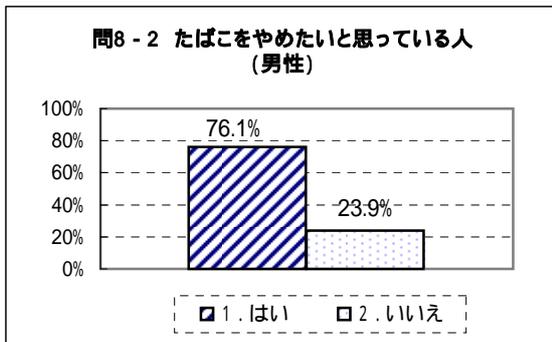
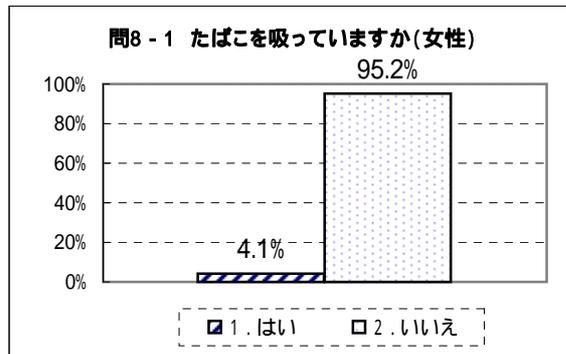
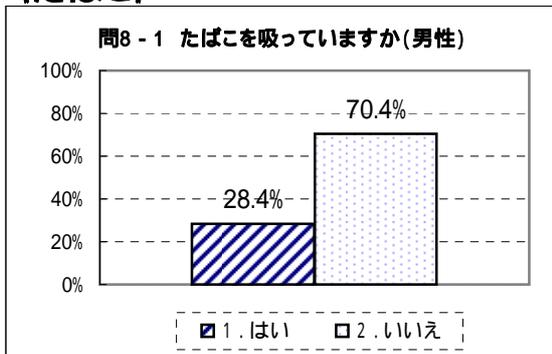
〈こころ〉



<考察>こころ

・年代ごとの差はあまりみられなかったが、問7において若干、ウォーキング大会参加者の方がわかば健診受診者に比べて「はい」の人の割合が低くなっている。

〈たばこ〉



<考察>たばこ

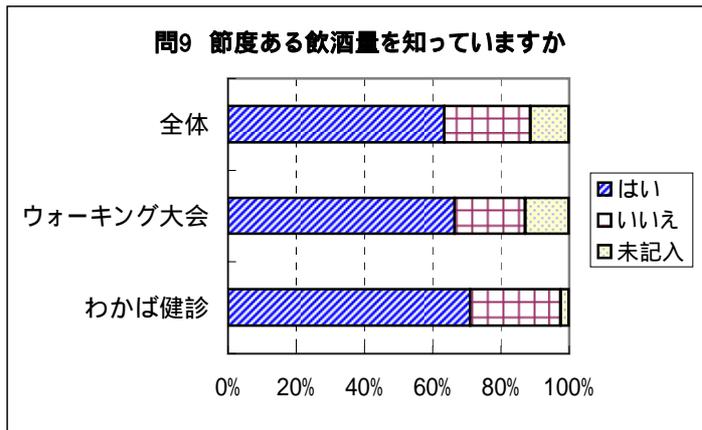
・男女で差が大きいため男女別にグラフとし、母数が少数であるため年代は全体でグラフ化した。

・H13年度実態調査時の喫煙率男性51.2%・女性10.5%に比べて、男性28.4%・女性4.1%と低くなっている。

問8-1

今回のアンケート対象者は検診受診者・ウォーキング大会参加者など健康に対する意識が高い方が多いことも考えられる。

〈アルコール〉

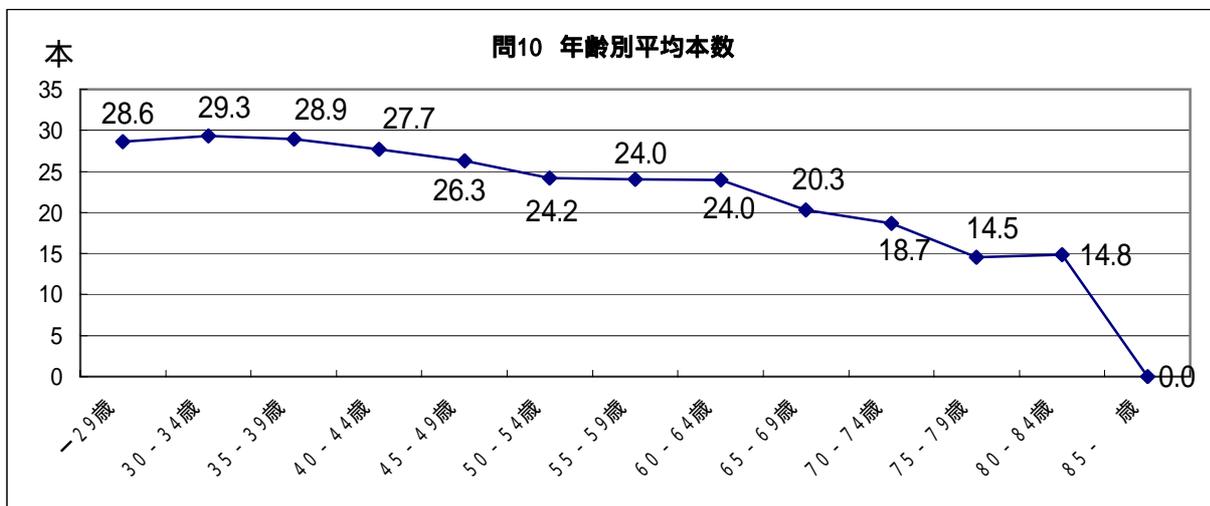


＜考察＞アルコール

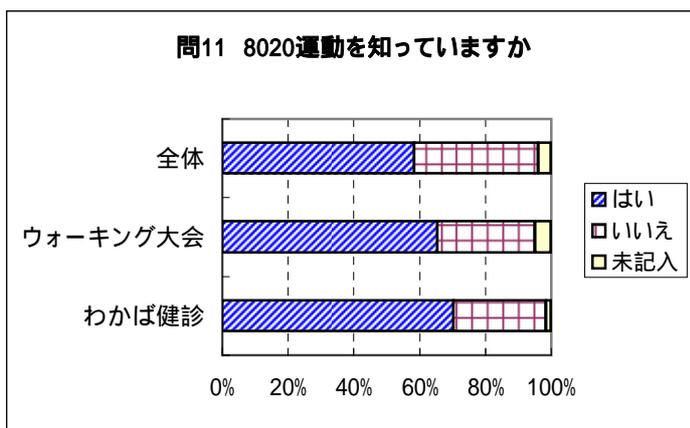
・H13年度実態調査時の節度ある飲酒量を知っている人64.1%に比べてウォーキング大会参加者は66.3%、わかば健診受診者は71.0%と知っている割合が高かった。

・また、40歳以上の方よりもわかば健診受診者（20代・30代）の方が知っている割合が高い傾向にあった。

〈歯〉



85歳以上の回答者は1人であったため、平均本数0本と少なくなっている



＜考察＞歯

・わかば健診受診者（20代・30代）の8020運動を知っている割合が70.2%と高くなっており、若い世代の方が知っている傾向にあった。

問11

・H13年度実態調査時の20～64歳では49.7%であり、全体的に今回の対象の方が知っている割合が高くなっている。問11

(5) 健康おおぐち21推進記念イベント

ア 目的

健康おおぐち21推進元年として、より多くの人への計画の周知と健康推進員10周年を記念して、「大口町元気な町づくり事業」として実施。

イ 日時

平成17年3月5日(土) 午前10時~午後3時

ウ 場所

健康文化センター 1階・4階

エ スタッフ

実行委員 18人
 健康推進員 49人(内4人は、実行委員)
 ほほえみ会 15人
 若歩会 10人
 ひだまりの会 12人(大屋敷 4人 中小口 8人)

オ 内容及び参加者数

全体の参加者 約600人

	内 容	参加者数
全 体	記念式典	250人
	スペシャル記念講演会 「生き方のコツ」~こころの栄養~ 日本医科大学助教授 医学博士 高柳和江 先生	250人
運 動	体力測定	185人
	みんなで一緒に楽しもう!(ステージ)(6団体参加)	
食生活	優秀賞弁当の販売	195食
	古代米おにぎりと豚汁販売	170食
	おにぎりのみ	130個
	豚汁のみ	82食
こころ	カロリー当てクイズ	225人
	野菜をどれだけ食べてるかな?	75人
	薬草茶・ハーブティー 抹茶 大声コンテスト ジャンボだるま落とし	500杯 143人 72人
	ひだまりの会コーナー プラバン(21シンボルマーク・モリゾーとキッコロ) モリゾーとキッコロのマスコット	61個 39個
	こころのチェックコーナー	50人
	ダッシュマンショー (2回公演)	約150人
販 売	五平餅	244本

春だ！笑顔だ！元気まつり

～ つなげよう 健康の輪 ～

日時 平成17年3月5日(土) 午前10時～午後3時

場所 大口町健康文化センター(1階・4階)

1 階	10:00～ 健康おおぐち21 シンボルマーク表彰	10:30～ 健康おおぐち21 オリジナル体操発表	10:40～ 元気になるスペシャル記念講演会 「生き方のコツ」～こころの栄養～ 日本医科大学 助教授 医学博士 高柳 和江先生
	運動コーナー 10:30～15:00 体力測定 ～自分の体力を知ろう みんなで一緒に楽しもう		食生活コーナー 10:30～15:00 みてみて『私のお弁当』コンテスト作品紹介と優秀弁当の販売 体にいい古代米(黒米・赤米)おにぎりの販売(豚汁付) カロリー当てクイズ 野菜をどれだけ食べてるかな?コーナー
	こころコーナー 10:30～15:00 癒しのお茶コーナー ストレス発散 (・大声コンテスト ・ジャンボだるま落とし) こころのチェックコーナー (・性格チェック・ストレスチェック・こころの相談 等)		
4 階	アトラクション 11:00～ 13:30～ ダッシュマンと体操しよう! ダッシュマンに挑戦 ～ジャンボだるま落とし～		
・野菜の販売(朝市会)・EM石鹸 ・ひだまりの会コーナー (プラバン & モリゾー・キッコロを作ろう!) ・ハートフル大口 ・喫茶ほほえみ ・五平餅			



主催 春だ！笑顔だ！元気まつり実行委員会

大口町元気なまちづくり事業

(6) 健康おおぐち 2 1 推進連絡会設置要綱

(目的)

第 1 条 この要綱は、健康おおぐち 2 1 計画を推進することを目的に設置する健康おおぐち 2 1 推進連絡会 (以下「連絡会」という。) に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(組織)

第 2 条 連絡会の委員は、別表に掲げる団体の会員及び行政機関の職員をもって組織する。

(会長及び副会長)

第 3 条 連絡会に会長及び副会長を置き、その選出は委員の互選とする。

2 会長は、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 4 条 連絡会の会議は、会長が招集し、その議長となる。

2 連絡会は、必要があると認めるときは会議に会員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(作業部会の設置)

第 5 条 連絡会に健康おおぐち 2 1 作業部会 (以下「作業部会」という。) を置くことができる。

2 作業部会は、連絡会委員及び一般公募等による部会員で構成する。

(作業部会の事務)

第 6 条 作業部会は、健康おおぐち 2 1 の行動目標を達成するため、具体的な取り組みの企画立案を行ない、関係機関と連携しながら町民の健康づくりを推進する。

(庶務)

第 7 条 連絡会の庶務は、健康福祉部健康課において処理する。

(その他必要事項)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、連絡会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

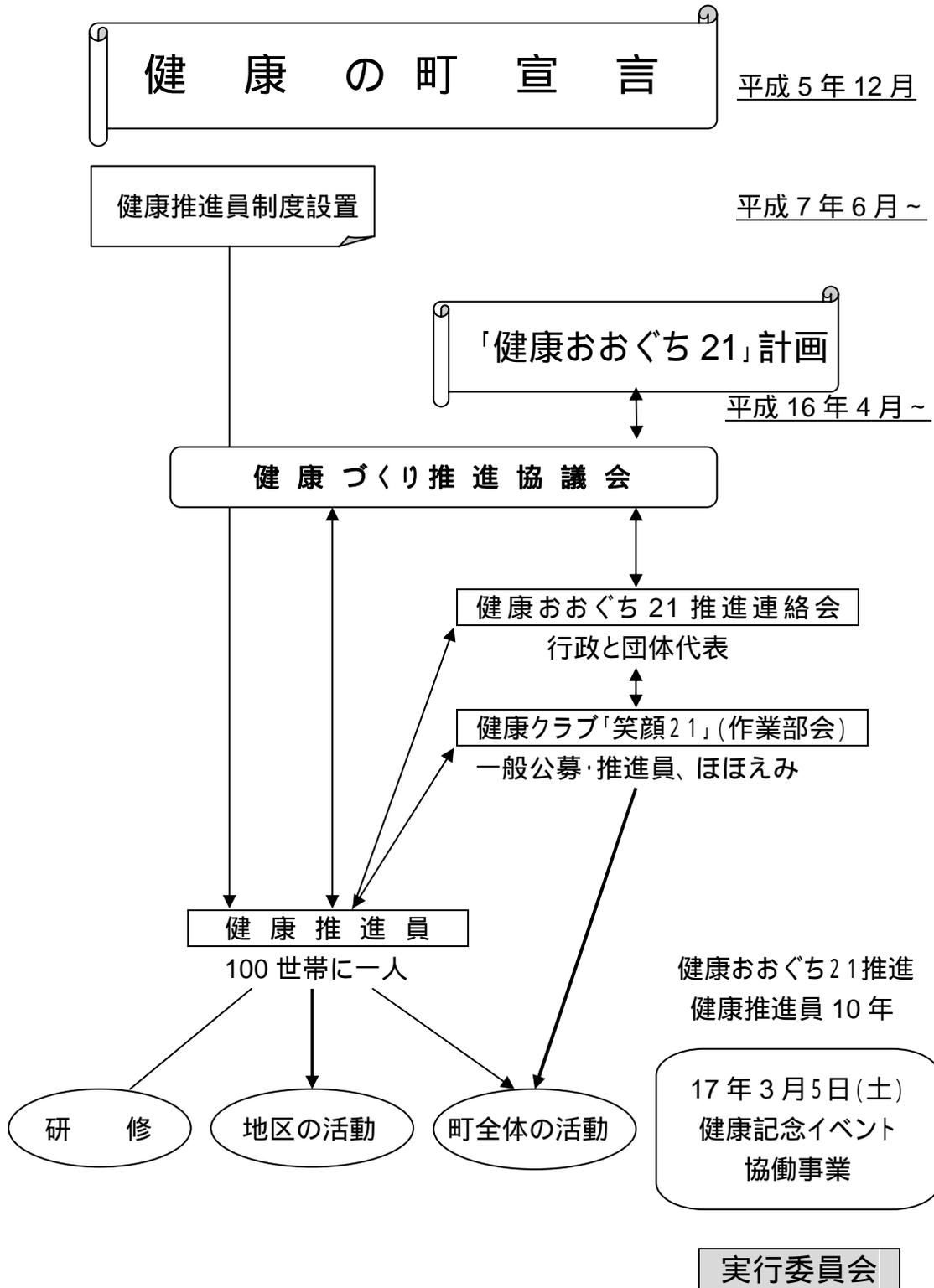
この要綱は、平成 1 6 年 8 月 1 日から施行する。

別表（第2条関係）

健康おおぐち21推進連絡会名簿

所	属	等
大口のゴミ減量を考える会		
大口町朝市会		
大口町老人クラブ連合会		
大口さくらメイト		
大口町民生児童委員連絡協議会		
大口町文化協会		
大口町体育協会		
大口町体育指導員会		
大口町健康推進員会		
食品衛生協会（江南支部）		
大口町健康推進員OB ほほえみ会		
元気アップ教室OB会		
政策調整室政策調整課		
総務部行政課		
総務部企画財政課		
総務部情報課		
総務部税務課		
総務部生活課		
健康福祉部福祉課		
健康福祉部こども課		
健康福祉部保険年金課		
健康福祉部地域振興課		
環境建設部環境経済課		
環境建設部建設課		
環境建設部都市開発課		
環境建設部下水道課		
教育委員会学校教育課		
教育委員会生涯学習課		

「健康推進員活動と健康おおぐち21」



6 感染症予防事業

1 予防接種

最近の伝染病の発生状況や医学の進歩、公衆衛生の向上等を背景に、また直接的には平成4年の予防接種禍訴訟での国の敗訴をきっかけに、予防接種による被害を最小限にするとともに、予防接種のあり方や方法について平成6年10月1日から予防接種法が大幅に改正され、本町ではより安全で有効な予防接種を実施していくために、ツベルクリン、BCG、ポリオ以外の接種項目については平成7年度から個別接種に切り替えた。

また平成9年度より、個別接種への切り替えによる接種率の低下防止や、事務の精度向上及び合理化のため、コンピューターによるオンラインシステムを導入した。

平成13年11月7日に予防接種法が一部改正され、従来定期接種とされていたものは一類疾病となり、新たに65歳以上等のインフルエンザ予防接種が本人の責任において接種することで二類疾病として追加された。

(1) 個別接種実施体制

就学前の乳幼児に対しては出生届時に保険年金課において、転入者については保健センターで予防接種予診票綴と「予防接種と子どもの健康」を交付し、就学児の接種対象者については、その都度予防接種予診票を学校を通じて配付し、予防接種を受けるよう周知している。

また、就学前の乳幼児に対しては、当該年度の予防接種実施計画を全員に郵送し、予防接種を受けるよう周知している。

インフルエンザ予防接種は、対象者に個別通知で申込書を送付し予防接種を受けるよう周知している。申込み方法は、窓口で送られた申込用紙と一部負担金(1,000円)を支払い、引き換えに予防接種予診票を受け取り委託医療機関で接種を受ける。

なお、乳幼児対象の予防接種は、16年度から5月から3月までの11か月間実施することとした。

予防接種会場

予防接種の種類	接種方法	接種会場
三種混合(百日せき・ジフテリア・破傷風)	個別接種	大口町・扶桑町の 委託医療機関(予約制)
二種混合(ジフテリア・破傷風)		
麻しん		
風しん		
日本脳炎		
インフルエンザ	集団接種	保健センター
ポリオ(急性灰白髄炎)		
ツベルクリン・BCG		

	対象年齢	標準的な接種年齢	回数	間隔
日本脳炎	1 期初回 生後 6 月 ~ 9 0 月未満	3 歳	2 回	1 ~ 4 週
	1 期追加 生後 6 月 ~ 9 0 月未満	4 歳	1 回	1 期初回接種終了後概ね 1 年おく
	2 期 9 ~ 1 2 歳	小学校 4 年 (9 歳)	1 回	
	3 期 1 4 ・ 1 5 歳	中学校 2 年 (1 4 歳)	1 回	
急性灰白髄炎 (ポリオ)	生後 3 ~ 9 0 月未満	生後 3 ~ 1 8 月	2 回	6 週以上
インフルエンザ	6 5 歳以上等の方		1 回	

(3) 実施状況

ア 三種混合

第 1 期初回

(単位 : 人 ・ %)

	対象者(A)	被接種者			完了者接種率
		1 回目	2 回目	3 回目(B)	(B / A)
1 5 年度	3 5 2	2 6 5	2 7 1	2 7 2	7 7 . 3
1 6 年度	3 1 9	2 7 6	2 6 8	2 7 1	8 5 . 0

第 1 期追加

(単位 : 人 ・ %)

	対象者	被接種者	完了者接種率
1 5 年度	2 7 9	2 3 9	8 5 . 7
1 6 年度	2 8 0	2 7 4	9 7 . 9

イ 二種混合

第 2 期

(単位 : 人 ・ %)

	対象者	被接種者	完了者接種率
1 5 年度	2 0 0	1 7 3	8 6 . 5
1 6 年度	2 3 8	2 0 2	8 4 . 9

百日せき

普通の風邪のような症状で始まる。続いてせきがひどくなり、顔をまっ赤にして連続性にせき込むようになる。熱は出ないがせきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出る。

ジフテリア

感染は主に咽頭であるが、鼻にも感染する。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜を形成して窒息死することがある恐ろしい病気で

ある。

破 傷 風

菌は土の中にひそんでいて傷口から人へ感染する。傷口から菌が入り体の中で増えると、菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんをおこしたり、死亡することもある。

ウ ポリオ

(単位：人・%)

	対象者(A)		被接種者		完了者接種率 《B / A》
			1回目	2回目(B)	
15年度	298		253	262	87.9
16年度	1回目	296	240		81.1
	2回目	186		149	80.1

16年度から、1回目と2回目の間に麻しんを接種することとしたため、2回目の対象者が減少した。

ポリオ(小児マヒ)

ウイルスが口から入り咽頭又は腸はに感染し、便中に排泄される。感染したウイルスは3～35日(平均7～14日)の間に腸の中で増えるが、ほとんどの例は不顕性感染で終生免疫を獲得する。ウイルスが血液を介して脳・脊髄へ感染し、麻痺をおこすことがある。

エ 麻しん

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
15年度	321	282	87.9
16年度	311	280	90.0

麻 し ん

麻しんウイルスの飛沫感染によっておこる病気である。伝染力が強く、一生のうちに一度は必ずかかる重い病気で、発熱、せき、鼻汁、目やに、発疹を主症状とする。

オ 風しん

< 定期 >

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
15年度	362	298	82.3
16年度	327	290	88.7

風 し ん

風しんウイルスの飛沫感染によっておこる病気である。潜伏期間は2～3週間で、軽いかぜ症状で始まり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状

である。そのほか眼球結膜の充血も見られる。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれている。

カ 日本脳炎

第1期初回

(単位：人・%)

	対象者(A)	被接種者		完了者接種率(B/A)
		1回目	2回目(B)	
15年度	335	258	246	73.4
16年度	511	360	355	69.5

16年度から3月を除く前月実施をしたため、対象者が増加した。

第1期追加

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
15年度	296	251	84.8
16年度	309	249	80.6

第2期(小学4年生)

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
15年度	235	221	94.0
16年度	248	224	90.3

第3期(中学3年生)

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
15年度	198	148	74.7
16年度	196	155	79.1

日本脳炎

日本脳炎ウイルスの感染でおこり、人からの直接感染ではなく、豚の中で増えたウイルスが蚊によって媒介される。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になる。

キ インフルエンザ(65歳以上の高齢者等)

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
15年度	3,139	1,950	62.1
16年度	3,289	2,169	65.9

インフルエンザ

インフルエンザウイルスに感染することによって起こる。高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、のどの痛み、咳、鼻水など普通の風邪より症状が強い。

2 結核予防

(1) 結核予防接種

ア 乳幼児

(単位：人)

	対象者	ツベルクリン反応検査者				BCG 接種者
		被接種者	被判定者	陰性者	陽性者	
15年度	363	298	294	293	1	292
16年度	255	250	248	244	4	242

陽性者再ツ反

ツベルクリン反応・BCG

ツベルクリン反応検査をまず行い、48時間後に判定して陰性の人（長径9mm以下）にBCGの接種を行う。

BCG接種方法は管針法といい、スタンプ方式で上腕の2か所に押しつけて接種する。接種後は十分に乾燥させ、1時間以上経過すれば、菌の生着に問題はない。

(2) 住民検診

ア 目的

全地区において、検診、健康相談を行い、結核やその他の疾病の予防、早期発見、健康保持に関する知識の普及、健康増進の啓発を行う。

イ 対象

15歳以上で、会社、学校等に勤務していない方

ウ 日時

6月29・30日、7月1・2日(4日間)

エ 内容

胸部レントゲン検査(結核・肺がん検査) がん検診申込受付
(希望者のみ、健康相談・血圧測定)・体力測定

オ 従事者

保健師 管理栄養士 看護師 事務員 委託機関(医師を含む)

カ 実施状況

(ア) 年度別年齢別受診者状況

(単位:人)

年度 \ 年齢	受診者数	15~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70以上
12	727	29	83	46	149	266	154
13	620	22	73	41	97	240	147
14	721	18	78	52	110	278	185
15	711	12	81	45	109	278	186
16	635	14	87	43	78	265	148

(イ) 胸部レントゲン検査 (単位:人)

	X線間接撮影
14年度	697
15年度	682
16年度	635

今年度から、簡易体力チェック(片足立ち・イスからの立ち上がり・握力)を行なった。

(ウ) 胸部レントゲン検査結果(異常所見ありの内訳)

結果	人数
要観察者	35名
要精検者	13名 (結核の疑い(不活動性) 0名 その他 9名 肺がんの疑い 4名 異常なし)
計	48名

要観察者とは異常所見を認めるが精査を必要としない者
その他(活動性非結核性病変、循環器疾患等)

7 救急医療

1 救急医療の取り組み

地域住民が事故や急病など緊急の場合に、適切な医療がより早く受けられるような救急医療体制については、だれもが安心して日常生活を送るための基盤として、社会的要請が強い。

大口町においては、在宅当番医制による第一次救急医療体制、病院群輪番制による第二次救急医療体制により救急医療を実施している。

2 第一次救急医療

休日における救急患者の初期医療に対応するため、扶桑町・大口町の医療機関において在宅当番医制により実施している。

(1) 実施医療機関

扶桑町 14 医療機関
大口町 7 医療機関

(2) 実施日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
日数	5 (3)	8 (3)	4 (1)	5 (2)	5 (3)	6 (2)	6 (2)	6 (2)	8 (5)	8 (3)	5 (2)	5 (2)	71 (30)

()内は、大口町の医療機関分

診療時間 9:00～12:00
14:00～17:00

3 第二次救急医療

第一次救急医療機関の後方病院として、入院又は緊急手術等を要する救急患者に対する医療を確保するため、尾張北部二次救急医療圏（犬山市、江南市、岩倉市、扶桑町、大口町）において病院群輪番制による第二次救急医療体制により救急医療を実施している。

(1) 実施医療機関

5 医療機関

(2) 実施日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
休日	5	8	4	5	5	6	6	6	8	8	5	5	71
夜間	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365

8 訪問看護ステーション

1 訪問看護の取り組み

「在宅において、利用者・家族を常に尊重し、理解する心を持ち、健康の維持増進を図り、より安楽にその人らしい生き方ができるように支援する。」という理念のもと、平成 11 年 4 月に大口町訪問看護ステーションを開設して以来 6 年間で、69 名の方に対して延べ 7,057 件訪問した。尚、当訪問看護ステーションは平成 17 年 3 月 31 日をもって廃止となる。

(1) 看護目標

- ・主治医をはじめ関係機関との連携を密にし、可能な限り社会資源の有効活用を図り、利用者が安心して生活できる環境を整える
- ・利用者・家族に認められる看護サービスを提供するため、常に知識・技術の習得に努め、豊かな人間性が身につけられるよう努力する
- ・いつも明るく、前向きに誠意を持って接する

(2) 従事者

保健師 2 人【管理者(兼務)1、再任用 1】

看護師 3 人【正職員 1、非常勤 2】

(3) 対象

- ・介護認定で要支援、要介護 1～5 の方
- ・寝たきり、またはそうなる恐れのある方
- ・重度の障害がある方
- ・難病の方
- ・リハビリテーションが必要な方
- ・痴呆のある方

以上でかかりつけの医師が必要と認めた方

(4) 利用方法

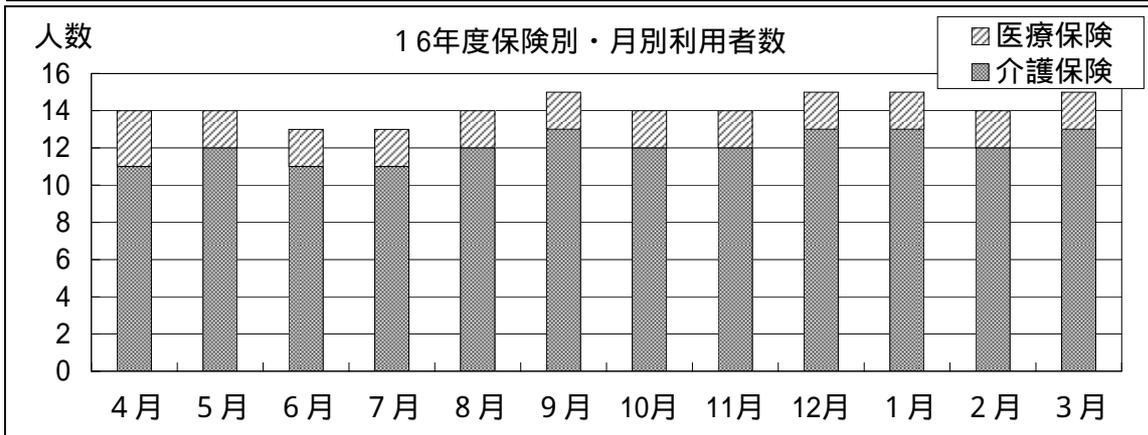
- ・主治医、ケアマネージャーまたは直接訪問看護ステーションに申し込む
- ・その他福祉課、在宅介護支援センター、病院のケースワーカーにも相談できる

2 訪問看護実施状況

(1) 保険別・月別利用者実数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	11	12	11	11	12	13	12	12	13	13	12	13	145
医療保険	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	25
計	14	14	13	13	14	15	14	14	15	15	14	15	170
再掲(新)	2	1			1	1			1	1		1	8
再掲(入院)	2					2					2		6
再掲(退院)		2			1	1	1				2		7
再掲(死亡)	1					1			1	1			4
再掲(軽快)		1		1									2

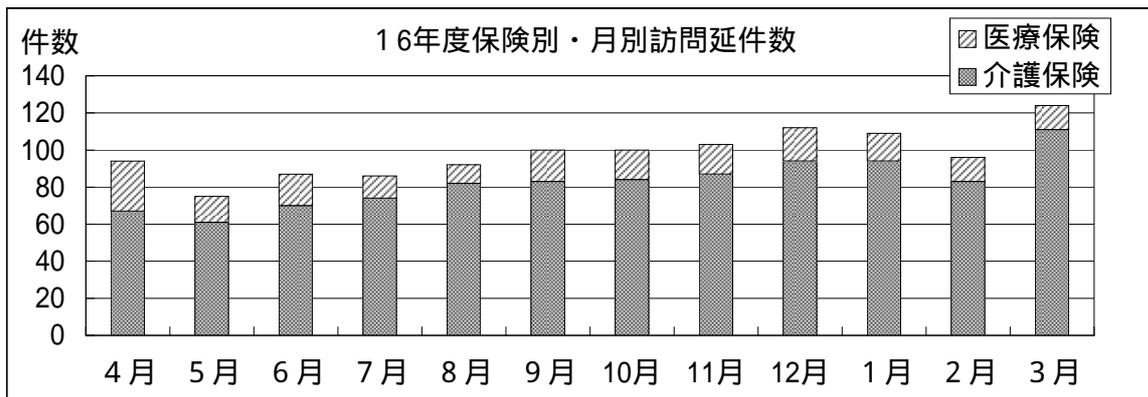


利用者の入れ替わりはあったが、月平均14名前後で安定していた。

(2) 保険別・月別訪問延件数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	67	61	70	74	82	83	84	87	94	94	83	111	990
医療保険	27	14	17	12	10	17	16	16	18	15	13	13	188
計	94	75	87	86	92	100	100	103	112	109	96	124	1,178



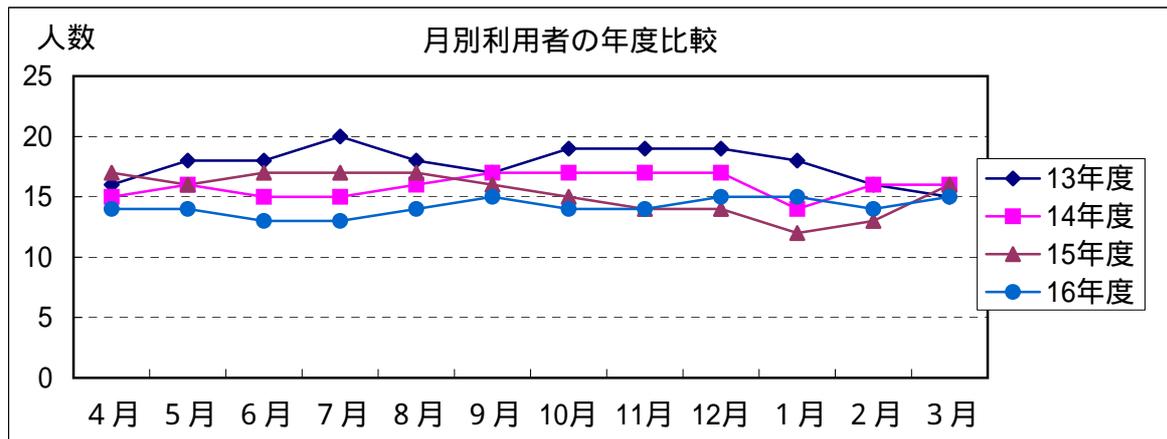
5月に減少がみられたが、その後は増加している。
 減少理由としては、うつ症状による訪問キャンセルが多くあった。
 一方、増加理由としては、継続リハビリの重要性を伝えたことで訪問回数が増えたためと考えられる。

3 経年的実施状況

(1) 月別利用者の年度比較

(単位：人)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
13年度	16	18	18	20	18	17	19	19	19	18	16	15	213
14年度	15	16	15	15	16	17	17	17	17	14	16	16	191
15年度	17	16	17	17	17	16	15	14	14	12	13	16	184
16年度	14	14	13	13	14	15	14	14	15	15	14	15	170

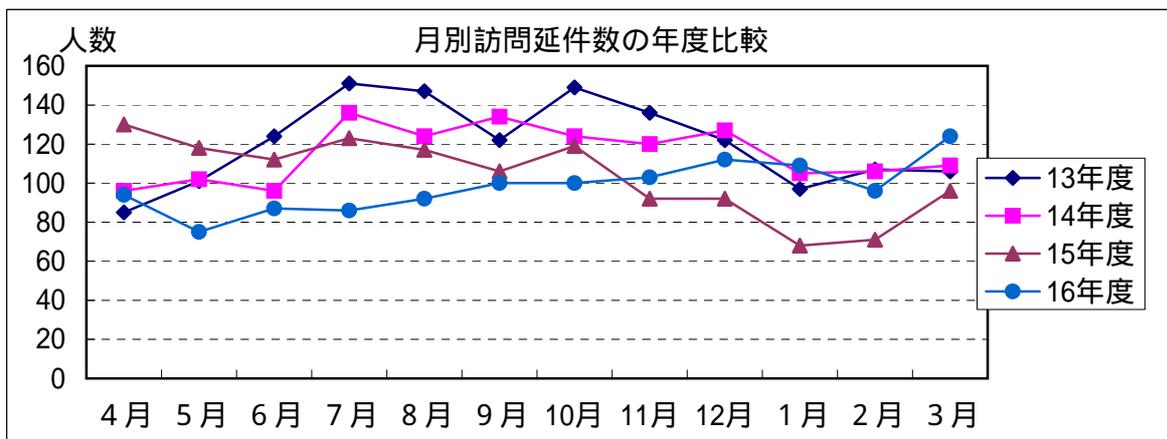


利用者は前年度のような落ち込みはなく、年間を通じ大きな変化はみられていない。

(2) 月別訪問延件数の年度比較

(単位：件)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
13年度	85	101	124	151	147	122	149	136	122	97	107	106	1,447
14年度	96	102	96	136	124	134	124	120	127	105	106	109	1,379
15年度	130	118	112	123	117	106	119	92	92	68	71	96	1,244
16年度	94	75	87	86	92	100	100	103	112	109	96	124	1,178



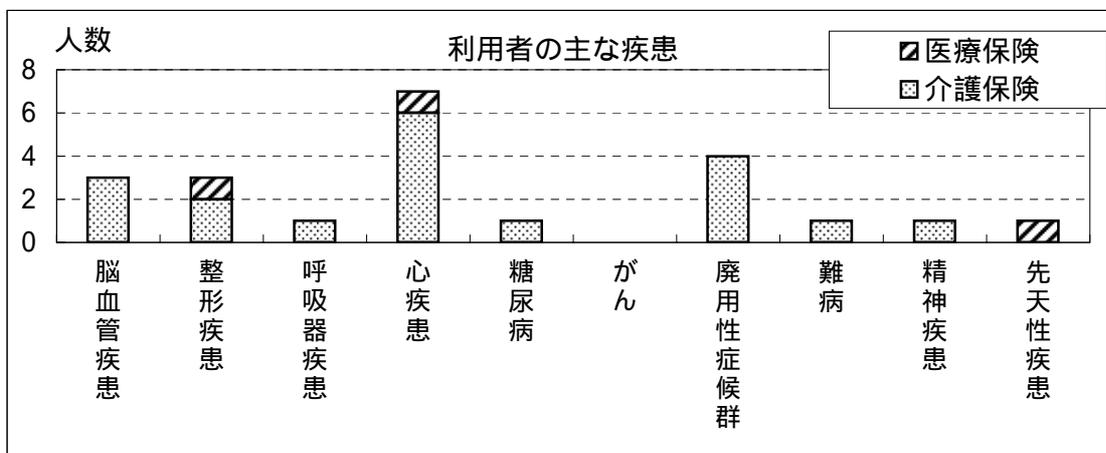
16年度訪問件数は前半減少がみられたが、後半に増加した。

(3) 利用者の状況

(ア) 主な疾患

(単位：人：%)

疾患名	介護保険	医療保険	合計
脳血管疾患	3		3 13.7%
整形疾患	2	1	3 13.7%
呼吸器疾患	1		1 4.5%
心疾患	6	1	7 31.9%
糖尿病	1		1 4.5%
がん	0		0 0.0%
廃用性症候群	4		4 18.2%
難病	1		1 4.5%
精神疾患	1		1 4.5%
先天性疾患	0	1	1 4.5%
合計	19	3	22 100%



(イ) 性別・年齢別状況

(単位：人)

年齢	性別		要介護度					医療
	男	女	1	2	3	4	5	
0～5歳		1						1
50～59歳		2					1	1
60～69歳	1	1	1			1		
70～79歳	3	2	2		1	2		
80～89歳		4			1	1	2	
90～99歳	2	5	1				6	1
計	6	15	19					3

8割以上が介護保険利用者

年齢が上昇するとともに、介護度が高くなっている

女性利用者が多く、高齢化がすすんでいる

医療には、発達遅延・片麻痺全身衰弱の症状がある

(ウ) 訪問看護の内容(重複あり) (単位：件)

内容	区分	介護	医療	計
病状の観察		19	3	22
精神面の看護		19	3	22
リハビリテーション		16	3	19
療養上の相談		19	3	22
保清		12	1	13
排泄介助		13	2	15
褥瘡予防・処置		15	1	16
処置		3	0	3
経口摂取介助		3	2	5
服薬管理		2	1	3
バルン管理		0	1	1
P E G 管理		1	0	1
在宅酸素管理		1	0	1

(エ) 新規利用者状況

(単位：人)

継続	14
新規	8

(オ) 新規利用者の紹介元

(単位：人)

ケアマネージャー	3
医師	5

本年は、肺炎予防のための口腔ケア・家人を含めたメンタルケア・褥瘡処置のラップ法の導入・離床の積極的な促し、個々にあった継続生活リハビリなどに努め、看護した。

9 調査・研究等

1 学生実習指導

大口町では、平成9年から尾北看護専門学校の地域看護学実習の場として、平成11年からは愛知県立看護大学の公衆衛生看護学実習の場として、保健センターを提供している。

介護保険導入とともに、在宅看護がますます叫ばれる現代、公衆衛生の視点を持った看護師、保健師を育成するため、地域で行われている公衆衛生看護活動を学ぶ場としている。また学生指導を通して、日々行っている保健活動を改めて見直す機会となっている。

学 校 名	養成課程	実習生数(人)	実習期間
尾北看護専門学校	看護師	3	9月21日～24日
		2	10月18日～22日
		2	10月25日～29日
		3	11月15日～19日
愛知県立看護大学	保健師	4	7月22日～29日

2 研究・発表等

実施年月日	内 容	場 所
平成16年 6月28日(月)	「健康日本21あいち計画」推進研修会にて 事例発表 「健康おおぐち21」策定及び推進について	産業貿易館 西館
8月21日(土)	木曽川町健康づくり推進員との交流会 大口町健康推進員活動及びOB会活動状況紹介 出席者:(木曽川町)33名 (大口町)19名	大口町 保健センター
平成17年 1月22日(土)	平成16年度愛知県公衆衛生研究会にて発表 健康おおぐち21の推進に向けて ～いろいろな機会をとらえた体力チェックより～	あいち健康 プラザ
2月28日(月)	滋賀県近江八幡市健康推進員との交流会 大口町健康推進員活動状況紹介 出席者:(近江八幡市)10名 (大口町) 46名	近江八幡市民 保健センター

実施年月日	内 容	場 所
2月28日(月)	愛知縣市町村保健師協議会業務研究発表会にて発表 「健康推進員活動を中心とした健康づくりの取り組み」	国保会館
3月22日(火)	一宮保健所地域保健福祉パイオニア育成研修会 「地域住民とともにすすめる健康づくり」 健康づくり推進員活動から学ぶー 大口町健康推進員活動について 健康推進員2名と共に発表	一宮保健所

あいち健康の森健康科学館総合センター発行

あいち健康プラザにおける指導の実際とその理論

「糖尿病予防教室」に事例として掲載される

「平成15年度ステップアップ糖尿病教室」事業報告及び事業評価について

保健活動のまとめ

平成17年6月発行

編 集 大 口 町 保 健 セ ン タ ー
丹羽郡大口町伝右一丁目35番地
電 話 0587(94)0051
F A X 0587(94)0052

発 行 大 口 町